

PLAIN SPONGE
CHOCOLATE SPONGE
STRAWBERRY SPONGE CAKE
FRESH WHIPPED CREAM
CREAM PUFF

RESTAURANT
MOVIE THEATER

NEURO/CD VOL.3

Tokyo NOVA The Detonation Flip/Flop Scenario Book/CD





NEURO/CD VOL.3

S. POLARIS

HYDRA

RESTAURANT
MOVIE THEATER

CONTENTS & INDEX

*最先端のアクトを、此処に

Read Me First

neuro/CD -Tokyo-neVA The Detonation-

■概説

本書は、(有) ファーイースト・アミューズメント・リサーチより発行中の『トーキョーN◎VA The Detonation』を扱った同人シナリオ集であり、インターネットを介したセッション、いわゆるオンラインプレイへの対応をコンセプトとしている作品です。

本書を遊ぶ為には『トーキョーN◎VA The Detonation』(以下、『TND』と表記)が必要です。また、同作品のサブリメントである、

『グランド×クロス The Detonation』(略号: GXD)
『カウンターグロウ (旧)』(略号: CG)
『ストレイライト』(略号: STL)
『クロニクル』(略号: TNC)
『マードーインク』(略号: MDI)
『ナイトウォッチ』(略号: NTW)
『ワールドオーダー』(略号: WOR)
『カウンターグロウ (新)』(略号: CGL)
『アウターエッジ』(略号: OTE)

などがある方が望ましいでしょう。

■本書の使い方

本書は既に『トーキョーN◎VA The Detonation』のプレイ経験のあるユーザー向けに書かれています。ゲームシステムやシナリオの読み方などは、『TND』の該当項目を参照してください。

●オンラインアクトガイド UTD

オンラインアクトの最先端について紹介し、そのノウハウなどを解説する。本シリーズの vol.1 においては、主にIRCなどをを用いたテキストオンセについて解説したが、今回は Skype をを用いた、音声チャットオンセについて主に取り扱っている。

●シナリオセクション

混沌の街に相応しい、個性豊かなシナリオを4本掲載。

付属のCD-Rに、コピー&ペーストして使えるシナリオのテキストデータなどが含まれているので、そちらも利用して頂きたい。尚、シナリオデータはあくまでも一例に過ぎないので、遊ぶ環境や好みに合わせて修正をして構わない。

シナリオ1: 矛盾 -Sword & Shield-

2人用シナリオ。避け得ぬ死の運命を前にした少女が、カタナとカブトに託した相反する依頼。果たして、彼女の真意とは?

シナリオ2: ラン・キャット・ラン

電脳と魔術の交差する街で、探偵は猫を探し、荒事屋はゴブリンを退治する。N◎VAならではのアストラルシナリオ。初心者にもお勧めのオーソドックスな内容だ。

シナリオ3: 顔なし女のこもりうた

ストリートの空気を色濃く描いたシナリオ。N◎VAの闇で暗躍する者、絡みとられた者。水底の街で、女は一人夢を見る。

シナリオ4: ニューロビート・ユビキタス

一人のニューロビートアーティストの死を引き金に起こる、N◎VAの在り方を変えるほどの大事件。この街を愛する人々に捧げるファンシナリオ。

●付属 CD-R

掲載シナリオを遊ぶアクトのプレイアビリティ(遊びやすさ)を向上させるデータを封入したCD-Rを付属しています。(使用方法などはp6の下部コラム参照)

CONTENTS INDEX

目次・前書き	02
オンラインアクトガイド UTD	03
シナリオセクション	07
シナリオ1: 矛盾 -Sword & Shield-	08
シナリオ2: ラン・キャット・ラン	20
シナリオ3: 顔なし女のこもりうた	30
シナリオ4: ニューロビート・ユビキタス	42
アベンディックス	57
後書き・奥付	60

オンラインアクトガイド UTD

0.2.G -Up to Date-

アサクサ最大のショッピングモール、ウェンズデイ・マーケットの中央広場に設置された巨大ホロ・ステージに、人だかりが出来ていた。人気モデルたちによるファッション・ショー。流行に敏感なニューロキッズたちが、自然に足を止め、ステージに釘付けになる。

「さて、本日の目玉。期待の新人モデルによる義体ファッションのプロモーションです。皆さまの美を「昼も夜も咲き誇らせる」サキ・ニチャが提案する、新たなニューロ・アバンギャルド・ファッション。テーマは、『^{ハイランダー}天空』

ステージの照明が落とされ、暗闇の中に、疑似的な天の川が投影される。煌めくレーザーライトが交差する夜空の舞台に躍り出たのは、鮮やかなオーロラ色の髪をまとった絶世の美女だった。

「貴方の理想の姿をコーディネートする、全身義体という全く新しいファッションの形。そのヘアーは、疑似乱数によって変化する電脳オーロラ・カラーリング。付属のホロ・ショールは、軌道エレベータ『ユグドラシル』に設置されたカメラによるリアルタイムの銀河が投影され、災厄前の神秘に心を奪われます」

優雅なウォーキング。動作ギミックによって作り出された、重力を感じさせないターン。舞い上がった髪が、布が、アクセサリが、夜空に浮かぶ天体のように幻想的に煌めく。

その美しさに、会場が歓声に包まれた。シャッターを切るトーキーたちに投げキスを飛ばす彼女の姿が、明日のファッション雑誌のトップを飾るのは間違いないだろう。

「なにアレ、すごいニューロ!」

ステージに見入っていた学生たちの集団が、口々に感想を言いあう。
「ファッションもすごいけどさ、あのモデル、かっこよくない? ターンの動きとか超キレイ。アタシも義体に入ったらあんな動きできるのかなあ」
「でも義体とか、私ら学生には手出ないっしょ。……ん、どしたの、芹佳。ボーとして!」

「……え。あ、うん、ごめん。ちょっと見とれてた」

夢から醒めたような様子で答えたのは、見るからに内気そうな少女だ。
「ま、芹佳には関係ないか。アンタ、ファッションとか縁が遠い地味娘だもんね」
「……そう、だね」

彼女たちは知らない。あのモデルが、目の前にいるCD娘が遠隔操作している義体である事を。芹佳は片手間で義体を探ったまま、自分の事を小馬鹿にする級友たちの背中を小さく嘲笑った。

幕の終わり。モデルは、指先から彗星のように光を走らせ、夜空に文字を描く。
“人はファッションで、^{ハイランダー}輝く星に変わる”

それが、華やかなファッションモデル業界の最前線に燦然と舞い降りた“極星”セリカ・ポーラスターの、華麗なデビューショーであった。

PART1: ONLINE ACT GUIDE UTD



On-Line Act Guide Up to Date

オンラインアクトガイド UTD

Know-how Now.

Neuro/CD -Tokyo neVA The Detonation-

オンラインアクトガイド

『Neuro/CD vol.1』をお持ちでない方のために、本誌付属のCD-Rに同内容のPDFを収録している。

通信状況が良くない場合

使用している Skype のバージョンが参加者間で違っていると、通話が上手くいかないことがある。その場合は最新版に更新しよう。

プレイ中に通信状況が悪化した場合、一旦通話を切断し、再度繋ぎ直すと改善する場合が多い。休憩時間を定期的にとり、その度に通信を切り、繋ぎ直すとよいようだ。

やあ、お友達。充実したN◎VAライフを満喫しているだろうか？

このくだりも二度目になる。『Neuro/CD』シリーズの vol.1 にて、時間や距離などの障害があって中々アクトを遊べない方々の為に、インターネットを介した“オンラインアクト”について紹介したオンラインアクトガイド(*)だが、3年という時間が過ぎ、その情報もやや古くなった。

今回は、オンラインアクトの“今”に焦点を当てて、現在主流になりつつある「Skype アクト」を中心について解説していく。尚、既にオンラインアクトの“最先端”^{アウトターエッジ}でバリバリ遊んでいる諸君らにとっては、それこそ“CD な”常識の内容ばかりになるかもしれない。その場合はさっさと読み飛ばして、掲載シナリオを楽しんでくれ。

■Skypeアクト

Skype™(スカイプ)とは、マイクロソフト社の Skype 部門が提供する、P2P 技術を利用したインターネット電話サービスの事だ。Skype ユーザー間での通話は無料であり、多人数での同時通話ができる、通話と同時にテキストチャットのやり取りができるなど、オンラインアクトにうってつけの機能が揃っている。公式ホームページ(<http://www.skype.com/>)より最新版のソフトをダウンロードし、アカウントを登録して、音声通話用にマイクやヘッドセットを購入すれば、誰でも簡単に使用する事が出来る。

これを利用すれば、煩わしい文字入力を行う事無く、実際に集まって行うアクトとほぼ変わらない環境でアクトを楽しむ事が出来るのだ。

●Skypeアクトの遊び方

Skype アクトを遊ぶ為には「グループ通話」機能を用いる。この機能を使うには、グループ通話のホストが参加者全員の「連絡先」を登録しておく必要がある。アクトをセッティングした人か、

あるいは RL がホストとなるといいだろう。あとは「グループに発信」ボタンを押せば、通話が開始できる。

顔が見えないので、誰が話しているのか分かり辛いときがあるかもしれない。その場合、今喋っている人のアイコンが点滅するので、それを確認するとよい。

グループ通話をする際、IM(インスタントメッセージ)画面も一緒に開いておくこと。ここに調べられる情報項目の一覧や、調べた情報の内容などを流したりする事で、わざわざメモを取らなくてもログを見かえすだけでよくなる。

●アクト前の事前準備

Skype アクトにおいても、快適に遊ぶ為には、やはり事前準備が重要になってくる。

▼プレレアクト

アクトトレーラーやハンドアウトの開示、枠の振り分け、キャストの作成などには時間がかかるため、これらは Skype アクトとはいえど、やはり事前に行った方がいい。事前の打ち合わせには、全員が参照可能な掲示板や SNS コミュニティなどを利用すると便利だ。

なお、キャストの作成やキャスト間コネの取得などは、他のプレイヤーや RL と Skype 通話で相談しながら行っても楽しいだろう。

▼通話環境確認

Skype はインターネットを経由した通話であるため、回線の混雑や相性などで通話がうまく繋がらない、あるいは頻繁に切れるなどということが起こりえる。(*)

できれば、アクト当日より前に一度集まり、通話環境の確認を行った方がいい。当日も時間ギリギリに集まるのではなく、早めに集合して通話が上手くいくかを再確認しよう。

▼トランプ・ニューロデッキ

トランプやニューロデッキの準備に関しては、IRC アクトと同様だ。トランプはプレイヤー各

自が1デッキずつ手元に準備し、判定に使用したカードだけ自己申告する方法が早い。(*)

ニューロデッキはRLがめくり、シーン開始時にシーンカードを開示すること。できればこれも、声で宣言するだけでなく、IM画面に文字情報として残しておく事をお薦めする。(*)

なお、後述する「どどんとふ」などのツールを使用するのもよいだろう。手元での管理に比べて時間はかかるが、使ったカードやプロット状況、現在のシーンカードが視覚的に共有でき、臨場感が出る。

▼判定に使用するデータの書きだし

判定に使うデータ(技能の組み合わせや使う装備など)は口で読み上げるだけでなく、IM画面に書き出すようにするとよい。情報が文字として残ると、わざわざどんな判定をしたのかを聞き返すことなく、リアクションを行ったり、処理を進めることができるからだ。

コピー&ペーストですぐ示せるように、メモ帳などに書き出しておくと良い。

●IRCアクトとSkypeアクトの使い分け

Skypeアクトは、とにかくスピーディに遊ぶ事が出来る。今までのIRC(テキストチャット)アクトで最もネックだった「時間がかかる」という欠点が排除され、より手軽にオンラインアクトを遊ぶことが可能だ。

しかし、IRCアクトにもまた、Skypeアクトには無い魅力がある。それは、「ログが残る」という事だ。ログが残るという特性の利点は、楽しかったアクトの記録を残せる、という事だけに留まらない。一つのチャット画面に、参加者が各々のキャストのセリフや演出を刻みこんで行くことは、「みんなで一つの作品を作り上げている」という感覚を持たせてくれる。すると、各自の演出にも熱が入り、自然とカッコいいシーンが生まれやすくなるのだ。更に、時間がかかるという欠点も、裏を返せばカッコいい演出をじっくりと考えることが出来るという利点にもなり、これもまた、アクトの「作品としての」完成度を高める事に繋がりがやすいのだ。これらのIRCアクトの特性は、映画を撮る感覚で遊ぶN◎VAというゲームには非常に相性がいいのだ。

筆者は、リプレイを取るときなどの、腰を据えてじっくりといい作品を作りたい時にはIRCアクトを使い(昨年、当サークルが製作・頒布したリプレイ『グッバイ、ヒューマニズム』も、IRCアクトで行われている)、手軽にアクトを楽しみたい時にはSkypeアクトを使うというように、2つのオンラインアクトを使い分けている。(*)

●音声とテキストの併用

実のところ、多くのTRPGでのオンラインプレイにおいては、1つのセッション中にSkypeによる音声チャットと、テキストチャットを併用するやり方が一般的なようだ。その方法は、ロールプレイや判定はテキストにて行い、プレイヤー間の相談や雑談、ルールの質問などは音声で行う、というものだ。双方のいい所取り、という感じだ。

N◎VAのオンラインアクトにおいても、その方法は可能だろう。しかし、(これはあくまで筆者個人の感想だが)N◎VAにおいてはそのプレイスタイルは中途半端になってしまいやすい印象を受ける。N◎VAのロールプレイは「物語の演出」という側面が強い。しかし、テキストで演出をする際、音声会話に気をとられて、なかなか手が進まなくなる気がするのだ。(*)

■便利なツール

近年はTRPGのオンラインプレイもどんどん盛んになって来ており、それらを支援するツールなども数多く登場してきている。ここでは、N◎VAのオンラインアクトを行う上で便利なツールをいくつか紹介する。

●どどんとふ

「どどんとふ」とは、たいたい竹流氏の開発したTRPGオンラインセッション統合ツールだ。ウェブブラウザ上で動作し、マップやキャラクターの表示、ダイスロールやチャット、更には動画やBGMの共有、リプレイ再生機能など、オンラインセッションにあると便利なあらゆる機能を備えている。近年、最も多く利用されているオンラインセッション会場だろう。

「どどんとふ」はN◎VAにも対応している。トランプが引けるだけに留まらない。なんと、ニューロデッキを引く事が出来るのだ。サーバーの混み具合によってはプレイ速度がやや遅くなることはあるものの(*),アクトを遊んでいるという臨場感を得られ、非常に便利だ。

公式サイト【どどんとふ@えくすとリーむ】

<http://www.dodontofo.com/>

●キャストプロフィールデータベース

オンラインプレイの際、RLや他のプレイヤーに提示するために、キャストのデータを登録するデータベースだ。MASASHIGE氏の製作したデータベースは、閲覧性が良いだけでは無く、キャ

トランプの処理方法

シナリオのギミックなどの都合でしっかり札のやりとりを把握したい場合は、使用した札をIM画面に書き出したほうがいいだろうが……いちいち使用した札を書き出すのはかなりの手間だ。

Skypeアクトの最大の利点である「手軽さ」を生かすためにも、なるべく軽い手段を取ることをお勧めする。

シーンカードの書き出し

本誌付属のCD-Rに、シーンカードの入力に対応した辞書ツールを収録している。

IRCとSkypeの使い分け

もちろん、IRCでは気軽に遊べない、とか、Skypeはじっくり遊ぶには向かない、ということを書いているのではない。

手が進まなくなる気がする

遊んでいる仲間や環境、趣向、シナリオなどとの相性もあると思うので、あまり善否にはしないいただきたい。

どどんとふ：プレイ速度

自分の保有する、あるいはレンタルしているサーバーにどどんとふを設置する方法もある。これであれば、混み具合などをあまり考えずに快適に遊ぶことができるだろう。

公式サイトにて、詳しい方法やサポートがなされているので、是非とも利用してほしい。

ストの能力値や使用経験点などを自動で計算してくれる、キャスト作成の支援ツールとしても非常に役に立つ。特技のレベル設定やスート埋めが、スートをクリックするだけで行えるのも嬉しい。

【キャラクターシート倉庫：MASASHIGE 氏】
http://character-sheets.appspot.com/

●Skype録音ツール

Skype 通話を録音するツールを使えば、楽しかったアクトの記録を音声データとして残しておくことができる。後で聞いて楽しんだり、そこからリプレイを起こす事も可能だ。

録音ツールは、Web 上でフリーソフトとしていくつか公開されている。有名なのは「Tapur」だろう。他にもいくつかあるので、自分の環境に合う物を探して欲しい。

■メンバーの募集

遠く離れた場所にいる人、見知らぬ人もゲームを共に出来るのが、オンラインアクトの魅力の一つだ。最近は twitter などを使ってアクトのメンバーを募集する方法も普及してきている。

ただし、漫然と募集をかけても、人は集まりにくい。募集をかける際には、以下の点に気をつけるといいだろう。

▼シナリオ内容は事前に決めておく。

事前にアクトトレーラーやハンドアウトを見て、シナリオやアクトの雰囲気などを提示しておく、興味を引きやすい。

▼開催日時を明確にする。

オンラインアクトにおいて、参加者の日程的な都合を調整するのは非常に大変だ。日時を明確にしないままメンバーが決まってしまうと、結局日程の都合がつかず、アクト自体が流れてしまう事が少なくない。日時は必ず始めに決めておくこと。

▼何人か、事前に参加者を決めておく。

不特定多数に対して募集をかける場合でも、できれば一人は、事前に知り合いの中から参加者を決めておく方が良い。既に参加者がいるという安心感は、他の人の参加も促しやすくなる。

▼twitter の RT 拡散による募集 (*)

近年急速に広まっている、不特定多数に対する募集方法だ。自分の発言を RT (リツイート) して貰うことにより、より多くの人に対して募集をかけることができる。その場合、システム名、日時、プレイ環境、シナリオ内容などを記しておく。

RT 拡散による募集

全く見も知らぬ方と遊ぶことになるかもしれない。気の置けない友人たちと遊ぶ場合とは違い、コンベンションなどで遊ぶ感覚に近い。マナーやネチケットをいつも以上に意識して臨むこと。
不安も多いとは思いますが、いろんな人と遊べるのがオンラインプレイの魅力でもある。

付属 CD-R の使い方

本同人シナリオ集シリーズで毎度ご好評を頂いている付属データ CD-R だが、今回は今までに増して、その内容を充実させている。
ぜひ、アクトのプレイアビリティ (遊びやすさ、快適さ) の向上に役立てていただきたい。

●環境別敵ゲストデータ

先日発売されたサプリメント「アウターエッジ」の導入により、N◎VA の環境はよりエッジに、楽しく、そして過激になった。今までと同じ経験点を使っても、今まで以上に強いキャストが作れるようになったし、当然、それに合わせて敵ゲストも強くなる傾向が出てきた。

本シナリオ集に収録されている敵データは、基本的には全て、この「[OTE] 導入環境を想定したもの」である。しかし、これだと初心者が遊びづらくなったり、遊ぶ環境によってはバランスがとり辛くなる可能性がある。

このため、付属 CD-R の各シナリオデータフォルダに、環境別敵ゲストデータファイル (PDF 形式) を用意した。収録されている環境は以下の 2 つだ。

▼達成値 25 環境

敵ゲストが単独で出せる達成値の最大が 25 になるように調整されたデータだ。他のゲストのサポートなどで達成値が 25 を超える場合があるが、その場合、高くても 28 を超えないように作っている。

この環境で遊ぶ場合、キャストも同じ条件で作成してもらうといいだろう。ちなみに、「[OTE] 導

入環境でも、使用経験点が 0 ~ 50 程度であれば、このデータを使用すると丁度いいかもしれない。

▼メイクアップ環境

初心者を手先で遊ぶ場合や、メイクアップでキャストを作成する場合、あるいは 0 経験点のキャストが多い場合などに合わせたデータだ。敵ゲストが単独で出せる達成値の最大は 21 に調整されており、防御力やダメージなどのデータもかなり低めに設定してある。

●タブレット端末用閲覧ファイル

近年、アクトに iPad をはじめとするタブレット端末を利用する機会が増えてきた。アクトに持っていく荷物を軽量化するために、ルールブックやサプリメント類を自炊 (スキャンして電子データ化すること) して導入する人が増え、同様にシナリオも印刷するのではなく、タブレット端末に入れて持ち歩く人も増えてきた。(筆者もその一人だ)

この為、本誌収録のシナリオは、タブレット端末での表示に最適化された閲覧用ファイルを用意してある。PDF 形式なので「GoodReader」などの主要なファイル閲覧ソフトで気軽に見ることが可能だ。本文と情報項目、敵ゲストデータなどはファイルを分けているので、多重窓 (タブ) で開いておけば、逐一情報を探し出さなくて済むので便利だろう。

シナリオのイラストも、タブレット端末で表示しやすい形式のもの (JPG と PDF の 2 種類) を収録している。ぜひ役立てて頂きたい。

●シナリオ別レコードシート

これは、普段筆者が RL をする際に、いつも準備をしているものだ。レコードシートは、実際にはあまり使わない項目 (※銃弾の管理表など) などもあるため、これらを削り、レイアウトをやや改造してシナリオの情報 (アクトトレーラー、ハンドアウト、PS など) をあらかじめ書き込んだものを PL に配っている。これが中々好評なため、今回収録したシナリオに対応したこのレコードシートを、CD-R に収録している。よければ、使ってみてほしい。

尚、レコードシートは自己使用にのみ複製が認められている。実際に遊ぶプレイヤーに配る以外の用途では使用しないように。

●以前から収録しているもの

簡単にシナリオ編集やコピー＆ペーストができる「テキストデータ (TXT)」、アクト中の情報項目の管理に役立つ「情報項目カード (PDF)」、プレイヤーに配布するシナリオ情報を記載した「プレアクトシート (PDF)」、オンラインでの打ち合わせの際に役立つ「プレアクト情報ページ (HTML)」などのファイルは、全て今回も引き続き収録している。また N◎VA でよく用いる用語などを簡単に交換できる IME 辞書、「[Neuro/CD vol.1]」で収録した記事「オンラインアクトガイド」も収録している。

なお、全てのデータは再配布、無断コピーは禁止している。自己使用の範囲に限って使用すること。

シナリオセクション

Scenario section

本セクションにはシナリオが掲載されているので、R.L以外は読まない事をお勧めします。
プレアクト情報に関しては、R.Lから配布される「プレアクトシート」を参照してください。

「ああもう、どうしてこうなっちゃうのよ!」

物陰に隠れつつ、彼女はぼやく。

本来なら、今頃は部屋で昼寝でもしているはずだった。

先日壊滅させたシンジケート残党が違法取引を行なうとの情報を得て上司が命じたのは、機動捜査課の出勤に合わせ取引現場に急行、表に出てはまずいデータチップを回収するだけの簡単な仕事。途中お節介な同僚につまみかける場面もあったが、それもいつもの調子で出し抜いて。手際よくデータチップを回収し、あとは持って帰ればそれで終わり……の、予定だったのだが。

入手したデータを確認しようとした途端、チップに仕込まれたトラッププログラムが起動。600秒後には、彼女がこの街に存在している、という証拠がすべて消し去られていた。元々この取引自体が、組織の復讐として彼女たちを陥れるための罠だったのだろう。市民IDは凍結され、IDをキーとした総てのアクセス権は使用不能。今の彼女は、社会的に見ればなんの後ろ盾もないXランク市民に過ぎない。頼りの機動捜査課は遅れていて、ビズを邪魔された悪党どもは銃を片手に迫ってきている。

「絶体絶命、ってヤツかなあ」

さすがにどうしようもない、と諦めかけたその時。

「やっとな見つけたぞ。まだ生きてたな、この性悪娘」

「……キョウ!？」

銃弾を磁力盾で弾きつつ現れたのは、出し抜いたはずの同僚。いつもの真面目ぶった表情に呆れを浮かべ、銃弾の雨を捌きつつ彼女に手を伸ばすその姿を目にしたとき。思わず口をついて出たのは、悪態だった。

「ア……アンタ、バカなの? 死ぬの? いくら“至誠官”って呼ばれてるって言ったって、お人よしにも限度があるわよ! 大体、ID凍結されてるXランク市民を助けるハウンド警官なんてどこにいるのよ!」

だが、その叫びに答えたのは、やはり呆れたような、しかし落ち着いた声。
「ここにいるし、僕がウェットなの知ってるだろ。データを直接読めないんだからXランクかどうかなんて今はわからないし、この目で見る限り、今僕の目の前にいるのは同僚だろ」

およそ公務員としては失格もいいところの言い分に、最後の一言が続く。

「第一、ここは僕の街だ。護るものくらい、自分で決めるぞ」

その言葉に、彼女はふ、と息を吐く。

そして、ほら行くぞ、と飛び出していく背中に向かって。

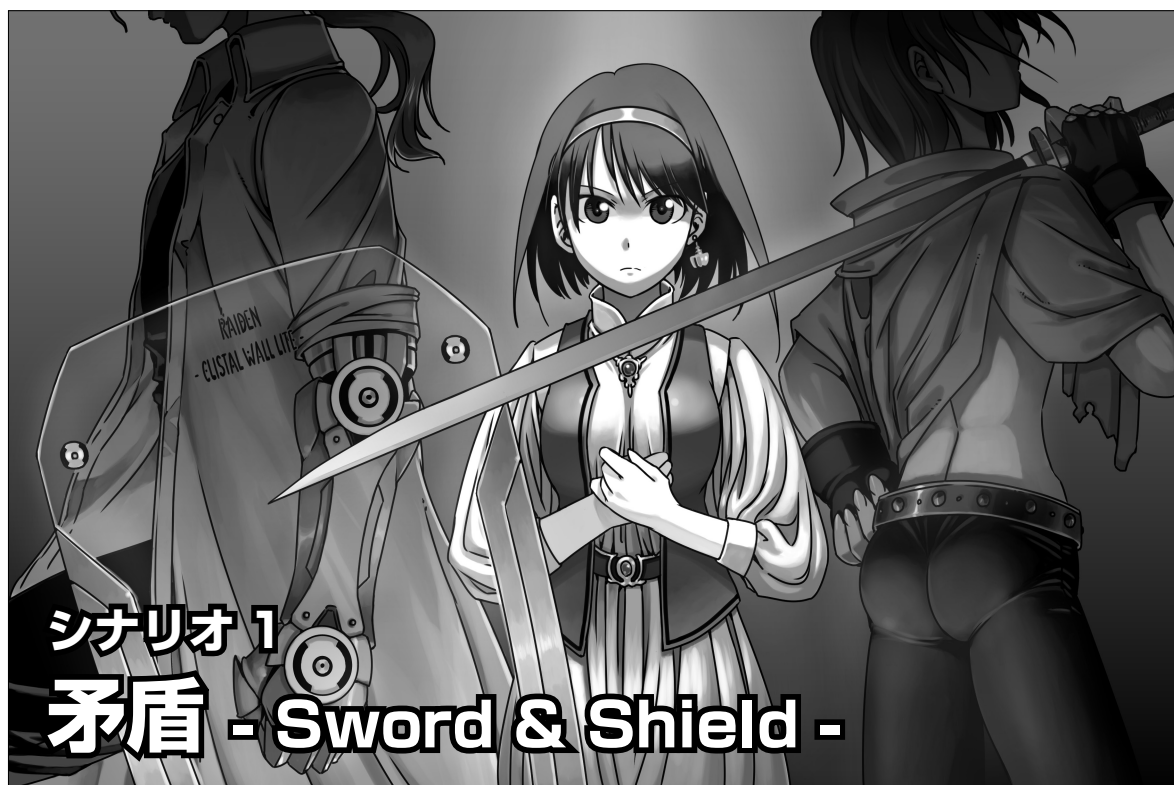
「ちょっと待ちなさいよ! バカ! ……あんたの、そういうところ」

追いかけるように駆け出しながら。

気づいてないかもだけど、と心の中でだけ前置きして、呟いた。

「もう一人の“しせいかん”にそっくりよ」





シナリオ 1 矛盾 - Sword & Shield -

プレアクト情報

◎ ◎ ◎
Preact Info.

本シナリオについて

このシナリオは、2人専用という非常に珍しいものだ。人が中々集まらないとき、少ない人数で遊べる事は非常にメリットになるだろう。

しかし、2人用シナリオは遊んだ感覚が普段のシナリオとはかなり異なったものになる。人数が少ないから「軽い」と思いがちだが、そうではない。実際にはもっと、密度の濃いプレイになるだろう。

しっかりと心の準備をしたうえで、アクトに望んでもらうこと。

■シナリオ情報

▼推奨プレイ環境

テキスト、Skype、オフのいずれにも対応。
やや時間が長くなるので、Skype、オフ推奨。

▼プレイ時間

4～6時間（テキストの場合、9～15時間）

▼プレイヤー人数

2人固定

▼シナリオ傾向

2人用シナリオ、ストリート、叙情的

●レギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：20～100点程度を想定

最大達成値：20台後半

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

全てを諦めた顔で、少女は言った。
「私を、殺してください」と。

全てを蔑んだ顔で、少女は言った。
「私を、護ってください」と。

だからカタナは剣を取り、
だからカブトは盾を取る。
舞台の上では綺麗な舞踏。少女と踊る死の舞踏。
剣と盾とが打ち合って、そこに現れるものは何？

トーキョーN◎VA The Detonation
『矛盾 -Sword & Shield-』

泣きそうな顔で、少女は言った。
「そんな運命、私は、いない」

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●推奨スタイル

- ①『カタナ』：殺し屋
- ②『カブト』：ボディガード

●キャスト間対立

本シナリオは2人用である。しかも、カタナとカブトという相反するスタイルの2人が、一見対立したような状況下でストーリーが始まる。N◎VAならではの、ギスギスとしたキャスト間対立の雰囲気演出するにはもってこいだ。

しかし、最終的には2人が協力して真の敵を倒すことになるだろう。対立の演出を楽しむのは良いが、プレイヤー間はしっかり協力し合うこと。

●必要な神業

《難攻不落》には使用想定シーンが存在し、それ以外にキャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、1個の防御系神業が必要だ。

なお、プレイヤーが2人であることから、神業の遊びはかなり少ない。神業構成次第では、プレ

イヤーの望む結末が得られないといった事態に落ちる可能性がある。キャスト作成はしっかりと相談をしながら行ってほしい。（*）

●情報収集について

プレイヤー人数が少ないため、2人ともが情報収集をしっかりと行える必要がある。キャスト作成の折には、〈社会〉〈コネ〉技能は推奨である3レベル以上を必ず取得するようにしよう。

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：N◎VA〉〈社会：ストリート〉〈社会：テクノロジー〉、あるいはそれに準ずる〈コネ〉などである。（*）

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネはお互いが交換する形で取得すること。

神業構成と結末

結末を知る RL は、キャスト作成段階で口を挟みたくなるかもしれない。だが、できれば RL は神業構成に口出しをしないで頂きたい。

プレイヤーたちの選択で描かれる結末にこそ、意味があるのだ。

情報収集について

本シナリオの情報収集は、プレイヤーが少ないので厳しくなりがちだ。代用判定などは、積極的に認めるようにしよう。

No.1:Cast Make Guideline

推奨設定：殺し屋。所属は問わない
追加設定：特になし

このシナリオでは、貴方はシナリオタイトルの通り、矛盾を抱えることになるかもしれない。

カタナとしてのスタイルを確固として持っているキャストを推奨する。カブトワリなどでの代用はお勧めしない。

▼特記事項

・特になし。

推奨スタイル：カタナ

SCENARIO HANDOUT

コネ：ロシア

推奨スト：理性

依頼があれば誰だって殺すのが商売だが、こんな依頼人に会ったのは初めてかもしれない。不治の病に侵された少女は、全てを諦めた顔でキミに言った。私を、殺してください。と。

条件は2つ。殺されたことが、誰にでもわかる状態で殺すこと。そして、殺されたことが、誰にでもわかる場所で殺すこと。奇妙な依頼人の、奇妙な依頼。だが、そこから伝わる必死の願いに、あなたはいつしか頷いていた。

【PS：ロシアの願いを叶える】

No.2:Cast Make Guideline

推奨設定：ボディガード。所属は問わない
追加設定：特になし

このシナリオでは、貴方はシナリオタイトルの通り、矛盾を抱えることになるかもしれない。

カブトとしてのスタイルを確固として持っているキャストを推奨する。マヤカシなどでの代用はお勧めしない。

▼特記事項

・《難攻不落》には使用想定シーンが存在する。

推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：ロシア

推奨スト：理性

依頼があれば誰だって護るのか商売だが、こんな依頼人に会ったのは初めてかもしれない。不治の病に侵された少女は、全てを賭けた顔でキミに言った。私を、護ってください。と。

条件は2つ。拘束期間は、原因に関わらず彼女が死亡するまで。そして、護られていることが、誰にもわからないように護ること。奇妙な依頼人の、奇妙な依頼。だが、そこから伝わる必死の願いに、あなたはいつしか頷いていた。

【PS：ロシアの願いを叶える】

RL用テキスト

Text & Ruler

■ストーリー

『カタナ』そして『カプト』の前に現れた依頼人、ルシア。自身の殺害と護衛、不治の病に侵され、残り少ない命を弄ぶかのように、相反する依頼をする彼女の真の目的は、自身の死が白日の下にさらされることにあった。

ある河渡系組長の隠し子として生を受けた彼女は、しかしその立場の難しさと病から、ひっそりと死んでゆくことを選ぶ。だが、彼女の主治医であり、裏社会とつながりのある男、“振り返れば奴がいる”司馬紅太郎は彼女の立場を利用し、自らが成り上がることを画策していた。

彼女の死後、手懐けたヒトニ（殺した人間と成り変わるヒルコ的一种）を彼女と入れ替わらせ、組長に接近し、そして己を認めさせ、いずれは組を乗っ取るその計画は、しかし偶然、その一部が

ルシア本人の知るところとなる。

今までひっそりと生きてきたことを無駄にしないためにも、父を頼るわけにはいかない。ならば、自らが釈明のできない状況で死亡し、その事実が公表されれば、誰にも己の死を利用することはできなくなるはず。そのために、『カタナ』と『カプト』を、自身の最後の時間を共に過ごす剣と盾として選んだのだ。

本シナリオは、キャストたちが司馬の陰謀を打ち破り、ルシアの死を見届けることができれば終了となる。(*)

■クライマックスへの条件

事件の裏に司馬がいることをキャストたちが確信し、司馬と“エインセル”を迎撃することを決めたならクライマックスへと突入する。

オープニングフェイズ

Opening Phase

●カタナ：少女は求める、最強の矛を

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『カタナ』のオープニング。ルシアが訪れ、自分を殺害してくれるように依頼する。(*)

◆描写

その日、キミの行きつけの店に現れたルシアと名乗る少女の奇妙な依頼。

それは、自分を誰にでもわかる場所で、誰にでもわかるように殺してほしい、というものだった。

依頼の内容もそうだが、それ以上に奇妙なのは彼女の表情だ。

感情のうかがい知れない、すべてを諦めたような……けれど、単なる自殺志願には思えないその表情が、キミにはなぜか気になった。

▼セリフ：ルシア

「あなたが『カタナ』さんですね。凄腕の殺し屋だとお伺いしました。ひとり、殺してほしい人間がいるんです」

「標的は、ルシアという女性。……私です。明日からならいつでもいい。ただし、条件がひとつ」

「必ず、殺されたことが誰にでもわかる場所、誰にでもわかる殺し方で……万が一にも、生きています、なんて思う人がいないように殺してください」

「それと、私の命はもう長くない……病気、なんです。だから、必ずその前に終わらせて」

「報酬は前金で1ゴールド。成功報酬は1プラチナム。私の生体反応がなくなったら追加報酬がおりるようにしておきます……受けて、もらえますよね？」

◆結末

「……ありがとう。あなたの腕、信頼しています」

『カタナ』が依頼を受けると、それだけ告げてルシアは去ってゆく。彼女は結局、一度も表情を変えすることはなかった。

【PS：ルシアの願いを叶える】を渡し、演出を確認してシーンを終了すること。

死を見届けることができれば

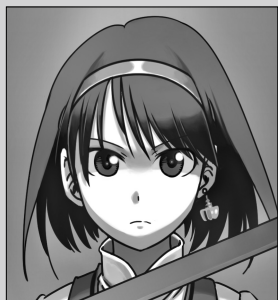
本シナリオは、基本的にはヒロインが死亡する事を前提として書かれている。詳しくはエンディングの項目を参照して欲しい。

自分の殺害依頼

ルシアにこの奇妙な依頼の詳しい理由を尋ねても、明確な答えは帰ってこない。

ルシアは、陰謀の黒幕の正体や詳しい内容を知っているわけではなく、確証情報も何も持っていないため、自分の死を利用しようとしている何者かがいるのではないかという疑いを口に出せずにいるのだ。

詳しく知るには、リサーチを進めてもらう



ルシア

ミストレス、マネキン◎、トーキー●

▼解説

「あなたの腕、信頼しています」

ストリートの少女。あるストリートの大物と愛人の間に生まれた娘であるが、生来病弱でありベッドを離れられない生活を送ってきた。なお母親が彼女を生む前に父親である大物の元を離れたため、父親は彼女の存在を知らない。

死んだ母が遺した金を頼りに暮らしてきたが、シンデレラ・シンドロームを罹患。自分の残り時間が短いこと、そしてそれを利用しようとしている何者かがいることを知り、その陰謀を砕こうとして今回の依頼を行った。

●カプト：少女は求める、最強の盾を

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『カプト』のオープニング。『カプト』のもとにルシアが訪れ、自分を護衛してくれるように依頼する。

◆描写

その日、キミの行きつけの店に現れたルシアと名乗る少女の奇妙な依頼。

それは、護衛されていることが誰にもわからないように、護ってほしい、というものだった。

依頼の内容もそうだが、それ以上に奇妙なのは彼女の表情だ。

キミではない誰かへの蔑みもあらわな、けれど、その奥に悲しみを秘めたようなその表情が、キミにはなぜか気になった。

▼セリフ：ルシア

「『カプト』さんですね。あなたを腕利きと見込んで、依頼があるんです」

「私を護ってください。明日から、どんな理由にせよ、私が死ぬまで」

「安心してください、そう長い仕事にはなりません。」

「私はもう長くありません……病気、なんです」

「条件がひとつあります。護衛されていることが、誰にもわからないように……難しいかもしれませんが、一流と言われるあなたなら可能はず」

「報酬は前金で1 ゴールド。終了後に1 プラチナム。私の生体反応がなくなったら追加報酬がおりるようにしておきます……受けて、もらえますよね？」

◆結末

「……ありがとう。あなたの腕、信頼しています」

『カプト』が依頼を受けると、それだけ告げてルシアは去ってゆく。彼女は結局、一度も表情を変えることはなかった。

【PS：ルシアの願いを叶える】を渡し、演出を確認してシーンを終了すること。

リサーチフェイズ

Research Phase

●カタナ：もうひとつの影

条件：リサーチ最初のシーン

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉 10

◆解説

『カタナ』がルシアを狙っている時、自分以外の殺気を確認するシーン。その殺気は確実にルシアに向かっているが、周囲にはエキストラしかおらず源を確認することはできない。(*)

◆描写

依頼通り、ルシアという少女を狙うためストリートにやってきたキミは、雑踏の中で嗅ぎなれたにおいを感じた。

キミと同じ血と殺意の、誰かを狙う殺し屋のにおい。いや、キミにはわかる。このにおいの主は、キミと同じ相手を。ルシアを狙っている、と。

◆結末

だが、出所を探すキミの目に映ったのは、街の雑踏だけだった。このシーンのあと、〈殺気の主〉についてリサーチ可能となる。

●カプト：シンデレラのように

条件：「●カタナ：もうひとつの影」の直後

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉 10

◆解説

『カプト』とルシアが街を歩くシーン。

シーンの最後にカプトに目標値 18 の〈知覚〉判定を行わせること。成功すれば、彼女のつけている

イヤリングに盗聴器（『TND』p268）が仕掛けられていることがわかる。【ルシアのイヤリング】の情報を開示すること。

◆描写 1

本来、出歩かない方が護衛はしやすい。だが、ルシアはなぜかキミを連れて街を歩くという。

その表情こそ変わらないものの、足取りはどこか弾んで見える。キミにとっては何の変哲もない街並みを、自分の中に刻み込むように進む姿。

それは彼女自身の言うとおり、残り少ない命に思い出を作るため、なのだろうか。

▼セリフ：ルシア

「『カプト』さんは、この辺りにはよく来るんですか」

「私は、以前はベッドの上にいることが多かったので……色々なものが珍しいんです」

「もうすぐ失ってしまう景色ですから。すみませんが、お付き合いくださいぬ」

◆描写 2

街を歩き、ウィンドーショッピングを楽しみ、ちょっとした買い食いをする。そんななんでもないことを、一つ一つ確かめるようにする彼女。

ふと、彼女の横顔を見る。耳に光るイヤリングに、キミはふと違和感を感じた。

（※〈知覚〉判定を行わせる。成功した場合）

彼女のイヤリングが、ほんのわずかが点滅している。……盗聴器だ！

◆結末

ある程度会話をしたら、シーンを終了すること。

殺気の確認はできない

これは、「エインセル」が〈有象無象〉を使用して登場しているためだ。殺気に気づかれた後、「エインセル」も『カタナ』の存在を確認し退場する。

なお、「カタナ」が知覚を試みた場合、〈隠密〉〈透明化〉で対抗すること。

このシーンの目的は、自分の他にルシアの殺害を狙うものかいる、ということを示すことである。一通り演出を行なった、すぐにシーンを閉じるとよいだろう。

盗聴器

〈知覚〉の判定に失敗すると、なにも見つからない。ただし、次のRLシーンで盗聴されているであろうことは、プレイヤーに公開される。

盗聴器は見つけても見つからなくても、ストーリー進行に影響はない。だが、プレイヤーがどうしても見つけておきたいのであれば、再度判定をさせてもよい。

黒幕の正体

このシーンでは、司馬のペルソナがレッカーである。プレイヤーに聞かれた場合、そう答えること。

●RLシーン：アンダー・ダーク

条件：「●カブト：シンデレラのように」の直後

登場：キャストの登場不可

◆解説

黒幕である、司馬と“エインセル”の会話。なお、このシーンでは黒幕の正体は明かさない。（*）

◆描写

その部屋で、男はひとり、椅子に座っていた。
DAK 画面に映る月並みな医療ドラマだけが、ちらつきながら部屋の中を照らしている。

「それで、なにがいたって？」

唐突に発せられた問いかけ。

だがその問いは、部屋の闇に溶けはしなかった。
「殺し屋だ」

いつの間にか背後に現れていた影が、少女の様な声で、そう答えたからだ。

▼セリフ：謎の二人組

影「名前は確か……『カタナ』。君が雇ったんじゃないのか」

男「『カタナ』？ 知らない名前だな。第一、彼女にそんなに派手に死んでもらっては困るんだ。なぜお前以外を雇う必要がある？」

影「……でも、ボクは確かに」

男「俺が知るか。……だが、不確定要素は潰しておくに限るな。やれるか？」

影「……別に、あれは欲しくない」

男「そう言うな“エインセル”。最後にはちゃんと、お前はお前自身になれるんだ」

男「そうだ、それともう一つ。ルシアが『カブト』とかいうボディガードを雇ったぞ。……尻尾は出していないはずだが、勘のいいガキだ」

影「……わかった。先に、『カタナ』だね(姿が消える)」

◆結末

「『カタナ』、か……そいつを動かしているのは、お前か、ルシア？」

クク、と肩を揺らす男の視線の先。

DAK ヴィジョンでは、医者^{インセンサブル}の男がかつて蹴落とした同僚に刺され、驚きに目を見開いていた。

シーンを終了すること。

●カタナ：誰がそんなことをしたんだい—“自分自身”

条件：前のシーンの後、【“エインセル”】の情報を得た

登場：〈社会：N○V A、ストリート〉 10

◆解説

“エインセル”が『カタナ』を襲撃するシーン。

“エインセル”は『カタナ』の姿になって現れ、^{インセンサブル}《不可知》で『カタナ』を攻撃する。防がれると退場するが、キャストが妨害しようとした場合、カット進行に入ること。（*）

◆描写

雨の中、ストリートを歩く『カタナ』の前に現れた影。まるで闇から浮き出てきたかのように表れたソレは、キミと同じ顔をしていた。

「やあ『カタナ』。“自分自身”に出会う気分はどうだい」

にまり、と。確かに自分と同じ顔なのに、見たこともないほど狂気に満ちた笑顔を浮かべ。もうひとりの『カタナ』は、確かにそう言った。

▼セリフ：エインセル

「君になりたいわけじゃないんだが、依頼主が君を殺せというんでね」

「“自分自身”の手で死になよ、『カタナ』！！」

※《不可知》を使用

（防がれた）「……！ ちいッ！！（少女のような姿に変わる）」

（倒された）「……これが、“ホンモノ”ってこと……？」

◆結末

「……やっぱり、お前なんかいらない。最初から、ボクが欲しいのはルシアの姿だもの！！」

そう言い捨てると、少女の姿をした暗殺者は再び夜の闇へと消えた。

シーンを終了すること。

●カブト：告知

条件：司馬のアドレスに向かった

登場：〈社会：企業、テクノロジー〉 10

◆解説

司馬のアドレスを入手し、彼に話を聞きに行くことと発生するシーン。司馬はキャストたちに対し、患者の心配をする医者として対応する。

なお、このシーンで司馬が正体を現すことはない。もしキャストが彼を疑っている場合、誠実な医者に見える、と説明して構わない。

◆描写

新皇帝都大学附属病院の一角。そこで、その男は待っていた。

司馬紅太郎。ルシアの主治医。

「あなたは、ルシアとは……？」

彼は『カブト』の姿を見て、怪訝そうな表情で口を開いた。

▼セリフ：司馬紅太郎

（依頼のことを話す）「彼女が、そんな依頼を？」

「馬鹿なことを。確かに彼女は、最近何者かに狙われている気がする、と言っていました……不安を抱えると、そう思うことがよくあるものです。私に相談された時も、気のせいだろう、とは言ったんですが」

「……ルシアの病は現在治療不可能と言われていま

“エインセル” とのカット進行

“エインセル”はカット進行で神業を使用しない。死亡した場合、そのままシーンを終了する。

舞台裏で、司馬が〈医療〉〈スーパードクター〉〈ブランチ：ドクター〉で戯生する。

キャストが神業などで“エインセル”を倒した場合、判定では治療できないので〈アナザーライフ〉で復活すること。

してね。「シンデレラ・シンドローム」、ご存知ですか」
「おとぎ話の魔法は12時で切れるでしょう。あれに
例えてそう呼ばれています。正直難しい病気ですよ」
「おとぎ話と違うのは、その先に待っているのが王
子様との幸せな結婚などではなく、確実な死、とい
うことです。ですが……」(*)

「僕は必ず、彼女の治療法を見つけてみせる。今、
いいところまでこぎつけているんですよ」
(私財をなげうっていることについて聞く)「お恥ず
かしい。何しろ症例の少ない病気のものです、研究費
も多くは……。ですが、それもきっと、もうすぐ解
決しますよ(*)」

◆結末

「『カブト』さん、僕からもお願いします。あと少
しの間、彼女を護ってあげてください」

そう言って、男は頭を下げる。シーンを終了する
こと。

●カタナ：私を殺して

条件：「『振り返れば奴がいる』」の情報を手に入れた

登場：(社会：N◎VA、ストリート) 10

◆解説

ルシアが『カタナ』に連絡を取り、依頼の遂行を
促すシーン。ルシアはこのシーンで『カタナ』に《プ
リーズ!》を使用する。この《プリーズ!》の効果
は、『カタナ』にエンディングまでにルシアを殺す
ことを約束させる、というものだ。(*)

これはこのシーンでの殺害や《死の舞踏》の使用
を強制するものではない。

◆描写

深夜。『カタナ』のアドレスに連絡が入る。発
信者は、今のキミの依頼主——ルシアだった。
「明後日、ウェンズデイ・マーケットへ行くつも
りです」

キミが出ると、彼女はそう、切り出した。

▼セリフ：ルシア

「多分……そろそろ、時間切れだと思うんです」
（“エインセル”のことを話す）「そんなことが
……？ もしかして、私を狙っている誰か、でしょ
うか……」

「あの、依頼のこと、覚えてますよね」
「ウェンズデイ・マーケットなら、場所としては最
適だと思いませんか？」

「だから、『カタナ』さん。明後日には……ちゃんと、
私を殺してくださいね」※《プリーズ!》を使用

◆結末

「待っていますから。……おやすみなさい」

シーンを終了すること。

●カブト：The Morning

条件：「●カタナ：私を殺して」の次のシーン

登場：(社会：N◎VA、ストリート) 10

◆解説

ルシアが『カブト』に対し、自分の考えを告白す
るシーン。ウェンズデイ・マーケットへ向かう日の
朝を想定している。

彼女は自分がどうやっても助からないことを覚悟
しており、そのために『カブト』を利用したことを
謝り、改めて自分が『カタナ』に殺されるまで、自
分を護衛してもらるように依頼する。

なお、キャストが自分からルシアに矛盾した依頼
をしていることを問い詰める、と言いだした場合、
先にこのシーンを発生させても構わない。その場合、
クライマックスまでの流れを調整すること。

◆描写

「話が、あるんです」

そうルシアが切り出したのは、朝のことだった。
その眼は、最初にキミに依頼をしてきた日のよう
に真剣で……そして、罪悪感で溢れていた。

▼セリフ：ルシア

「もう、知っているかもしれませんが……先に、謝っ
ておきますね。ごめんなさい」

「『カブト』さん。私は、あなたを利用していました」
「あなたのほかに、『カタナ』という殺し屋に依頼を
しています……私を、殺してください、と」

「ご存知の通り、私はもう助からない病気で」

「そして、私の死を、利用しようとしている人がい
る……多分、父である人に近づくために」

「以前、私のために義体を用意している人がいる、
と看護婦さんが言っていました。でも、私はそんな
こと聞いてない。それに……義体化のための検査
も受けてないんですよ？ こんなことってありま
す？」

「私は、私の死を誰かに利用されるのは嫌です。母
が、ひとりで私を育ててくれたことを無駄にしてし
まう。……だから、決めたんです。誰にも利用させ
たりしないって」

「母の遺してくれたお金と私の残り時間を考えたら、
『カブト』さんと『カタナ』さんを雇うくらいの余
裕はありました」

「なにをなげれば、それでいいんです。でも、本当
になにかがあったら」

「これから、ウェンズデイ・マーケットへ行こうと
思います。そこで、最期の時を迎えるために」

◆結末

「『カブト』さん、改めてお願いします。私が『カ
タナ』さんに殺されるまで、私のことを……護っ
てください」

ルシアは深々と頭を下げる。シーンを終了する。

シンデレラ・シンドローム

この会話をしている段階で、ま
だシンデレラ・シンドロームに関
する情報を得ていない場合、ここ
で情報収集判定をさせるといいだ
ろう。

その場合は、〈交渉〉などでも
情報収集が可能とするとよい。(目
の前にいる専門家に聞くのだ)

「もうすぐ解決しますよ」

司馬のこの言葉の真意は、つま
りルシアの死を利用する事で、も
うすぐ莫大な金が入る、とい
う意味だ。司馬はその金を使って、
シンデレラ・シンドロームの研究
を続けるつもりなのだ。

司馬は悪人だが、それでも医者
(タタラ)のスタイルを彼なりに
真似てはいる。

ルシアの《プリーズ!》

《ファイト!》では無いので、
キャストの神業は増えない。

お願いをするという、やや拡大
解釈気味な使用方法だ。

「●RLシーン：仮面舞踏会」

“エインセル”が死亡している場合、このシーンまで（あるいはこのシーン中）に蘇生するのを忘れないこと。

●RLシーン：仮面舞踏会

条件：【“振り返れば奴がいる”の表の顔】を調べた

登場：キャストの登場不可

◆解説

司馬と“エインセル”の会話。

ルシアとキャストたちがウェンズデイ・マーケットへ向かうことを突き止め、人の多いところへと向かう前に彼らを仕留めようと動き出すシーン。（*）

◆描写

「ウェンズデイ・マーケットか。厄介だな」

頬杖をついたまま。“振り返れば奴がいる”と呼ばれている男……司馬紅太郎は呟く。

「どうやら、思ったより少しだけ早く、片を付けなければならないようだね……“エインセル”」

その声に、やはり闇の中から現れる、少女の姿。「ボクがあの子になれる時が来たんだね？」。

▼セリフ：司馬と“エインセル”

司馬「そうだ。もっとも、奴らを殺してから、だがな」
エインセル「任せてよ。今度こそ……」

司馬「いや、俺も一緒に行こう。奴ら、俺の正体も突き止めたようでな。口止めは確実にしないと」
エインセル「……いいよ。行こう」

◆結末

司馬がソファから立ち上がり、部屋を出ていく。
“エインセル”の姿もいつの間にか消えていた。

●カタナ&カプト：グリーン・マイル

条件：ウェンズデイ・マーケットへ向かった

登場：〈社会：N○VA、ストリート〉10

◆解説1

クライマックス直前のシーン。ウェンズデイ・マーケットへ向かう途中のシーン。このシーンで、カタナとカプトが合流することを想定している。

ルシアはふたりに向かい、改めて矛盾した依頼をしたことを謝り、協力を乞う。

◆描写1

ウェンズデイ・マーケットへ向かう途中。

人通りの多い道を選んできても、やはりどこかで裏道を通らなければならない。

敵が狙ってくるならここだろう、という道に入る直前で、ルシアは立ち止まる。

▼セリフ：ルシア

「『カプト』さん、『カタナ』さん」

「おふたりとも、おかしい依頼を受けてしまった、と思っているでしょう」

「本当に、ありがとうございました」

「おふたりのことは、忘れません……て、おかしいですね。これから死ぬっていうのに」

「でも、忘れません。行きましょう。終わりに、するんです」

◆解説2

“エインセル”が登場し、《突然変異》^{ミューテーション}でコピーした《不可知》^{インセンサブル}を使用。ルシアを殺害しようとする。カプトが《難攻不落》^{インヴァルネラブル}で防いだらクライマックスへ。

◆描写2

ルシアが決意をした人間の顔で促した瞬間。

殺意の風が吹いた

▼セリフ：“エインセル”

「キミを殺すのは“自分自身”さ、ルシア！」

（防がれた）「……ちっ！！」

◆結末

舌打ちをし、暗殺者は身を翻して下がる。その先には、道を阻むように自動車が進んでいた。

シーンを終了し、クライマックスへ。

■情報項目

最初に調べられる情報は以下のとおり。

『カタナ』：ルシア、ルシアの依頼（カタナ）

『カプト』：ルシア、ルシアの依頼（カプト）

◆ルシア

〈社会：N○VA、ストリート〉〈コネ：ルシア〉

10 ストリートの少女。唯一の肉親である母を数年前に亡くしており、現在は母の遺した財産で暮らしている。

12 生まれつき体が弱く、永らく新皇帝大学付属病院に入院していた。主治医の名前は司馬紅太郎。→【司馬紅太郎】

14 最新のナノマシン治療により状況が好転、最近退院している。だが、実際にはナノマシン治療の副作用でシンデレラ・シンドロームという病にかかっている。→【ルシアの残り時間】【シンデレラ・シンドローム】

16 ルシアの母が残した遺産は、ストリートでつましく暮らしていた人間としては信じられないほど多い。高額なナノマシン治療の代金を払ってまだ余裕があるほどだ。なにか秘密があるに違いない。→【ルシアの母】

◆ルシアの依頼（カタナ）

〈社会：N○VA、ストリート〉〈コネ：ルシア〉

10 『カタナ』に自分を殺してくれ、というもの。

12 だが一方で、『カプト』に何らかの依頼をしているらしい。

◆ルシアの依頼（カプト）

〈社会：N○VA、ストリート〉〈コネ：ルシア〉

10 『カプト』に自分を護ってくれ、というもの。

12 だが一方で、『カタナ』になんらかの依頼をしているらしい。

◆司馬紅太郎

〈社会：N◎VA、企業、テクノロジー〉〈コネ：ロシア〉

- 10 新皇帝都大学付属病院に勤める医者。将来を嘱望される天才的な外科医。専門分野はナノマシン治療、および義体治療。
- 13 誠実な態度で評判であり、清廉潔白な人物と言われている。現在、シンデレラ・シンドロームについて私財をなげうって研究している。
→【シンデレラ・シンドローム】
- 15 [アドレス]を入手。

◆ロシアの残り時間

〈社会：テクノロジー、医療〉〈コネ：ロシア〉

- 10 彼女の余命は幾ばくも無い。ルールのには、エンディングフェイズの最初のシーン終了時に必ず[完全死亡]する。シンデレラ・シンドロームの治療法が発見されない限り、これを覆すことはできない。(*)

◆ロシアの母

〈社会：N◎VA、ストリート〉

- 08 ストリートでひっそりと花屋を営んでいた女性。数年前に事故死している。娘のロシアとふたり暮らしだった。
- 12 元は河渡系の組長の愛人であった。手切れ金を渡され組を出されたが、その後妊娠していたことが発覚。だが、別れた後であったため、その後も決して娘ができたことを伝えはしなかったようだ。
- 15 ルシアも母の意を汲み、父である組長を頼らずに暮らしてきており、死を間近にしてもその考えを変えるつもりはないようだ。

◆ロシアのイヤリング

イベント中に〈知覚〉判定

- 18 母親の形見のイヤリングらしい。何者かによってトレーサーが仕込まれていた。このトレーサーは、ストリートの違法ショップで作られているもので、ヤクザなどがよく使用することで知られている。どうやら、彼女を狙っているのはその筋の間らしい。

◆シンデレラ・シンドローム

〈社会：N◎VA、テクノロジー〉〈医療〉〈適切なコネ〉

- 10 ナノマシン治療を行った患者にごく稀に現れる症例。元の病は完治したように見え、日常生活を送ることが可能になるが、数週間後に全身の機能が急停止し死に至る病。
- 12 新皇帝都大学病院のタタラ、司馬紅太郎が現在治療法を研究しており、治療可能となる日も遠くない、と噂されている。

- 15 だが、そのためには莫大な資金が必要である。稀な症例のため研究に参加している企業も少なく、研究はゆくゆくは行き詰ってしまうだろう。→【司馬の研究】

◆殺気の主 = “エインセル”

〈社会：N◎VA、ストリート〉

- 12 ストリートの殺し屋。普段は少女の姿をしている。ターゲットを原型の残らないミンチに変えることで有名。
- 15 ヒトニ(*)であり、様々な人物に入れ替わり続けた結果自分自身を失くし、それゆえに自分自身を手に入れることに異様に執着するようになったという。
- 16 現在は“振り返れば奴がいる”というハンドルの男に雇われ、ロシアという少女をつけ狙っている。→【“振り返れば奴がいる”】
- 制 現在、彼女には宿主がいらない。「ライフパス：アナザーライフ(*)」を取得している。

◆司馬の研究

〈社会：N◎VA、企業、テクノロジー〉〈医療〉

- 13 現在、彼は患者を義体に移すことでシンデレラ・シンドロームを克服する方法を研究している。そのために、ロシア用の義体を発注しているらしい。
- 17 シンデレラ・シンドロームは、実はナノマシンが脳に作用して全身の機能を止める病気である。彼のやり方では治療は不可能のはずだ。

◆“振り返れば奴がいる”

〈社会：ストリート〉〈河渡系のコネ〉

- 12 河渡連合と繋がりのある男(レッガー◎)。ロシアという少女を狙い、“エインセル”を雇っている。
- 14 金に汚く、相手の弱みを握り金を搾り取ることを第一としているクズ。気づけばいつの間にか弱みを握られており逃げられなくなっているところから“振り返れば奴がいる(*)”と呼ばれている。現在、とある組長の弱みを握り、彼から金を搾り取ろうとしている。
- 18 表の顔があるらしい。→【表の顔】
- 制 レッガー：ハイエナである。

◆“振り返れば奴がいる”の表の顔

〈社会：ストリート、テクノロジー〉〈河渡系のコネ〉

- 21 新皇帝都大学病院の医者、司馬紅太郎がその表の顔だ。タタラ：ドクターである。

ロシアの残り時間

実際のところ、多くのプレイヤーはこの情報を非常に重要視するだろう。シナリオコンセプトの項目にも載せているが、やはりシナリオヒロインは救いたくなるのがプレイヤーの性だからだ。

ロシアを救える方法については、エンディングの項目に詳しく記載しているので、RLはアクト前に一読をお願いしたい。

ヒトニ

The Detonation から N◎VA を始めた方の多くは、聞き慣れない単語だろう(それ以前から遊んでいた方も知らないかもしれない)

ヒトニは、ヒルコの一つである。殺した人間になりかわり、その人間として人間社会に溶け込んで生きている「人似」だ。この内容はプレイヤーにも説明すること。

ライフパス：アナザーライフ

カゲムシャの神業《神出鬼没》の効果で、防御系神業に変更するライフパス。『NTW』p35 参照。

振り返れば奴がいる

なんとも珍しいハンドルだ。(編集者は最高にカッコいいハンドルだと思う)

気づいた人も多いかもしれないが、このハンドルは元ネタがある。実在のとあるテレビドラマのタイトルなのだ。その詳しい内容を知りたければ、ネットで検索などしてみてほしい。(古いが、けっこう有名な作品だ)

最初の RL シーンの背景で流れていたドラマや、黒幕の正体など、色々ニヤニヤできることうけあいだ。



クライマックスフェイズ

◎ ◎ ◎
Climax Phase

●矛盾 -contradictions-

◆解説

ウェンズデイ・マーケットへ向かう途中の路地をアンタツチャブル《不可触》(*)で封鎖し、司馬が現れる。

◆描写

ふと気づけば、キミたちの路地の出口が車で塞がれている。そして、キミたちが振りかえったその先、車の中から、ルシアの主治医、司馬紅太郎……“振り返れば奴がいる”が降りてきた。「おとなしくベッドで寝ていればいいものを、困ったシンデレラだ。おかげで、こんな大仕掛けをするハメになった」

その顔は、欲望と憎しみに歪んでいる。

▼セリフ：司馬紅太郎

「知ってるか？ 大学病院の給料は安くてね」
「名前を売るにはいいが、それを割り引いても安すぎる。研究にも金がかかるのに、だぜ」
「ルシアの父親はストリートの大物なんだろう？ 娘を助けた医者となれば、随分な金をくれるだろうなあ」
「別に、中身が本物である必要はないだろ？ どうせ生まれてこの方ロクに会っちゃいないんだ」

「さて、お喋りはおしまいにしようか。そろそろ……全員まとめて、死ねよ」

(倒された)「……何……？ (信じられない、という顔で倒れる)」

▼セリフ：“エインセル”

(『カタナ』に)「今度は殺す。ボクのことを知ってるやつは、少ないほうがいい」

(『カブト』に)「キミはそこで見てなよ。もうすぐボクがルシアになる。そうしたら、ボクを護ってくれればいいじゃないか」

(断った)「……なら、キミも死ね」

(倒された)「いやだ、誰にもなれないで死ぬのは、いやだッ!!」

◆カット進行

敵は以下の通り。

- ・司馬紅太郎 : AR2
- ・“エインセル” : AR3

1 エンゲージ、キャストから近距離。キャストの戦力が十分だった場合、トループ『GXD』P142の河渡会系ヤクザ)を追加すること。

敵を全員倒したらシーン終了。エンディングへ。

司馬の《不可触》

これにより、このシーン中の人の生死には、世間には認知されなくなる。ルシアが死んでも、その事実は人々には伝わらない。



「振り返れば奴がいる」司馬紅太郎

タタラ=タタラ○、レッガー●

▼設定

「医療ってのはな、金がかかるのさ」

新皇帝都大学で将来を嘱望される若手医師だが、同時に裏社会と繋がりがあり、分不相応な野心を抱く男。

▼神業

タイムリー□ タイムリー□ 不可触■

▼能力値

理性：8 / 15 感情：4 / 10

生命：4 / 10 外界：8 / 15

▼技能

医療 4 ♣ ♣ ♣ ♣

射撃 3 ♣ ♣ ♣

交渉 4 ♣ ♣ ♣

自我 3 ♣ ♣ ♣

※弱点看破 5 ♣ ♣ ♣

※即席治療 4 ♣ ♣ ♣

※スーパードクター 6 ♣ ♣ ♣

※超スピード作業 4 ♣ ♣ ♣

※虚言 6 ♣ ♣ ♣

※急所攻撃 3 ♣ ♣ ♣

▼ブランチ

タタラ：ドクター 2レベル

[完全死亡]や[精神崩壊]も治療可能に。

アクト中レベル回。□□

レッガー：ハイエナ 2レベル

誰かが捨てた札を自分の手札に入れる。

アクト中レベル+1回。□□□

▼武器

・新月輪 盾：08 / 電：15

攻：刺+7 射：近→遠 装弾数：8

▼その他の装備

・セルフドクター 盾：13 / 電：18

戦闘不能ダメージを受けた際、プロット

を使用せずに[対象：自身]の判定を行う。

・タイプD2 盾：18 / 電：15

次カットからAR4に。

・防具：アーマースキン 盾：15 / 電：15

・防具：フォーマリディ 盾：14 / 電：18

※防(殴/刺/斬/爆)：4/1/2/5

▼行動指針

優先プロット：♣ ♣ ♣ ♣ / AR：2

セットアップで「弱点看破」を使用、

ダメージを上昇させる。

攻撃は「交渉」「虚言」「射撃」「急所攻撃」で達成値は+6、ダメージを与えた場合、[生命]の制御判定。失敗するとプロット1枚破壊。

「エインセル」が倒れるか、自分が戦闘不能になった場合「即席治療」「スーパードクター」とブランチの効果を使用して治療する。(即席治療)による判定はレベル回まで。



「エインセル」

カゲ○、ヒルコ、カゲムシャ●

▼設定

「ボクが……ボクこそがロシアだ！」

他人に成り代わることを長く続けてきた結果自分自身を失ったヒト二。自身の個として、ロシアを渴望している。

▼神業

不可知■ 突然変異■ アナザーライフ□

▼能力値

理性：6 / 13 感情：7 / 15

生命：7 / 14 外界：2 / 10

▼技能

白兵 5 ♣ ♣ ♣

運動 4 ♣ ♣ ♣

隠密 5 ♣ ♣ ♣

自我 1 ♣ ♣ ♣

社会：ストリート 4 ♣ ♣ ♣

※ミミクリー 4 ♣ ♣ ♣

※有象無象 4 ♣ ♣ ♣

※融合 9 ♣ ♣ ♣

※巨体 4 ♣ ♣ ♣

※透明化 4 ♣ ♣ ♣

※空蟬 2 ♣ ♣ ♣

※死点撃ち 4 ♣ ♣ ♣

▼ブランチ

カゲムシャ：ミラー 2レベル

「ミミクリー」の判定を手から行える。

アクト中レベル回。□□

▼搭載兵器(※「巨体」で使用)

・岩砕棍・破 盾：- / 電：15

攻：殴+19 受：4 射：至近

▼その他の装備

・全身装：プロテウス+α 盾：35 / 電：20

変装の為の「隠密」+5。

・ブラックドライブ 盾：35 / 電：18

アクションランクを3に。

・ゴーストコート 盾：- / 電：18

マイナーで「隠密」判定+3。

・ビーストマインドD 盾：10 / 電：-

マイナーでシーン中のダメージ+4。

・スリーアクション08 盾：14 / 電：15

マイナーアクションを3回行う。

※防(殴/刺/斬/爆)：3/1/1/3

▼行動指針

優先プロット：♣ ♣ ♣ ♣ / AR：3

マイナーアクションで「融合」した

岩砕棍・破を準備、ゴーストコート、

ビーストマインドDを起動。「白兵」「隠

密」「透明化」「巨体」「死点撃ち」で

攻撃。達成値+7、防護点無効、ダメ

ージ[殴+23]。

物理攻撃は可能であれば「運動」「隠

密」「透明化」「空蟬」で回避する。

エンディングフェイズ

Ending Phase

トウルーエンディング

以下に示すのは、本来シナリオで想定されているエンディング……すなわち、「ロシアが死亡する」場合のエンディングのシーンである。

もし、何らかの方法でキャストがロシアの命を救った場合、後に示す特殊エンディングの項目を参照すること。

●カタナ&カブト：シンデレラ・タイム

◆解説

ロシアが死亡するシーン。キャストがなにもなくても、ロシアはこのシーンの最後に死亡する。(*)

◆描写

ウェンズデイ・マーケットの雑踏の中。

もう誰に狙われることもない……そう感じたからだろう。楽しみに歩いていたロシアが、突然ふらつき、倒れこんだ。どうやら、魔法の時間は終わりにかけているらしい。

▼セリフ：ロシア

「そろそろ、時間みたいですわね……」

『カブト』さん。ここまで私を護ってくれて、ありがとうございます」

『カタナ』さん。約束です。私を、ちゃんと殺してくださいね」

「あまり、いい人生ではなかったですけど……最後に、あなたたちに会えて……よかった」

◆結末

そして、死の瞬間。彼女は確かに、微笑んだ。

ここでロシアが、神業《暴露》を使用する。(*)

周囲のざわめきが、そこにある死を理解したのだろう。やがて、悲鳴に変わる。

——そして、翌日。ニュースの片隅を、少女の死が飾った。

このシーンの最後に死亡する

病死か、望み通り殺害するか、どちらを選ぶのもキャスト次第だ。

ロシアは特に抵抗しないため、宣言さえすれば殺すことができるが、もしカタナが望むならロシアの「ファイト!」を「死の舞踏」に使ってもいいだろう。

《暴露》を使用する

これはあくまで、一人の人間の死を世界に知らしめるためのもので、ロシアという少女が世界に残した、「自分が生きた証」だ。

この《暴露》によって、カタナが危うくなるような情報は流さないものとする。

●カプト：ロンリーガール、グッドナイト

◆解説

『カプト』のエンディング。生前のルシアとの会話をキャストが回想している。詳しい時系列はシナリオ上では決めていない。

◆描写

真夜中。ふと、彼女の言葉を思いだす。

「……『カプト』さんは、どうして人を護る仕事をしようと思ったんですか」

彼女が死ぬ、前の夜のことだ。

突然キミにそんなことを聞いてきた。

▼セリフ：ルシア（生前）

（『カプト』の答えを聞いて）『『カプト』さん、らしい気がします」

「私が、色々言えることじゃないと思いますけど」

「私、『カプト』さんに護衛をお願いしてから。悪夢を見なくなったんです」

「だから、きっと。死ぬ時も、きっと不安なんてないと思うんですよ」

「変なこと、言っちゃいましたね。……おやすみなさい」

◆結末

そのしばらく後、彼女はキミの前で、微笑んで死んだ。キミは確かに、彼女の魂を護ったのだ。

●カタナ：葬送の鐘は響く

◆解説

『カタナ』のエンディング（*）。ルシアの父との会話。なお、ルシアの父はエキストラである。

◆描写

バーでグラスを傾けるキミの横に、白髪の混じった男が座る。

「……『カタナ』というのは、あなたか」

疲れたように問いかける男の横顔は、どこかで見た面影があった。

▼セリフ：男（ルシアの父親）

「殺して欲しい相手がいる。……と言っても、顔も名前もわからない」

「娘がいた。金を持たせて別れた女が、俺に黙って産んだ娘だ」

「その娘が、先日死んだ。恥ずかしい話だが、それを知ったのは死んでからになる」

「……できれば、娘の仇を取りたい」

「受けて、くれるか」

◆結末

男の問いに対し、カタナが何かを返したらシーンを閉じること。以上で本シナリオは終了となる。

■特殊エンディング

キャストがルシアを救った場合のエンディングの一例を以下に示す。ただし、ルシアを救った方法によって、相応しい描写は変わってくるだろう。

以下の演出は、シーン立ての参考程度に留めてほしい。ルシアを生き残らせる過程で、多くのプレイヤーは色々彼女を救う術、救う理由について思案したはずだ。ここから先は、プレイヤーが選び取った結末である。RLは適宜、キャストの行動に合わせてシーンを立ててほしい。

●カタナ&カプト：シンデレラ・タイム

◆解説

トゥルーエンドと同じシーンタイトルの共通エンディングシーン。キャストがルシアを救った場合、その結末が変わる。

ルシアを救う条件は以下のとおりとする。

①ルシアを救うには、神業が必要である。

②治療法が確立していない状態では、《タイムリー》や《買収》で彼女を救う事はできない。（治療の術を準備できない）

③シンデレラ・シンドロームはNPCではない。この為、《死の舞踏》などで無力化はできない。

なお、RLの判断はこれら全てより優先される。

◆描写

ウェンズデイ・マーケットの雑踏の中。

もう誰に狙われることもない……そう感じたからだろう。楽しげに歩いていたルシアが、突然ふらつき、倒れこんだ。どうやら、魔法の時間は終わりがけているらしい。

▼セリフ：ルシア

「そろそろ、時間みたいですわね……」

『『カプト』さん。ここまで私を護ってくれて、ありがとうございます」

『『カタナ』さん。約束です。私を、ちゃんと殺してくださいね」

「あまり、いい人生ではなかったですけど……最後に、あなたたちに会えて……よかった」

◆結末

そうして、彼女は微笑んで目を閉じた。

死んだように見えるが——しかし、その胸は小さく上下している。

まだ、生きている！

「●葬送の鐘は響く」編者注

正直申し上げると、このシーンは誰にでも対応できる内容ではない。多くの『カタナ』は反応に窮してしまうだろう。この演出を気軽にキャストぶつけるのはお勧めしない。

基本的に、エンディングはキャストが望む内容にするべきだ。プレイヤーにお任せしてしまっている。

ならば、何故そんな内容をここに載せているのか。それは、これを読んだRL諸君は何となく理解してくれると思う。つまり、「超カッコいいから」だ。

この振りをかっこよく打ち返してくれそうなキャスト（あるいはプレイヤー）がいた場合、是非とも試してみてください。そして、是非ともその結末を製作者に教えてほしい。

●カプト：奇跡の今日

◆解説

『カプト』のエンディング。生き残ったルシアとの会話。

◆描写

キミは今、病室にいる。

キミたちの活躍で命は助かったが、検査のため入院しているルシアを見舞うためだ。

「……不思議ですね。本当は、今日なんて、私にはないはずだったのに」

そう呟く彼女の顔は、今はもう、絶望に彩られてはいない。

▼セリフ：ルシア

「ありがとうございます、『カプト』さん」

「噂通りの凄腕、でしたね。依頼を果たしただけじゃなく」

「諦めていた、未来まで、護ってもらっちゃいました」

「いつか、お礼をします。護ってもらった明日で、きつと、悪いことをしちやいます。だから……」

◆結末

「楽しみにしていて、くださいね」

そういつて彼女は、太陽のように微笑んだ。

『カプト』の演出を確認し、シーンを終了すること。

●カタナ：闇は再び

◆解説

『カタナ』のエンディング。

ルシアを狙う新たな依頼人が現れる。

◆描写

バーでグラスを傾けるキミの横に、す、と妖艶な女が座った。

「……『カタナ』、で間違いないわね？」

毒蛇のように微笑む貌は、どこか……知った少女に似ていた。

▼セリフ：女（ルシアの義姉）

「ルシア、って娘を殺して欲しいのよ。……と言っても、貌は知らないんだけど」

「もうすぐ死ぬだろう馬鹿な父親がね、外の女に産ませた娘。どこかでたれ死んでいるならそれでいいのだけれど」

「生きているなら……ね、わかるでしょう？ 遺産は、正妻の子である私のものになるのが筋だもの」

◆結末

「1 プラチナム……悪くはないでしょう？」

女の問いに対し、カタナが何かを返したらシーンを閉じること。

シナリオコンセプト：矛盾 -Sword & Shield-

●コンセプト

本シナリオは、プレイヤーが二人だからこそできる、濃密なストーリーを楽しめるようなアクトを目指して書かれた。

●様々な「矛盾」

本シナリオ中には、シナリオタイトルどおり、様々な「矛盾」が散りばめられている。

ルシアが『カタナ』と『カプト』に頼んだ、矛盾する内容の依頼。

医者でありながら、人を殺す司馬。カゲムシャでありながら、自らの「個」を求めるインセル。

そして、キャストもそう。カプトはどうせ死ぬ人間を護るという矛盾。カタナは彼女を殺さなかった場合もそうだが、殺した場合も、最後には自分を標的にした依頼をされるという矛盾が待っている。

●カタナ vs カプト

N◎VAにおいて、2人用シナリオというのはかなり珍しい。しかも、このシナリオのシチュエーションはかなり特殊だ。

公式の2人用シナリオ、『カゲムシャ SSS 仮面舞踏会』に収録されているシナリオ『仮面劇』と同様に、このシナリオでも、2人のキャストは一見すると対立したような状況でシナリオが始まる。実際には、共通の敵となる勢力の存在が、かなり早い段階で示唆されるので、実際にキャスト同士が対立する事は無いだろう。しかし、そういった対立を演出

したくなるプレイヤーも多いはずだ。（というより、そういった演出をしたくなるようなアクトトレーラーになっている）

プレイヤーが望むのであれば、2人の対立を描くシーンを早い段階で行わせると良い。その際、（万が一必要であれば）RL から「本気で対立しないように」ということを伝えるように。

●司馬紅太郎という人物

司馬という人物は、恐らく RL によって、そのキャラクター性の受け取り方が変わってくる。

才能はあるが、金と欲望の為に動くクズ。

多くの人を救うために、金に固執する医者。

どちらの人物像が正しい認識なのかは、シナリオでは定義しない。RL の感覚、キャストとの兼ね合わせで、それは変わって良い、と思う。それで物語が面白くなるならば、その受け取り方が正解なのだ。なお、このシナリオは登場するゲストの数が非常に少ない。この為、司馬紅太郎は裏の顔が明らかになる前から、プレイヤーに「こいつは妖しい。敵じゃないか」と思われやすい。

これに関しては、実は全く問題では無い。実際に彼は敵であるし、プレイヤーが先の見通しをしやすくなることは良いことだ。

ただし、いきなりキャストが怪しみ、斬りかかったりした場合には止めること。ちなみにこのテストプレイの回では、司馬を怪しんでいたキャストがインセルとの戦闘でダメージを受けていたので、

司馬に〈医療〉の判定をさせ、そのダメージを治療してやると、「この人良い人だよ！」と彼を信用し、結果としてクライマックスでの司馬の登場に、非常に面白いリアクションを返してくれた。

●ルシアの命を救う

本シナリオのヒロインであるルシアはエンディングで死ぬ事が決まっており、基本的に命が救われる事は想定されていない。

されて、いないのだ……。

だが、それでも。数回行ったテストプレイでは、なんと全てのアクトにおいて、ルシアは救われた。

そんなバカな、である。

ただし、それらは全て、残り少ない神業をどう使えば彼女を救えるか、プレイヤー達が悩みに悩み抜いて色々な方法、可能性を模索して辿り着いた結末であり、本当に素晴らしいエンディングばかりであった。

このシナリオのトゥルーエンディングは、美しい。安易にルシアを救わせるのは、このシナリオの本意ではない。だが、それでも。だからこそ。彼女が救われる結末もまた、素晴らしいものになるのだと思われる。

是非とも、皆さんの卓でしか紡げない結末を紡ぎあげて頂きたい。



プレアクト情報

Pre-act info.

このシナリオについて

本シナリオは、「アストラルのもの」とあるという点を除けば、非常にスタンダードかつシンプルで遊びやすい内容である。コミカルで取り回しも軽い為、少人数しか集まらなかったときや、サクッと気軽に遊びたい時などに最適だ。

レギュレーション

初心者を相手に遊ぶ、あるいはコンベンションなどで遊ぶ場合は、付属 CD-R に収録している、「メイクアップ環境」データを使うことをお勧めする。

その場合、使用経験点は0点で、最大達成値は21だ。

■シナリオ情報

▼推奨プレイ環境

テキスト、Skype、オフのいずれにも対応。

▼プレイ時間

3～4時間（テキストの場合、8～12時間）

▼プレイヤー人数

2～4人（4人の場合はp28 下段コラム参照）

▼シナリオ傾向

アストラル、初心者向け、コミカル

●レギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：20～100点を想定

最大達成値：20 台後半

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

この仕事は、簡単だ。

探偵の仕事と言えば、浮気調査や猫探し。
荒くれ者の初仕事と言えば、ゴブリン退治。
誰もが最初に通る道だ。

ただし、気をつける。

猫は魔術が生み出した使い魔かもしれないし、
ゴブリンはサイバーウェアでチューン済み。

ニューロエイジ アウターエッジ
ここは電脳世紀の最先端。
電脳と魔術が交差する街。

トーキョーN◎VA The Detonation
『ラン・キャット・ラン』

かくして、運命の扉は開かれた。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●推奨スタイル

- ①『フェイト』：フリーランスの探偵
- ②『バサラ』：聖母殿退魔局の退魔師
- ③『アヤカシ』：サロン・ドルファンの執行人

●必要な神業

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、合計で1個の防御系神業が必要だ。もう1つあると、ゲストを守ることができる。（*）
また、『真実』には使用想定シーンが存在する。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート〉〈社会：アストラル〉などである。

必要な防御系神業

ゴブリン・キングの〈不可触〉にライフパスを当てている場合、必要な防御系神業はもう1枚追加される。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通り取得すること。
『フェイト』→『バサラ』→『アヤカシ』→『フェイト』

No.1:Cast Make Guideline

推奨設定：私立探偵

追加設定：ローラという少女に懐かれている

少女から猫探しの依頼をされる。アストラルの要素が強いシナリオだが、アストラルに精通した探偵である必要はない。

なお、シナリオコネのローラはかなりのボンクラである。シリアス志向のキャストは会話に苦勞する……かもしれない。

▼特記事項

・『真実』には使用想定シーンが存在する。

推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：ローラ

推奨スト：感情

君の仕事は、何かを探すことだ。
探偵業を営む君に持ち込まれた今回の仕事は猫探し。依頼人は君に憧れて探偵の真似事を始めたローラという少女。
彼女が飼っていた黒猫型のペットロイドが行方不明になったので、探してほしいというのだ。

【PS：ローラの元へ黒猫を返す】

No.2:Cast Make Guideline

推奨設定：聖母殿退魔局のエージェント

追加設定：特になし

退魔師としてイーベルを監視するモチベーションが得られるのであれば、聖母殿のエージェントでなくても構わない。

オープニングは、既にイーベルをしばらく監視していたところから始まる。

▼特記事項

・特になし。

推奨スタイル：バサラ

SCENARIO HANDOUT

コネ：イーベル

推奨スト：外界

君の仕事は、魔を祓うことだ。
真教教会の影を担う特務機関・聖母殿の一員として、黒猫（の姿をしている）のイーベルと言うアヤカシを監視している。
N◎VA車駐屯地周辺でも目撃されているようなあやしいイーベルが、突然行方をくらませた。
そう、何者かから逃げるかのように。

【PS：イーベルを監視する】

No.3:Cast Make Guideline

推奨設定：サロン・ドルファンの執行人

追加設定：特になし

アルドラの命令（あるいは依頼）をうけて、外敵を排除する導入だ。執行人でなくてはならないわけではない。

▼特記事項

・特になし。

推奨スタイル：アヤカシ

SCENARIO HANDOUT

コネ：ゴブリン一族

推奨スト：理性

君の仕事は、夜を見張ることだ。
アヤカシ達の社会を乱す無法者に対して“執行人”として送り込まれるのが君だ。今回の標的は、最近になってN◎VAに現れ、好き放題暴れているというゴブリンたちだ。低級なアヤカシだとたかをくくっていたが、中には魔術と電脳に長けた厄介な者もいるという。

【PS：ゴブリン一族を掃討する】

RL用テキスト

Text & Ruler

サロン・ドルファン

『NTW』p52、『CGL』p264
の項目を参照。

■ストーリー

アヤカシ達が跋扈するN◎VAの夜は、サロン・ドルファン(*)の統治によって均衡を保っている。しかし、外来のアヤカシ達により、その治安が乱されようとしていた。

カムイS T ☆ Rより渡来した、ゴブリン・キング率いるゴブリン一族は、N◎VA軍が保有する戦術核の制御を奪うことで、N◎VAへの侵攻を行おうと目論んでいた。その計画のスタートとして、彼の側近であるゴブリン・ウィザードは、手近な猫型ペットロイドを脳魔術により使い魔に仕立て、諜報活動を行わせていた。

そのペットロイドは、『フェイト』の見習いである少女、ローラの飼猫だった。彼女は行方不明になった飼猫を心配し、『フェイト』に捜索をお願いする。更に、アストラルにおける礼儀を弁えない無法者の存在は、またたく間にサロン・ドルファンや聖母殿に感知されるところとなり、

『アヤカシ』や『バサラ』に、彼らの監視・討伐が命じられる。

しかし、低級なアヤカシであるはずのゴブリンは、ニューロエイジの脳魔技術やサイバーウェアにより武装しており、更にはアヤカシ界でも一目置かれる伝説の騎士、ゴブリン・ナイトをその配下に擁していた。

これは、キャスト達がパーティを組んで、地下洞窟に潜むゴブリンを退治する、非常に分かりやすいシナリオである。

■クライマックスへの条件

ゴブリン一族が潜む、地下空洞（廃棄メトロ線）に向かえばクライマックス。

オープニングフェイズ

Opening Phase

●フェイト：探偵は猫を探す

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『フェイト』が自称“見習い第一号”の少女、ローラから、飼猫の捜索を依頼(?)されるシーン。

◆描写

ローラは、何の因果か君に懐き、君の“見習い第一号”を自称している少女だ。よく事務所に上がり込んで来ては、探偵のイロハを教えてほしいと言ってくる彼女であったが、その日は少し違った。彼女は依頼をしてきたのだ……よりもよって、猫探し。

▼セリフ：ローラ

「あのですね。探偵さんに猫を探してほしいのです」「探してほしいのはこの猫です。わたしの飼猫なのです。かわいいでしょ?」「わたしも探偵のはしくれです。わたし一人でも探せないことはないと思うのです。ですが……心配なのです。だから、手伝って欲しいのです」「ちゃんとお金も出します。わたし、稼いでいるんです」※ドヤ顔で3カップを差し出す(*)

◆結末

『フェイト』がローラのお願いを受けたらシーン終了。

●バサラ：黒猫が運ぶは?

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『バサラ』が聖母殿からの勅令により、イーベルという黒猫のアヤカシを監視するシーン。彼と接触しようとする、《霧散》を使用して退場してしまう。

◆描写

君は聖母殿の勅命に従い、この数日間、イーベルという黒猫のアヤカシを監視していた。

そしてその日、ついにイーベルが怪しげな動きを見せた。N◎VA軍駐屯地付近に現れた彼は、ウロウロと歩きまわった後、インシロシてどこかに情報を流し始めたのだ。今こそ彼に接触し、何をしているのか確かめなければ。

▼セリフ：イーベル

(話しかけられた)「(ビクッ) ……にや、にやー?」「……なんだい、退魔師かにや。あれかい、オイラがアヤカシだから処分したりすんのかにや?」「残念だったにや! オイラは捕まらないにやー!」※《霧散》で退場

◆結末

『バサラ』がイーベルの行方を追いはじめたらシーン終了。尚、聖母殿からの経費として3シルバーを渡すこと。

3カップ

もちろん、データの意味などない。

●アヤカシ：ゴブリン退治クエスト

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

N◎VAに侵攻してきたゴブリン一族の討伐を『アヤカシ』が依頼されるシーン。

◆描写

N◎VAの間に住まうアヤカシたちが集う宴、サロン・ドルファン。そこに今宵、ポロボロの姿で転がり込んできたアヤカシたちが居た。

イエローエリアの廃倉庫で、培養食品プラントを細々と経営しているコボルトたちだ。

▼セリフ：コボルトたち

「ヤツら…… “ゴブリン” 族」が、あつしたちのプラントに攻め込んできて、食料を根こそぎ奪って行きやがったんです」

『これからこの一帯はオレ達が治める』とか言って、みかじめ料まで徴収して来やがって……」

「でもアイツら、妖しい魔術を使う上にガチガチにサイバーアップしてて、あつし達じゃ歯が立たなくて……助けてくたせえ、この通りです」

▼セリフ：アルドラ・ドルファン

「私たちサロン・ドルファンによる統治が、よりにもよって外来の、しかも低級なゴブリンどもによって脅かされるなどという事は、アヤカシたちの名譽を汚される事に等しいでしょう」

『アヤカシ』、貴方にゴブリン一族の討伐をお願いします」

◆結末

『アヤカシ』が任務を受けたらシーン終了。費用として1ゴールドが渡される。

リサーチフェイズ

Research Phase

●フェイト：ささやくのよ、わたしのゴーストが

条件：リサーチ最初のシーン

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉 10

◆解説

『フェイト』が猫探しを始めるシーン。

【猫の行方1】についてリサーチをして貰うこと。尚、ローラも同じ判定をRLが行い、わざと失敗する(*)。的外れな推理によって『フェイト』とは違う場所へ捜索に向かってしまう。

◆描写

君はローラと共に、猫の捜索を始めた。ローラは顎に手を当てて何か思索するような仕草をした後、急にピーンと指を立て、口を開いた。

▼セリフ：ローラ

(判定に失敗し)「閃きました！ わたしはですね、きっとホワイトエリアにいると思うんです！ 探偵の直感です！」

「レッドエリア……？ そんなところにいるわけないじゃないですか！ わたしの予想の方が絶対に正しいんです！ それにあんな危ないところは……(ブルブルと震える)」

「まったくもう！ じゃあ『フェイト』さんはレッドエリアを探してきてください！ わたしはホワイトエリアを探してきます！」

◆結末

ローラはホワイトエリアに向かってしまう。尚、キャストがローラについていくと言った場合、シナリオの進行に不都合が出る事を伝えて猫探しに専念してもらおう。

●アヤカシ：エンカウント

条件：〈ゴブリン一族〉についてリサーチした

登場：〈社会：アストラル、ストリート(ほか)〉 10

◆解説

『アヤカシ』がゴブリン一族の下っ端たちと遭遇する。下っ端ゴブリン達はエキストラである(*)。

◆描写

ゴブリン一族について調べる君の行き先を塞ぐ者たちがいた。噂をすればなんとやら、だ。

▼セリフ：下っ端ゴブリンたち

「俺たちの事を嗅ぎまわってるみたいじゃねえか」

「お前、アルドラの下僕なんだったな。あんな若造りに必死な年増の時代はもう終わりだぜ。これからゴブリン・キング様の時代が来るのさ」

「お前も、キング様の下僕にしてやってもいいぜ？」

(断った)「そうかい。だったらここで死にな！！」

「ギャーッ！ こいつ、強エーッ！！」

◆結末

ゴブリンたちを散らしたらシーン終了。

わざと失敗する

ただのローラのボククラ演出だが、RLの手札交換も兼ねている。

下っ端ゴブリン達はエキストラ

キャストが4人の場合、トループにして戦闘を行わせてもいい。ただし、あくまでもこの下っ端たちはザコなので、強くしすぎないこと。



■ローラ

エキストラ (マネキン◎)

▼解説

「わたしは『フェイト』さん直伝の探偵！」

ネバーランドで生活する少女。『フェイト』に憧れて探偵の修行(?)にあけくれる毎日である。……が、成果は芳しくないようだ。

自分の飼った猫だと主張する野良黒猫(ドroid)が行方不明になったので、『フェイト』と共に探すことになるのだが……。

▼神業

神業は使用しない。キャストの神業が足りなさそうな場合、クライマックスで《フリーズ!》を使用してもよい。

●フェイト：追いかけては続く

条件：中華街に向かった

登場：〈社会：アストラル、ストリート^{ほか}〉 10

◆解説

猫（イーベル）と接触するシーン。『バサラ』との合流を想定している。このシーンでも、イーベルは《霧散》^{デイスアペア}を使用して逃げてしまう。（*）

◆描写

中華街の一角で、例の黒猫の姿を発見した。

▼セリフ：イーベル

（捕まえようとする）「にゃー！（嫌そうに逃げ回る）」
（『バサラ』がいた）「げげえ！ こんな所まで追ってきたにゃー！ しつこいにゃー！！」

（ローラが探してる事を伝えた）「ローラ？ そ、そんな子もいたにゃ。でも猫は飼^{デイスアペア}い主には縛られにゃいにゃー！ 腹が減ったら帰るにゃー！」

「もう追ってくるにゃー！」※《霧散》で退場

◆結末

次のシーンから【猫の行方2】をリサーチ可能に。

●バサラ：伝説のゴブリン

条件：【ゴブリン・ナイト】についてリサーチした

登場：〈社会：アストラル、ストリート^{ほか}〉 10

◆解説

ゴブリン・ナイトの顔見せシーン。ゴブリン一族について嗅ぎまわるキャストたちを排除するため、彼女が接触してくる。カット進行を行うこと。

ゴブリン・ナイトは戦闘不能になると、《霧散》^{デイスアペア}を使用して退場する。

◆描写

君達の前に突如、一匹のゴブリンが現れた。間にはためくマント、ゴブリンに似あわぬ黄金のオーラを纏った、威風堂々たる姿。彼女は君たちの前で立ち止まると、右腕のサイバーアームを胸に当て、うやうやしく騎士の礼をした。



■イーベル

ミストレス◎、アヤカシ=アヤカシ●

▼解説

「オイラ、これでも気高いアヤカシにゃー！！」

飼^{デイスアペア}い主が死んだ後、野良化した黒猫ベツロイドに付喪神が宿り、アヤカシとなったもの。〈血脈：魔器の一族〉である。ローラは自分の飼^{デイスアペア}猫だと主張するが、本人にその気はない。急に自分を拾って飼^{デイスアペア}い主面しだしたローラは苦手だが、悪感情を持っているわけではないようだ。

ゴブリン・ウィザードの手により使い魔にされ、諜報活動をさせられる事に。

▼神業

2発の《霧散》^{デイスアペア}はイベントで使用。《ファイト！》はキャストに使用してもよい。

▼セリフ：ゴブリン・ナイト

「お初めにかか。わが名はゴブリン・ナイト。王の命により参上した」

「我が王は、この街の覇権を得る為に、貴方がたを退けよと私に命じました。だが、貴方がたは、敵対するには惜しい、誇り高き方々だとお見受けする」「故に、私は貴方がたに乞い願う。これ以上、我が王、我が一族の邪魔をしないで頂きたい」

（断った）「残念です。では、申し訳ないが、この場で打ち倒させて頂く」

（『アヤカシ』がいる場合）「……私の同胞が世話になったようですね。敵は取らせて頂く。覚悟！」

（倒された）「くっ……想像以上に、強い……！」

◆結末

ゴブリン・ナイトが退場したらシーン終了。

●RLシーン：ふたりの主

条件：【猫の行方（2）】をリサーチした

登場：キャストの登場不可

◆解説

ローラがイーベルを見つける。そこにイーベルを従えている主、ゴブリン・ウィザードが登場し、彼女を生贄にしようと捕らえる。

イーベルは止めようとするが、ゴブリン・ウィザードの《死の呪言》により精神ダメージを与えられており、主に逆らえない。

◆描写1

ホワイティアをうろうろと探しまわったローラだったが、猫はどこにも見つからなかった。

「うう、猫ちゃん、どこに行っちゃったのかしら」

その時、脳裏に『フェイト』の言っていた事が思い出される。

「まったく、『フェイト』さんったら、レッドエリアになんかいるわけじゃないじゃない……ま、まあ、一応、見ていってあげないこともないけど……」

てくてくとレッドエリアへと向かうローラ。偶然立ち寄ったヒルコ街で、飼^{デイスアペア}い猫の姿を発見した。

▼セリフ：ローラとイーベル

ローラ「あ、猫ちゃんいた！ もー、こんな所に来ちゃダメじゃない！」

イーベル「にゃー……（な、なんでこんな所に来るんだよ。どうすっかな……）」

ローラ「もう逃げちゃダメよ。さ、おうちに帰りましょ。でも、『フェイト』さんの言ってた事、当たってたなあ。帰ったら……お礼、しないと、いけないよね……」

◆描写2

よっこいしょ、と。ローラが猫を抱きあげ、振り返ったそこに、黒いローブを着た化物が立っていた。腰を抜かして倒れるローラ。

▼セリフ：ゴブリン・ウィザードとローラ、イーベル

ウィザード「お嬢さん、ごめんなさいね。その猫は私のなの。返して頂戴」

ローラ「え……や、やだもん、猫ちゃんはわたしの猫ちゃんだもん！」

ウィザード「生意気な小娘ね。……あら、でも、良い生贄になりそうな魂の色をしているわ(*)」

イーベル「や、やめろにや！ その子は関係ないにや！」

ウィザード「イーベル。貴方、いつから私に口答えできるようになったのかしら？」

イーベル「にや……す、すいませんにや……」

◆結末

ゴブリン・ウィザードがローラの顔に手をかざすと、彼女は気を失う。ローラが連れ去られてシーンエンド。以降、【猫の行方3】をリサーチ可能に。

●フェイト：だいきらいな君を

条件：『フェイト』の事務所へ向かった

登場：〈社会：アストラル、ストリート^{ほか}〉 10

◆解説

リサーチ最後のシーン。イーベルは『フェイト』の事務所にいる。彼はもう逃げない。彼に対して《真実》を使用する事で、ゴブリン一族の居場所が明らかになる。

◆描写

黒猫は、『フェイト』の事務所の軒先に、肩身狭そうに座っていた。君達が近づいても、もう逃げる事は無い。

▼セリフ：イーベル

「あー……ここ、あんたの事務所だったのかにや。どうりでローラの匂いがすると思ったにや」

「ローラ、連れ去られちゃったにや。でもしょうがないにや。あんな危ない所に一人でくるからこんなことになるんだにや」

(居場所を聞いた)「そんなの言えないにや！ あいつらに逆らったら殺されるにや……ゴブリン一族はとんでもない奴らにや。慈悲とか欠片も無いにや」

(※《真実》を使用した)

「ローラは……いつも滅茶苦茶に撫でくり回してくるし、変な芸を仕込もうとしてくるし、出す飯は安物だしで良い事ないにや。飼い主っ面してくる所も嫌いにや。オイラ、誇り高いアヤカシなのに」

「でも……生贄にされて殺されるのは……なんか嫌にや。助けてやって、くれるかにや……？」

(肯定した)「ヤツらは、地下の洞窟にいるにや。元々メトロの線が走ってたところにな」

◆結末

キャスト達が廃棄メトロ線へ向かったらクライマックスへ。

■情報項目

最初に調べられる情報は以下のとおり。

『フェイト』：ローラ、猫の行方(1)

『バサラ』：イーベル、N◎VAのアヤカシ

『アヤカシ』：ゴブリン一族、N◎VAのアヤカシ

◆ローラ

〈社会：N◎VA、ストリート〉〈コネ：ローラ〉

10 ネヴァーランドで暮らす少女。『フェイト』に憧れて探偵の修行中だ。

12 黒猫型のペットロイドを飼っていたが、逃げられてしまった。

15 僅かだが、バサラ能力の素質があるようだ。

◆猫の行方1

〈社会：N◎VA、ストリート〉〈シャーロックホームズ〉

10 レッドエリア付近の中華街で目撃された。

◆イーベル

〈社会：アストラル、ストリート〉〈コネ：イーベル〉

12 旧型の黒猫型ペットロイドに意識が宿って生まれたアヤカシ。魔器の一族だ。

14 ローラという少女に飼われているようだ。
→【ローラ】

16 N◎VA軍駐屯基地周辺を中心として、諜報活動を行っているようだが……。

18 最近、N◎VAに現れたゴブリン一族の一員、ゴブリン・ウィザードにより捕まり、使い魔にされている。→【ゴブリン一族】【ゴブリン・ウィザード】

◆ゴブリン一族

〈社会：ストリート、アストラル、ST☆R〉

〈コネ：ゴブリン一族〉

12 カムイST☆Rより渡来した、ゴブリンと呼ばれるアヤカシの一族。→【ゴブリン種】

15 一族を率いるのは、ゴブリンの王であるゴブリン・キング→【ゴブリン・キング】

18 ヴィル・ヌーヴから呼び寄せたキングの側近、ゴブリン・ウィザードの立てた策により、現在N◎VAを自分達の国とする為の計画を進行中らしい。→【ゴブリン・ウィザード】

20 ゴブリン最強と謳われる戦士、ゴブリン・ナイトを擁したようだ。→【ゴブリン・ナイト】

◆ゴブリン種

〈社会：アストラル〉

14 ゴブリンとは様々な血脈の雑種であり、個体によって発現する〈血脈〉が異なる。代表的なものは鬼の一族、妖精の一族、獣の一族などだ。

良い生贄になりそうな魂の色

ローラは僅かだがバサラの素質があるため……だとは思いますが、実はあまり意味は無い。

このシナリオはあんまり難しい設定は盛り込まず、分かりやすさを重要視しているので、まあ、その……雰囲気を感じてほしい。

◆N◎VAのアヤカシ

〈社会：アストラル〉

- 12 公式には存在しないことになっており、N◎VAの治安維持部隊であるN◎VA軍により、市民の目に触れる前に処分されている。
- 14 人間社会と上手く折り合いをつけ、アヤカシとして生きながらも安全に暮らして行くため、サロン・ドルファンによる統治が行われている。
- 16 最近、外来のゴブリン一族が派手に暴れまわっているせいで、サロンによる統治が乱れ、アヤカシ社会全体が危機に曝されている。

◆ゴブリン・キング

〈社会：ST☆R、アストラル、ストリート〉

〈コネ：ゴブリン一族〉

- 15 なまくらでは傷一つ付けられぬ強靱な肉体を持つゴブリン一族の王。ペルソナはカリスマ。
- 17 元々、ST☆Rの魔会の末席に名を連ねていたが、その過ぎた蛮行により破門され、ST☆Rから追放された。
- 18 現在N◎VAのどこかに潜伏しているはずだが、足取りは不明。ゴブリンたちか、彼らに詳しい者ならば知っているかもしれない。

◆ゴブリン・ウィザード

〈社会：ヴィル・ヌーヴ、アストラル、ウェブ〉

- 12 ゴブリンの中でも特に魔術と頭脳に長ける。
- 15 ニューロエイジにおいての魔術とも言える電脳^{ミストリ}の技術を極めるため、レ・トロン・ド・ルテチア(*)に所属し、その技術を磨いていた経歴をもつ。ニューロ：ウィザードである。
- 17 現在、イーベルという黒猫のアヤカシを操り、N◎VA軍の偵察を行わせている。
- 21 調べさせていたのは、N◎VA軍が所有する戦術核について。これをハッキングし、制御下に置く事で、サロンやN◎VA軍などとの交渉材料にするつもりでいる。

◆ゴブリン・ナイト

〈社会：アストラル、ストリート〉

- 12 ゴブリンは一般的に低級なアヤカシとされている。しかし、ゴブリン・ナイトはアヤカシ界でも一目置かれる歴戦の戦士であり、最強のゴブリンとも言われている。
- 15 体のいたる部分をサイバー化している。あらゆる攻撃はそのサイバーアームにより弾かれ、逆に痛手を負わされてしまうらしい。
- 17 誉れ高い騎士であり、主君の命を絶対とする。ブランド：ナイトである。

◆猫の行方2

〈社会：N◎VA、ストリート〉〈シャーロックホームズ〉

- 15 ヒルコ街で目撃されたようだが……。→イベント「●ふたりの主」へ。

◆猫の行方3

〈社会：N◎VA、ストリート〉〈シャーロックホームズ〉

- 13 『フェイト』の事務所にいる。

レ・トロン・ド・ルテチアに所属

この企業が本シナリオに関係するわけではない。ニューロエイジのアヤカシは、人間社会に溶け込んで生活しているものが少なくない、という表現として盛り込んだ設定だ。



クライマックスフェイズ

Climax Phase

●ゴ布林と少女と炎の祭壇

◆解説

クライマックスシーン。現代の地下迷宮とも言える廃メトロで、ローラが儀式の生贄に捧げられようとしている。

◆描写

廃業メトロ線の奥深く、開けた空洞になった場所に、多くのゴ布林たちがひしめくアジトがあった。その奥には、原始的な炎が祭られた祭壇があり、電脳で編まれた魔法陣が敷かれていた。

その祭壇の上に横たえられたローラ。ゴ布林・ウィザードが呪文を詠唱すると、その体が宙に浮く。うう、と苦しうに声をもらした。

玉座に鎮座していた、ひと際巨大な体に赤黒いオーラを纏ったゴ布林が立ち上がる。

▼セリフ：ゴ布林・ウィザード

「キング。この娘の魂を生贄に捧げれば、我らの秘術も盤石なものとなりましょう」

▼セリフ：ゴ布林・キング

「うむ」※ローラに手をかざす。《^{ゴスベル}神の御言葉》(*)
(キャストらに阻まれた)「何奴……なんだ、見れば
アリのような人間ではないか」

「人間風情がオレに齒向かうだと。愚かな……よもやここから生きて出ることはかなわんぞ」

「他の部下どもとオレは全てが違うぞ。オレに流れるのは王の血。不死身の力よ。貴様らは王の血に負けるのだ」

「ゴ布林・キングに逆らったものには、降伏すら許さん！ 皆殺しだ！」

▼セリフ：ゴ布林・ナイト

「やはり、もう一度あいまみえることになりましたね。今度は、負けません……！」

◆カット進行

敵は以下の通り。

- ・ゴ布林・ナイト : AR 3
- ・ゴ布林・ウィザード : AR 3+1
- ・ゴ布林・キング : AR 2

ゴ布林・ナイトが近距離。ウィザードとキングは中距離で1エンゲージ。

ゴ布林・キングを倒したら戦闘終了。シーンを終了してエンディングへ。

ローラに《神の御言葉》

登場と同時に防御系神業を使用する事で、防げるとする。防御系神業が無い場合、イーベルが『アヤカシ』の《霧散》に《ファイト!》を使用し、救出してもらう。

ゴ布林・キングの神業

《不可触》は、キャストの戦力や神業の数が十分ならば、「ライフパス：悪魔の報復（IWOR 53p）」を取得させて効果を書き換えてもいい。

エンディングフェイズ

Ending Phase

アヤカシのエンディング

テストプレイでかなり多かったエンディングが、生き残ったゴブリン・ナイトをサロ・ドルファンに引き入れるというものだ。

王を失ったナイトは、仕えるべき誇り高い君主を見つけた場合、その者に新たな忠誠を誓うだろう。それはアルドラかもしれないし、キャスト自身かもしれない。

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。

●アヤカシ：夜の支配者

任務を達成した『アヤカシ』を、アルドラが労う。

▼セリフ：アルドラ

「ご苦労様でした。あなたのお陰でN◎VAの夜は守られました」

「まったく、田舎者のアヤカシは不法でいけないわね。この街の夜を支配するには、人間社会と上手く折り合いをつけないと……そんな事も分からないなんて」

●バサラ：ねこのおながえし

任務を終えて聖母殿に帰還しようとする『バサラ』に、イーベルがお礼を言いにくる。

▼セリフ：イーベル

「『バサラ』……えっと、その……なんにや」

「こ、今回は、せ、世話になったにや。一応、感謝

しといてやるにや」

「べ、べつに、ローラがどうなってもオイラには関係ないけどもにや！ う、ウソじゃないにや！

ちょ、そんな目で見るにや！！」

「な、なんか困った事があったら言えにや。使いつぱしりくらいなら、してやるにや……」

●フェイト：騒がしい日常

アストラルという、非日常の世界を体験した君とローラであったが、数日後、君の目の前にはいつもと変わらない日常が繰り広げられていた。

▼セリフ：ローラ

「探偵さん、探偵さん！ 大変なのです！ また猫ちゃんがいなくなっちゃったのです！」

「せっかく今流行りのニューロなトリミングをしてあげようと思ったのに！（モヒカン姿の猫の写真が載ったペット雑誌を持って）」

「あ、いた！ 待てー！ なんて逃げるのよー！！」

シナリオコンセプト：ラン・キャット・ラン

●コンセプト

本シナリオは、ニューロエイジにおけるサイバーとアストラルの融合感を出しつつも、コミカルな雰囲気と分かりやすい展開で誰にでも楽しめる、オーソドックスなシナリオとなっている。

N◎VAを初めて遊ぶ人や、コンベンションなどの場で遊ぶのにも向いているシナリオだ。

●アヤカシとニューロエイジ

ニューロエイジは、電脳化が普及した近未来世界だ。そんなテクノロジーの最先端を描くN◎VAというゲームに、何故か、魔法使いや妖怪、化物などのファンタジーの生き物たちが闊歩している。

これが、非常に面白い。

電脳ものは電脳もの、ファンタジーものはファンタジーもの、と分けて遊ぶ事も出来る。だが折角だ、それらが融合した世界観で遊べる方が、らしくて面白いじゃないか。このシナリオでは、「ニューロエイジのアヤカシたちって、どんな生活をしているんだろう」という空想の産物が、至る所に散りばめられている。

ペット型ロボットに付喪神がついて野良猫又になっている。ひ弱なコボルトたちが細々と合成食品プラントを営んでいる。魔術に長けたウィザードが、トロン会社で電脳の技を磨いている……そんな愉快な妄想を詰め込んだシナリオが、この『ラン・キャット・ラン』なのだ。是非ともその空気感を演出し、楽しんでほしい。

●ローラとイーベル

このシナリオを遊んだテストプレイヤーたちの意見が一致した見解がある。それは、「このシナリオのヒロインはイーベルだ」ということだ。

残念ながら、一見ヒロインらしいローラはボンクラ度が高すぎ、完全にイーベルにヒロインの座を取って代わられていた。悪いことではない。ローラのボンクラっぷりは、賑やかし役として大いにアクトを盛り上げていた。

●シナリオチューン

このシナリオは作りが単純であるため、RILの好みでチューンが簡単にできる。例えば、敵ゲストを自分好みのゴブリン（不思議な響きのフレーズだ）に差し替えてもいい。ちなみに、本シナリオの敵ゲストは全員、「ゴブリン+（ブランド名）」というネーミングルールになっている。このルールに則るだけでも、実に208種類のゴブリン（！）が作成可能なのだ。ゴブリン・ニンジャやゴブリン・アイドルなんか、非常に面白いと思う。

実は、そもそも本誌に掲載されているこのシナリオ自体、編者によるシナリオチューンの産物である。（頂いた原案ではゴブリン・ナイトはおらず、代わりにどう見ても某世紀末漫画のハ●ト様な、ホブゴブリンという敵ゲストがいた）

大枠は変えなくても、回す人によって色んな味がけができる、そんなシナリオになっている。是非、自分好みの色付けを行ってみてほしい。

●プレイヤーが4人の場合

このシナリオは3人用として作られているが、4人（あるいは2人）でも遊ぶ事は可能だ。この場合、一例として以下の追加ハンドアウトを載せておく。（もちろん、別の導入でも構わないし、プレイヤーが使いたいキャストに合わせてハンドアウトを作成しても構わない）

▼推奨スタイル：カブトワリ

コネ：「ゴブリン・キング」／推奨スト：外界君の仕事は、敵と戦うことだ。

N◎VA軍情報部の少佐、榎田千里からの依頼の標的は、ゴブリン・キング。その呼び方は決してコードネームなどではない。街で噂となっている伝説上の小鬼（と言ってもサイバーアップしているが）が本格的に市民に目撃される前に処分してほしい、と言う話だ。

神とあつては神を殺し、鬼とあつては鬼を殺す、君にふさわしい仕事だ。

【PS：ゴブリン・キングを退治する】



ゴ布林・ナイト

カブト●、カタナ、アヤカシ◎

▼設定

「王を護る事こそ、騎士の務め！」

堅牢無比な守護力によって、アヤカシ界でも伝説となっているゴ布林族の女騎士。

▼神業

難攻不落□ 死の舞踏□ 霧散□

▼能力値

理性：6 / 10 感情：2 / 11

生命：10 / 13 外界：7 / 8

▼技能

白兵 5 ♣♣♦♦

運動、知覚 3 ♣♣♥♦

※反射防御 3 ♣♣♥♦

※無敵防御 2 ♣♣♥♦

※無形の盾 3 ♣♣♥♦

※ディフレクション 3 ♣♣♥♦

※突き返し 2 ♣♣♥♦

※修羅 2 ♣♣♥♦

※鬼の爪 2 ♣♣♥♦

※血脈：鬼の一族 4 ♣♣♥♦

▼ブランチ

カブト：ナイト 3レベル

[受け]で守る対象をシーン(選択)とする。アクト中レベル回。□□□

▼装備

・武器：次元刀 星：16 / 電：-

攻：斬+9 射：至近 受：-

柄だけの剣。相手の受け値を-10。

・グリフォン※ 星：-/ 電：20

生身のデータが[攻：+4、受：6]に変更。

持った武器の受け値+3。防御特化義手。

・サイバーアシスト 星：15 / 電：15

グリフォンに装着。1カット1回、プロットと手札を入れ替える。

・ハードワイヤード 星：20 / 電：21

AR3。

・マッスルカーテン 星：12 / 電：- 生身の受け値+4。

・防具：アダマス 星：-/ 電：-

※防(殴/刺/斬/爆)：5/3/4/7

▼行動指針

優先プロット：♠♥♦ / AR：3

全てのゲストへの物理攻撃に対して生身で受けを行う。組み合わせは《白兵》《突き返し》《無敵防御》。受け値10。達成値+4(最大25)。

受けが成立したら、即座に手札から《白兵》《修羅》《鬼の爪》《血脈：鬼の一族》で攻撃。武器は次元刀。ダメージ[殴+6+差分値×2]、軽減不可。相手の受け値は10点分無視する。



ゴ布林・ウィザード

マヤカシ、ニューロ●、アヤカシ◎

▼設定

「魔術にもトロンを使う時代なのよ」

ルデチアに所属経歴を持つゴ布林の電脳魔術師。その電脳魔術をもってゴ布林・キングに仕え、導いた。

▼神業

死の呪言■ 電脳神□ 霧散□

▼能力値

理性：6 / 15 感情：6 / 15

生命：3 / 5 外界：6 / 13

▼技能

電脳 4 ♣♣♥♦

自我 6 ♣♣♥♦

※封印 2 ♣♣♥♦

※魔法陣 3 ♣♣♥♦

※干涉 4 ♣♣♥♦

※バウサーージ 9 ♣♣♥♦

※ツェノンの逆理 3 ♣♣♥♦

※血脈：妖精の一族 3 ♣♣♥♦

▼ブランチ

ニューロ：ウィザード 2レベル

判定に使用するカードの suit を任意のものに変更。アクト中レベル回。□□

▼トロン

・ネクストマーズ 星：14 / 電：20

AR3、ソフト7つ。《電脳》常時+2。

バーンアフターライフ：ルデチアで取得。

・サポートコンパニオン 星：-/ 電：16

独自のARを1持つ。ソフト3つ分。

・アルカナソーサリィ×2 星：-/ 電：20

マヤカシ特技の判定に追加でプロットを使用して、達成値を+[消費プロットの数字]。使い捨て。□□

▼行動指針

優先プロット：なし / AR：3+1

アストラルゴーストで登場。幅広い行動が取れるので、状況に合わせて使い分ける。

攻撃ならば《電脳》《自我》《干涉》《パワーサージ》《血脈：妖精の一族》で[刺+9]のダメージを与えつつ、装備を1つ故障させる。達成値+2。

《ツェノンの逆理》での達成値減少や、《魔法陣》での精神ダメージ軽減、《封印》で特技1つの封印なども。

全ての装備は[魔剣化]している。「ライフパス：死の呪言」取得。



ゴ布林・キング

カリスマ●、レッガー、アヤカシ◎

▼設定

「我に流れるは王の血。故に決して退かぬ」

無慈悲かつ乱暴な行いのせいで魔会(ミニストリ)を追放されたゴ布林の王。巨大かつ強靱な体を持つ。

▼神業

神の御言葉■ 不可触□ 霧散□

▼能力値

理性：3 / 12 感情：7 / 14

生命：5 / 10 外界：7 / 13

▼技能

運動 4 ♣♣♥♦

白兵 6 ♣♣♥♦

交渉 3 ♣♣♥♦

※狂信者 3 ♣♣♥♦

※イカサマ 7 ♣♣♥♦

※ガン付け 3 ♣♣♥♦

※追い打ち 3 ♣♣♥♦

※眷属 2 ♣♣♥♦

※畏怖 4 ♣♣♥♦

※血脈：獣の一族 9 ♣♣♥♦

▼ブランチ

カリスマ：キング 2レベル

Kのカードを任意の suit のAとして使用。アクト中レベル+1回。□□□

▼武器

・トールハンマーD 星：-/ 電：15

攻：爆+8 受：2 射：至近

▼その他の装備

・防具：黄昏の衣 星：20 / 電：-

肉体・精神ダメージを10点まで吸収。

バーンアフターライフ：魔会で取得。

・Chiller 7 星：12 / 電：18

肉体ダメージに常に+4。

・セカンドハート 星：17 / 電：15

肉体ダメージ11を無効化。シーン1回。

※防(殴/刺/斬/爆)：2/1/3/1

▼行動指針

優先プロット：Kのカード / AR：2

最初のマイナーで《血脈：獣の一族(魔性)》を使用する。

《白兵》《イカサマ》《ガン付け》で攻撃。達成値+7、ダメージ[爆+21]。対象はマイナーアクションが行えなくなる。以降は《追い打ち》を組み合せ、リアクション不可に。

ゴ布林ナイトがリアクション出来ない攻撃に対しては《交渉》《白兵》《狂信者》《イカサマ》で行動を失敗させる。肉体ダメージを受けた場合、手札から《血脈：獣の一族》を使用して即座に治癒を行う。プロット消費なし。「ライフパス：悪魔の報復」取得。



プレアクト情報

◎ ◎ ◎
Pre-act info.

本シナリオについて

このシナリオは、N◎VAのストリートの色……暴力や狼狽さ、悪意などの表現を濃く出している。そういった特有の表現を苦手とするプレイヤーもいるだろう。ストーリーの展開も万人受けする物とは言えないかもしれない。事前によく好みのすり合わせを行って欲しい。

■シナリオ情報

▼推奨プレイ環境

Skype、オフを推奨。

テキストであれば、プレイヤー3人を推奨。

▼プレイ時間

3～5時間（テキストの場合、9～15時間）

▼プレイヤー人数

3～4人

▼シナリオ傾向

ストリート、犯罪組織、シリアス

●シナリオレギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：30～200点を想定

最大達成値：単独で20台後半、支援込みで30前半

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

楽しい夢を見ました。

小さなお店と、顔なじみのお客さま。

そう高価ではないコーヒーの匂いと、

洗いたてのテーブルクロスの白。

そんな平凡な、幸せな夢。

からり、とドアのベルが鳴ります。

お客様が、いらしたみたいです。

大きな音がして……私の脳が、脳がかきまぜられて、あなたのことも、わすれそうになります。

それは、水底と暗い街の中で見た、幸せな夢、でした。

トーキョーN◎VA The Detonation

『顔なし女のこもりうた』

運命の扉が開かれて、彼女の夢は泡と消える。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●推奨スタイル

- ①『フェイト』：私立探偵
- ②『カブト』：ボディガード
- ③『レッガー』：河渡連合の任侠
- ④『イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課

●プレイヤーが3人の場合

『レッガー』あるいは『イヌ』のいずれかを抜くこと。どちらを抜くかは、プレイヤーの希望を考慮して選ぶと良い。

●事前知識について

このシナリオは単体でストーリーとして完結しているが、もし『Nothing hurts like the truth』（『TND』付属シナリオ1）を遊んでいる場合、ゲスト達の過去設定をより深く楽しめるかもしれない。（遊んでいなくても楽しむ上での支障にはならない）

●必要な神業

《^{トゥルース}真実》には使用想定シーンが存在する。
キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、最低1個の防御系神業が必要だ。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：ストリート〉〈社会：警察〉などである。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。
『フェイト』→『カブト』→『レッガー』→『イヌ』
→『フェイト』

シナリオハンドアウト

各キャストには右記の設定が追加される。キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

『フェイト』：ルミナの勤める喫茶店に通いつめている
『カブト』：ミュリエルという暗殺者を撃退した事がある
『レッガー』：ジムという男から借金を取り立てていた
『イヌ』：特になし

推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：ルミナ・フロス

推奨スート：感情

ルミナは、最近君が通いつめている喫茶店に勤める女性だ。屈の様な微笑みか特徴的な彼女の愛嬌のおかげで、合成品のコーヒーの味も少し良く思えたりするものだ。

そんなある日、ルミナは君に相談をもちかけてきた。最近、尾行されているような気配に悩まされており、数日の間、帰宅に同伴してくれないかというのだ。

専門外の依頼だが、彼女の淹れる美味いコーヒーのためなら安いものだ。

【PS：ルミナ・フロスを守る】

推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：“フェイスレス” ミュリエル

推奨スート：理性

かつて君が、警護の依頼の際に撃退した暗殺者、“フェイスレス” ミュリエル。変装の達人で、どこにでも忍び込んで攻撃を仕掛けてくる恐ろしい敵だった。

そして今、君の元にかかってきた謎のコール。ミュリエルを名乗る女からの、警護の依頼。しかし、指定の場所に向かえども、そこに彼女の姿はなかった。差し迫った様子の彼女の声が、妙に耳に残った。

【PS：依頼人を捜しだし、真意を聞く】

推奨スタイル：レッガー

SCENARIO HANDOUT

コネ：ジム・フロス

推奨スート：外界

ろくでなしのジム・フロスが死んだ。河渡の金融会社から、借金を繰り返していた男。定職に就くわけでもなくフラフラしていた落ちこぼれだ。

奴が死ぬのは、君にとって一向に構わないことだが、残った多額の借金だけはどうかして取り戻さなければならない。たとえ相手が墨田川に沈もうと、貸した以上のものをむしり取るのがレッガーというものだ。

【PS：ジムの借金を回収する】

推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“百眼神” アリー塚原

推奨スート：理性

君が巡回中に見つけた、木更津湖に浮かんでいた謎の遺体。鑑識班の検分に立ち会っても、遺体は損傷があまりに激しく、個人の特定すら不可能だという。凶悪犯をなんのこともなくさばく君でも、その様相は眉をひそめざるを得ないものだった。

君の嗅覚が、これはただ事では無いと告げる。物言わぬ被害者のために、君は調査に乗り出した。

【PS：死体の身元を調査する】

RL用テキスト

Text & Ruler

■ストーリー

カーライル・シンジケートは、同じく北米系の組織であるヒュブノスと結託して、N◎VAにおける兵力増強プロジェクトを進めていた。それは、“ムネモシユネ”というサイコ・アプリケーションを用いて人間の人格・経験などを抽出し、他者へと転写する事で、歴戦の兵士を手軽に量産するという恐ろしいものであった。

しかし、その技術には欠陥があった。人格を抽出された人間が、精神崩壊を起こして死んでしまうのだ。更に、抽出された人格データは欠損が多く、転写されたものもまた、記憶障害を起こしてしまう。

『フェイト』の行きつけの喫茶店で働くルミナ・フロストと名乗る女性は、その人格転写実験の被検体だ。本物のルミナは実験により死亡しており、その正体は、彼女から抽出された未完全な人格を転写されたカーライルの殺し屋、“フェイスレス”

ミュリエルである。カーライルの元から逃げ出した彼女は記憶の多くを失っていたが、それ故に、流れ着いた場所で幸せに暮らしていた。

しかし、貴重な実験のサンプルを失うまいと、カーライルの魔の手が彼女に忍び寄る。見知らぬ追手の恐怖に怯えるルミナに助けを求められた『フェイト』、ミュリエルがカーライルから逃げ出す時に頼ろうとした『カブト』、生前のルミナ（本物）の血縁者と関わりがあった『レッガー』、木更津湖に浮かんだ謎の水死体の身元を洗う『イヌ』。彼らがルミナの真実に辿り着き、カーライルの企みを阻止する事が出来れば、シナリオは終了となる。

■クライマックスへの条件

サイコ・アプリケーション「ムネモシユネ」に関しての情報を入手し、実験施設のアドレスへ向かうとクライマックス。

オープニングフェイズ

Opening Phase

●カブト：消えた女

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『カブト』が、過去の敵である“フェイスレス”ミュリエルから、護衛の依頼を受けるシーン。彼女との合流場所に向かっても、そこに彼女の姿はない。

◆描写 1

のしかかるような曇天の下、君が仕事用に使っているポケットロンが鳴った。

「『カブト』ね……？ 私はミュリエル」

“フェイスレス”ミュリエル。変装の達人で、凄腕の暗殺者。かつての護衛任務の際、君がかなり苦戦を強いられた相手だ。そんな相手から、何故コールがかかったのだろうか？

▼セリフ：ミュリエル

「お願いがあるの、護衛の依頼。すぐに来てほしい」「震なんかじゃないわ……。追われてる。助けてほしいの」

「依頼料なら、既に振り込んだわ。プラチナム。確認して」

「浅草橋で待ってる。お願い、早く来て」

◆描写 2

君は合流場所に向かった。しかし、浅草橋に彼女の姿はなかった。

待てど暮らせど、依頼人も襲撃者も姿を見せず、そのまま雨が降り始めてしまった。

悪戯だったのだらうと、君がその場を立ち去ろうとした瞬間、再びポケットロンに着信があった。

▼セリフ：ミュリエル

「タス……ケテ……キエテ……シマウ (*)」

◆結末

地面に倒れ込むような音を残して、ポケットロンからの通信は途絶えた。(*)『カブト』が彼女を探し始めたらシーン終了。振り込まれた1プラチナムは、もちろん報酬点として使用してよい。

●フェイト：喫茶店の娘

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『フェイト』のオープニング。ヒロインであるルミナとの出会いを描く過去回想シーンの後、時を戻し、彼女から帰宅同伴の依頼を受ける。

◆描写 1

のしかかるような曇天の日。君はふと、街の片隅にある、寂れた喫茶店に立ち寄った。

そこで出会った店員が、ルミナ・フロスだ。風のようなおだやかな笑みが印象的な女性だった。

「キエテ……シマウ」

ミュリエルはこの時、ムネモシユネにより、記憶や意識を上書きされている最中だ。消えてしまうのは、「自分の意識」である。

ポケットロンからの通信

以降、このポケットロンへ連絡を取る事はできない。

ポケットロンの位置を割り出すとした場合、壊れて使い物にならなくなったそれが墨田川の底で発見される。(倒れ込んだ際に落したのだ)

コーヒーの質は上等とは言い難かったが、彼女の笑みのお陰で、少しはマシに思えたものだ。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「いらっしゃいませ。お一人様ですか？」
(注文を聞きながら)「初めてご来店される方ですね？ 小さなお店ですから、お客様のお顔はすぐに覚えちゃうんです」

(注文にクッキーをつけて出す)「サービスです。……あ、もしかして、甘いものお嫌いでしたか？」

◆描写2

あれから、気づけばその喫茶店にしばしば通うようになっていた。ルミナとも顔なじみになってきた頃。

その日は雨が降っていた。ルミナの様子が、どこかいつもと違った。

▼セリフ：ルミナ・フロス

(窓の外を不安そうに見ている)「……あ、いらっしゃいませ」

(しばらく会話した後、意を決したように)「あの、『フェイト』さん、折り入ってお願いがあるのですが」「最近、誰かに尾行されているような気がして……。気のせいかもしれないんですけど、何だか怖くて……」

「その……。ご迷惑だとは思いますが、帰宅の時、途中まで送っていただけませんか (*)」
「一週間ほどで構いません！ お礼はします。少ないですが…… (1 シルバーを差し出す)」

◆結末

ルミナからの依頼を受けたらシーン終了。

●レッガー：愚者の死

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

河渡から金を借りていたジム・フロスの死を描く。多額の借金を残して死んだジムから、何と少しでも金を回収するため、『レッガー』が動き始めるシーン。

◆描写

ろくでなしのジム・フロスが死んだ。河渡系列のヤミ金融で借金を繰り返していた男だ。この街には、掃いて捨てるほど居る落ちこぼれ。

雨が降りしきる路地裏に、ジムの死体が転がっていた。酒とドラッグでボロボロの体は、バラして売っても二束三文にもなりそうにない。

死骸を見下ろす君の脳裏に、ジムとの最後の会話が思い起される。

▼セリフ：ジム・フロス (回想)

(ドラッグに浸かった虚ろな目で)「今日も取り立てに来たのかよ、毎度毎度ご苦勞な事ですなア……」「返せて言われてもなア……金無いから借りたわけだしなア」(殴っても罵っても、ヘラヘラと笑う)

「悪かったって。実は金のあてがあんだよ……近々デカイ金が入るんだ (*)、そしたら、返すって。嘘じゃねえよ」(クツクツと笑いながら)

▼セリフ：『レッガー』の部下 (現在)

「どうしやすか。何とかして貸した分を取り戻すメドをたてねえと、音羽の姐さんにどやされちまいますぜ」

◆結末

『レッガー』が仕事に向かう意思を見せたらシーンエンド。

●イヌ：ミスティック・レイク

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

木更津湖に浮かんだ謎の遺体について、『イヌ』が捜査を開始するシーン。

◆描写

雨が降りしきる暗い空の下、君が巡回中に見つけた、木更津湖に浮かんだ謎の死体。

機動鑑識班の検死に立ち会った君だったが、その遺体は元々人間だったとは思えないような、筆舌に尽くしがたい状態だった。

▼セリフ：アリー塚原

「……ダメね。外見の特徴はおろか、DNAサンプルも全然取れない。遺体から身元を割るのは不可能よ。ここまで損傷の激しいものは久しぶりに見るわ」「顔も何もかも分からなくなるまで水の中にいたなんて……惨いことね」

『イヌ』、これは骨の折れるヤマになりそうよ。それでも、やる？」

「そう……貴方らしいわね。私も、遺体の解析を続けてみるわ」

◆結末

捜査費用として3シルバーを渡してシーン終了。

『フェイト』への依頼

ルミナはこの時点では、あくまでもストーカーかもしれない相手に怯える女性である。『フェイト』に依頼したのは、彼女が『フェイト』のことを憎からず思っているからだ。

『近々デカイ金が入るんだ』

娘であるルミナを、カーライルに売る事で莫大な金を手に入れる予定だった。この時、ジムはルミナがデガーマの専属娼婦になると聞いていたが、実際は実験体として使用され、死亡してしまふ。

金を得たはずのジムが路上で死んでいた理由はなんなのか。それは、RLの想像にお任せしよう。

オープニングの時間軸

フェイトのオープニングが、時系列的に他から少し聞いて、一番最後である。他の順序は未確定だが、ほぼ同時期と思って良いだろう。



ルミナ・フロス

エキストラ (マネキン◎)

▼解説

「私、このお店のコーヒーの香り、好きなんです」

本作のヒロイン。喫茶店でバイトをする、屈の様なおだやかな微笑みが特徴的な女性。

本来のルミナという女性性は、父親 (ジム) の借金のかたに娼婦をさせられていた。その後、カーライル・シンジケートによる人格転写実験により死亡。『イヌ』のオープニングで上がった死体は彼女のものである。

『フェイト』と出会うルミナは、彼女から抽出された不完全な記憶・人格を転写された“フェイスレス” ミュリエルだ。

では、今のルミナはただの偽物なのか？
その答えは、物語の終わりにプレイヤーたちに委ねられることになる。

リサーチフェイズ

Research Phase

●フェイト：悪魔の待ち伏せ

条件：リサーチ最初のシーン

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉10

◆解説

『フェイト』がルミナの帰宅に同伴するシーン。

夜道を彼女の自宅まで送る途中、何者かの気配を感じる。尾行者は「トループ：カーライル銃手」である。彼らの〈隠密〉判定に〈知覚〉で勝利すると、【ルミナを尾行する者】の情報を入手できる。

◆描写1

日が暮れる時刻。約束通り喫茶店にルミナを迎えにきた君は、彼女からのサービスだというコーヒを飲みながら、彼女の支度を待っていた。ルミナは制服を着替え、普段着で出てくる。顔には申し訳なさそうな微笑みを浮かべていた。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「お待たせしてしまってごめんなさい。店長さんが、今日は片づけはいいからもう帰りなさいって」「それじゃ、よろしくお願いしますね」

◆描写2

街外れにあるという自宅への道は、暗い。確かに、女性が一人で帰るには少々危険な場所だ。ふと、君は何者かの視線を感じた。

▼セリフ：尾行者

「チ……勘のいい奴だ」※光学迷彩を起動して闇に消える。退場。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「やっぱり、誰がついて来てたんですか……?」「カーライル……? 何ですか、それ」「マフィア……! どうして、そんな人たちが私が……!?」

◆結末

怯えるルミナの表情を映してシーンエンド。なお、ここで尾行者の情報を入手できなくても、情報項目としては何度でもリサーチ判定が可能だ。

●カプト：見知らぬ顔

条件：『カプト』がルミナに会いに行った

登場：〈社会：ストリート^{ほか}〉〈コネ：ルミナ〉10

◆解説

『カプト』がルミナに会うシーン^(*)。ミュリエルとの合流場所付近で目撃されたという彼女だが、彼女はその事を覚えておらず、ミュリエルという人間のことも、『カプト』の事も知らないという。〈知覚〉か〈心理〉で12の判定に成功すれば、彼女が嘘についてなさそうだと分かる。^(*)。

◆描写

君は、ミュリエルとの合流場所で目撃されたという女性に会いに来ていた。

▼セリフ：ルミナ・フロス

「えっと……どちら様、ですか?」「(ミュリエルの事を聞いた)「……? すいません、存じませんね……」」「貴方とも……多分、初対面だと思います。でも、私最近、ちょっと記憶がおぼろげで。どこかでお会いした事が有ったのなら、ごめんなさい」「その、ミュリエルって方、どんな人なんですか?」「そうですか……。早く見つかるといいですね」

◆結末

ルミナとの会話がひと段落ついたらシーン終了。

●フェイト：仄暗い街の底で

条件：〔歓楽街のアドレス〕に向かった

登場：〈社会：N◎VA、ストリート〉10

◆解説

過去にルミナが目撃されたという歓楽街に来るシーン。聞きこみ(交渉)や〈社会：ストリート〉、〈売買〉などで目標値12に成功すると、過去にルミナが働いていたという店の人間(娼婦)から、話を聞く事が出来る。

◆描写

すえた臭いの染みついた歓楽街。ネオンのけばけぼしい光が、夜の闇に妖しく踊る。

ルミナには、あまりに似つかわしくない場所。本当に彼女は、こんな場所にいたのだろうか?

▼セリフ：気だるげなマネキン(エキストラ)

「ルミナ? 知ってるよ。以前うちで働いてた」「変な子だったよ。夢見がちっていうか、バカっていうか。親父の借金のカタに売られてんだっけ? そんなのマジで返そうとするバカ、いないよ」「そのくせ、お父さんは私のこと大切に思ってるの、とか言ってるさ。ホント、バカみたい」「ある日、その親父が急に店に来て、ルミナ連れて出てってさ、それっきり。あの子帰ってこなかったよ。今頃、どうなってんだか」「(ホロなどを見せた)「すごい似てるね……。でもこれ多分、別人。あの子、こんな朗らかな笑いか、しないもん^(*)」

◆結末

謎を残したままシーンを終えること。

カプトがルミナに会う

『カプト』への依頼の際に電話から聞こえたミュリエルの声と、ルミナの声は明らかに違うという事を伝えたと良い。もちろん、変装用義体の変声器によるものだが、尾行者のせいでナーバスになっているルミナは最初、『カプト』に対しても警戒の色を見せる。『フェイト』などが安心させると、警戒の色を解いて質問に答えてくれるようになる。

嘘をついていなさそう

〈オシログラフ〉などであれば、確実に嘘はついていないと分かる。他の特技などで彼女から何かを聞き出そうとされた場合であるが、以下の指針を参考に受け答えを行ってほしい。
・ルミナは自分の自我が誰かのコピーなどという自覚はしていない。
・おぼろげながら過去の記憶はあるものの、詳しく思い出すとすると詰まってしまう。例えば、アサクサに住んでいた事は思い出せるが、具体的な位置は思い出せないなど。
・事故か何かにあって記憶喪失になったのだらうと思っており、あまり不便を感じていないのでそのうち治るのだらうと思っている。

こんな笑い方しない

生前のルミナは夢見がちだったとはいえ、悲惨と言える人生を送ってきたのだ。朗らかな笑顔などそうできないだろう。

実際にはどんな笑い方だったのか。それはRLやPL諸氏の想像にお任せする。

●レッガー&イヌ：ハイエナたちの沈黙

条件：[アジトのアドレス]に向かった

登場：(社会：ストリート) 13

◆解説

女性の遺体が運び込まれたという、カーライルのアジトに乗り込むシーン。トループとの戦闘になる。

戦闘終了後、彼らを尋問できるが、デガモ・ベインティの名前が出そうになると「沈黙の掟」(『WOR』p13)が発動し、彼らは死亡する。

◆描写

レッドエリアの廃ビルの中に、そのアジトはあった。無骨な鉄の扉を開けると、合成煙草の煙の向こうから、北米系らしき男たちが睨みつけてくる。

▼セリフ：北米訛りのレッガー

「何だお前ら。ここは私有地だ、さっさと出て行け」

「どうやら怪我したいらしいな」

◆カット進行

敵は以下の通り。

・カーライル戦闘員トループ : AR 3 (15人)

・カーライル銃手トループ : AR 2 (15人)

キャストは1エンゲージ。戦闘員トループはそこから近距離、銃手トループは中距離の位置にいる。敵の残り人数が10人以下になれば戦闘終了。

▼セリフ：敵の残党

「クソ!!なんだってんだ!!」

(運び込まれた死体の身元について聞かれた)「知るか! 俺らは言われた通り“処理(*)”しただけだ!!」(処理を指示した者について聞かれた)「い……言えるか。ヒッ……! 言う、言います!! 指示したのはデガ……ぐ、グワッ!!」※「沈黙の掟」の効果で死亡

◆結末

ここでは、これ以上の情報は見つけ出せそうもない。キャストがアジトを後にしたらシーン終了。

●RLシーン：夢の終わり

条件：[ミュリエルの追加情報]の情報を入手した

登場：キャストの登場不可

◆解説

ルミナ(≡ミュリエル)が、デガモによってムネモシュネを切られ、記憶を取り戻すシーン。デガモが使用した《腹心》^{ラストハンド}の効果により、彼女の心はデガモに縛られる。

◆描写

降りしきる雨の中、閑古鳥の鳴く喫茶店で、ルミナは一人、窓の外を眺めていた。

ふと入口の扉が開く。仕立てのいい白いスーツを着た壮年の男……デガモ・ベインティが、数人の取り巻きと共に入ってきた。

「誰、ですか……」

怯えるルミナを見下ろしながら、デガモはポケットから何かのスイッチ(*)を取り出し、ボタンを押した。

「何……? い、いや、いやああああ!!」

急に頭を抱えてうすくまるルミナ。悶え苦しむ彼女の顔がドロリと溶け(*), 誰ともつかぬ顔になる。肩で息をしながら、光の失われた目でデガモを見上げた。

▼デガモとミュリエル

「思いましたか、ミュリエル? さあ、帰るぞ」

「——嫌よ。帰らない。私は、貴方の人形じゃない」

「いや、お前は私の人形だよ。あの娘の記憶を埋め込む事で妙な自我が生まれてしまったのは想定外だったが、そもそもお前の人格は、私がお前を暗殺者に仕立てる為に植え込んだものだ。」

今のお前が自分の感情だと思っているものも、私に作られたものだ。お前は、私無しには何者にもなれやしない。現に、お前は自分の“元々の顔”を思い出せるか?」

「……………!!」

処理

「イヌ」のオープニングで見つかった死体の状況が示す通り、その方法は気分を害するような方法だ。そのため、本シナリオ中では詳しくは描写しない。

もし、詳細が知りたい奇特なRLがいるならば、[TND] 54pの277行目からを参照のこと。

何かのスイッチ

ムネモシュネを遠隔で切った。このため、ミュリエルに書き込まれていたルミナの意識が消え、ミュリエルの記憶と意識が戻ったのだ。

顔がドロリと溶け

流体素材で顔を変形させるサイバーウェア「サウンド・フェイス」(『OTE』94p)の効果だ。

Ⅱカーライル戦闘員

レッガートループ(7レベル)

▼設定

デガモの部下。白兵戦担当。

▼能力値

理性：9 / 11 感情：9 / 11

生命：9 / 11 外界：8 / 11

▼技能

運動、白兵 4♦♣♥◇

知覚 2♦♣♥◇

※鉄砲玉 7♦♣♥◇

※急所攻撃 2♦♣♥◇

※捨て身 2♦♣♥◇

▼装備

・全身義体：剣・改 屈：20 / 電：18
AR3。ブリンストール省略。

・白熱掌 屈：20 / 電：18

生身のダメージ種別を爆にし、+5する。

・沈黙の掟 屈：10 / 電：-

秘密を口外すると「21：頭部損傷」。

▼行動指針

優先プロット：♦♣♥◇ / AR：3

コンバトリック、JJF、白熱掌を起動。《運動》《白兵》《鉄砲玉》《急所攻撃》の組み合わせで攻撃。達成値+4、ダメージ[爆+19]。ダメージを与えたら【生命】の制御判定を強要し、失敗したらプロット1枚破壊。

《※捨て身》を組み合わせることで、ダメージに[差分値]を追加し、対決不可とする事ができる。判定後、残っているプロットを全て破壊すること。
※防(殴/刺/斬/爆)：6/4/5/7

Ⅱカーライル銃手

カプトワリトループ(7レベル)

▼設定

デガモの部下。狙撃・隠密担当。

▼能力値

理性：9 / 11 感情：7 / 11

生命：9 / 10 外界：10 / 12

▼技能

隠密、射撃、知覚 4♦♣♥◇

※クイックドロ 4♦♣♥◇

※必殺の矢 4♦♣♥◇

※天雷 4♦♣♥◇

▼装備

・武器：XM42e 屈：3 / 電：18
攻：殴+8 射：近~中 オート：2
最新式のアサルトライフル。

・デスゲイル 屈：14 / 電：15

武器オプション。武器のフルオート射撃を[射程：超遠、対象：シーン(選択)]に変更する。1回のみ。

ワークス：カーライル専用装備。

・ゴーストコート 屈：- / 電：18

防具。マイナー使用で《隠密》+3。

・沈黙の掟 屈：10 / 電：-

秘密を口外すると「21：頭部損傷」。

▼行動指針

優先プロット：♦♣♥◇ / AR：2
《射撃》《クイックドロ》《必殺の矢》

《天雷》でフルオート射撃。達成値+6。

デスゲイルの効果で一度のみ、シーン中の敵全員を攻撃対象にできる。ダメージは[殴+8+差分値]。軽減不可。
※防(殴/刺/斬/爆)：1/0/0/1

「だから、帰ってこい、ミュリエル。私が、お前を何者にでもしてやる」

◆結末

デガーモが《^{ライトハンド}腹心》を使用。長い沈黙の後、ミュリエルはデガーモが差し出した手を取る。彼女の心は、再びデガーモによって囚われてしまう。

●フェイト：半身

条件：「夢の終わり」の後、任意のタイミングで

登場：〈コネ：ミュリエル〉ほか 10

◆解説

ルミナ（≡ミュリエル）に《^{トゥルース}真実》を打ち、【ムネモシュネ】の情報を入手するシーン。

この情報を得る事で、現在のルミナの真実を知る事が出来る。《真実》を使用したタイミングで、まず【ムネモシュネ】に関する情報を渡し、その後にミュリエルのセリフが続けるといい。

◆描写1

喫茶店の扉を開くと、そこにルミナが立ちつくしている。窓に手を当て、雨の降る暗い空を見上げていた。

▼セリフ：ルミナ（≡ミュリエル）

「重い空……まるで、湖の底から水面を見上げてるみたい」

「“探偵”さん（*）……貴方に、お別れを告げなければいけない」

（※《^{トゥルース}真実》を使用した）

「（顔がドロリと溶け、能面になる）もう、貴方ならば気付いているのでしょうか？ 私は、本物のルミナじゃない。本物は、父親に売られて、実験の被検体にされて死んだ。可哀想な子。今頃、湖の底」
「私は、ルミナの人格を埋め込まれていた偽物。もう、ルミナ・フロスはどこにも居ない」

「だから、ルミナからの依頼は、もう終わり」

（『カプト』に）『カプト』……私の殺しを唯一止めた貴方なら、私を護ってくれるんじゃないかって思った。でも、そもそも私に、逃げ場なんて無かった。だから、依頼は取り消すわ。ごめんなさい」

◆描写2

（※《真実》の対象を再確認する。ルミナに対してだと明言した場合、以下の演出を追加）

一瞬、ミュリエルの顔の半分がグニャリと歪み、ルミナの顔になる。その顔は涙を流しながら、かすめる様な声で呟いた。

「『フェイト』さん、怖いよ、助けて……」

◆結末

ミュリエルは《^{インセンザブル}不可知》を使用して退場する。彼女の体がドロリと溶け、そのまま消える。

彼女を追ってムネモシュネ実験施設に向かうとクライマックスだ。

■情報項目

最初に調べられる情報は以下のとおり。

『フェイト』：ルミナ、ルミナを尾行する者

『カプト』：“フェイスレス”ミュリエル

『レッガー』：ジム・フロス

『イヌ』：身元不明の遺体

◆ルミナ・フロス

〈コネ：ルミナ〉〈社会：N○VA、ストリート〉

10 アサクサの喫茶店に勤める女性。朗らかな愛嬌があるため、彼女目当てに店に来る客も。

13 ストーカー被害に悩まされているらしい。

15 喫茶店に勤務し始めたのは最近のようだ。

20 実は、過去の記憶が曖昧であるらしい。

→【ルミナの過去】

◆ルミナを尾行するもの

〈知覚〉〈社会：ストリート〉

対決 カーライル・シンジケートの手のものだ。

→【カーライル・シンジケート】

◆ルミナの過去

〈社会：N○VA、ストリート〉〈コネ：ジム〉

15 ジムという名の父親がいるらしいが、連絡を取りあっている節はなく、ルミナも父親の事を知らないという。→【ジム・フロス】

17 アンモニア・アベニューの歓楽街でよく姿を見かけたという情報がある。しかし、本人にそんな場所に行った記憶はないようだ。

→【歓楽街のアドレス】を入手

◆“フェイスレス”ミュリエル

〈コネ：ミュリエル〉

〈社会：N○VA、北米、ストリート〉

10 カーライル・シンジケートに所属する凄腕の暗殺者（カゲ◎）。変装を得意とし、特定の顔を持たないため、“フェイスレス”と呼ばれている。→【カーライル・シンジケート】

13 現在、行方不明である。どうやら組織から逃亡を図ったらしく、カーライルも彼女の足取りを追っているようだ。

15 『カプト』と合流する予定だった場所で、虚ろな目をして彷徨う女の目撃情報があった。

→【女が目撃情報】

◆女が目撃情報

〈社会：N○VA、警察、ストリート〉

10 ホロコを手に入れる。

13 その女性とは、喫茶店のバイト、ルミナ・フロスである。最近、『フェイト』とよく行動を共にしている。→【ルミナ・フロス】

「探偵”さん”

ルミナは『フェイト』の事を名前前で呼ぶ。ここで話しているのはルミナではない、という暗示だ。

◆ジム・フロス

〈コネ：ジム〉〈社会：N◎VA、ストリート、河渡連合〉

- 10 ストリートの放浪者。酒とドラッグに溺れており、いたる所に多額の借金がある。河渡以外にカーライル系列の会社からも金を借りていた。→【カーライル・シンジケート】
- 15 自分の一人娘すら娼婦として働かせ、金ヅルにするほどのクズだったらしい。娘の名前はルミナ。→【ルミナ・フロス】

◆身元不明の遺体

〈コネ：アリー塚原〉〈社会：ストリート、警察〉

- 10 木更津湖で発見された死体。強い酸のような薬品につけられていたかのように劣化が激しく、さらにDNA攪乱剤ディスプレイターが使用されており、個人の特定はほぼ不可能。辛うじて、女性であろうという事だけが分かった。
- 13 墨田川下流の下水道を通して流れ着いたようだ。

〈社会：ストリート〉のみ

- 17 墨田川下流付近は、近年カーライル・シンジケートの勢力圏になっている。→【カーライル・シンジケート】

◆カーライル・シンジケート

〈社会：N◎VA、ストリート、警察、北米〉

- 10 N◎VAで急速にシマを伸ばしている北米マフィア。
- 13 幹部の一人であるデガーマ・ペインティを中心として、戦力増強プロジェクトが動いているようだ。→【デガーマ・ペインティ】
- 15 最近、彼らのアジトの一つに、一人の女性の遺体が運び込まれたらしい。→【アジトのアドレス】を入手

◆デガーマ・ペインティ

〈社会：ストリート、北米〉

- 15 カーライル・シンジケートの人員養成担当者（クロマク◎）。古くから、同じ北米系の組織であるヒュプノスのタタラ、“偶像繰り”ローゼンタールと結託し、サイコ・アプリケーションを多用した効率的な兵士養成を行っている。→【“偶像繰り”ローゼンタール】
- 17 最近、「ムネモシュネ」というサイコ・アプリケーションを用いた兵力増強プロジェクトを行っていたが、テスト段階で欠陥が見つかったらしく、計画は頓挫している。→【ムネモシュネ】
- 19 子飼いの部下であった“フェイスレス”ミュリエルに逃亡された。現在、彼女の行方を追っている。→【ミュリエルの追加情報】

◆“偶像繰り”ローゼンタール

〈社会：北米、企業、ストリート〉

- 14 ヒュプノスの非合法工作部隊“タナトス”の一員（タタラ◎）。サイコ・アプリケーションの開発・運用に長ける。
- 16 人の精神を、まるで実験道具、あるいは玩具のようにしか思っていない狂人。精神を弄りまわして、人間を戦闘兵器に仕立て上げるやり口が有名。
- 17 ムネモシュネというサイコ・アプリケーションを開発したが、失敗作だったらしく、落胆しているとのこと。

◆ミュリエルの追加情報

〈コネ：ミュリエル〉

- 21 ミュリエルは、デガーマの手により暗殺者に仕立てられた孤児だ（*）。過去の記憶の一切を“洗浄”され、暗殺者としての人格を刷りこまれた、自我なき殺し屋である。現在、彼女にはムネモシュネというサイコ・アプリケーションがインストールされている。

◆サイコアプリケーション「ムネモシュネ」

※デガーマの《不可触》で隠蔽されている。情報を知る人物に《真実》を使用する事で開示

神業 ローゼンタールが製作した、人間の記憶・人格・経験などを抽出し、それを他者に転写するサイコ・アプリケーション（*）。デガーマはこれを用いて、手軽に戦闘のプロを量産しようとしていた（*）。しかしテスト段階で欠陥が発覚。記憶を抽出された被験者が精神崩壊を起こして死亡してしまい、さらに得られた人格データは欠損だらけの未完成のものだった。これをインストールされると、記憶喪失のような状態になってしまう。

→【実験施設のアドレス】を入手

デガーマの手により……

もしプレイヤーの多くがシナリオ『Nothing hurts like the truth』（『TND』付属）をプレイしているのであれば、以下の情報を追加してもよい。

デガーマ・ペインティはコクーン養成所壊滅後に、サミュエル・エルロイの後釜としてN◎VAに派遣されたカーボである。

ミュリエルはコクーン養成所出身の殺し屋であり、その後デガーマに拾われて今の状態になった。

ムネモシュネ

技術的には、「ゴーストダビングシステム（『MDI』p38）」をより簡易にしたようなものになる。しかし、軌道の技術を持ってしてもゴーストダビングは相応のリスクを伴うものである。

戦闘のプロを量産

無限にコピーされたキース・シュナイダーやモードレッドを想像して頂きたい。

クライマックスフェイズ

Climax Phase

ミュリエルの洗脳

ミュリエルの洗脳には、データの根拠がある。ミュリエルには、クリサリス（[WORLD] 51p）というサイコアプリが装着されている。これは《腹心》に指定されたキャラクターにのみ効果を発揮する人格偽装アプリケーションだ。

更に、それにリトルスリーパーという洗脳アプリ（サイコアプリに装着する）が付けられており、その効果により、デガモには逆らえなくなっている。つまり、ミュリエルの洗脳を解く方法は2つ。ひとつは《腹心》を打ち消す事。もうひとつはそれらの装備のいずれかを破壊することだ。

この事は事前に RL から伝えておくとうまい。

《完全偽装》でデータを消去

これを打ち消せる適切な神業が無い場合、キャストの推奨スタイルの神業であれば打ち消せる、としてもよい。

《真実》であれば、隠した先を見つければ出せるだろう。《難攻不落》でルミナというキャラクターを護るとすれば、データは守られる。《不可触》は、《完全偽装》より先にそのデータを隠すとすれば相打ちにできるし、《制裁》なら証拠物件の差し押さえ、という演出で通してよいだろう。

他にも、プレイヤーの案で面白いものは積極的に認めるとうまい。

●顔なし女のこもりうた

◆解説

デガモ達と対決するシーン。戦闘前の描写で、「ムネモシュネの人格データの上に、新たな人格が形成されている」という事をプレイヤーに伝える事。これは、『フェイト』がルミナと触れ合う中で出来あがった、生きた記憶と人格である。

◆描写1

倉庫街の一角に偽装された施設の中。デガモが回収したムネモシュネのデータを、大型トロンプが解析している。コンソールを見つめる青年が、恍惚な表情で奇声を発した。

▼セリフ：ローゼンタール

「スゲーッ！ なんだこれ、なんだこれー！！」
「なあデガモ、見てくれよ、これ凄いは。ムネモシュネの上で、新しい人格が発生してる！！」
「確かに人間の脳は、情報の欠損を他から補おうとする習性があるけれど、まさか、欠損した人格データが、生身の経験を得る事でその欠損を補って、独自の成長を遂げるなんて」

「これ、使えるよ！ 下手すりゃ、コピーなんか目じゃない凄いや人格が作りだせるかも！！」

▼セリフ：デガモ・ベインティ

「……それは結構だが、次は実用段階に入ってから持ってきて欲しいものだ。ムネモシュネが未完成品だったせいで、俺は無駄な金と労力を使うハメになったのだからな」

「さて、どうも不法な鼠が忍び込んだらしい」

◆描写2

施設に足を踏み入れた君達の前に、ミュリエルが立ちはだかる。その姿は、もはや誰とも判別のつかぬ顔をしていた。

▼セリフ：ミュリエル

「どうして、来たの……？」

「諦めて。元々、ルミナなんて人間は存在しなかったのよ。そして、私も、そう」

「私は“フェイスレス”。顔を……自分を持たない、殺人鬼」

▼セリフ：デガモ・ベインティ

「やれやれ、お前達はカーایلを敵に回すということの意味が分かっていないようだな」

「我々はN◎VAを支配する。例え今ここから逃げのびたとしても、その先に安住の地は無いぞ」

「今ならまだ間に合うぞ？ 今まで見てきた事を忘れ、我らの王に忠誠を誓うのであれば、その身の安全は保障してる。その為の道具も提供しよう」

「ふん、恐れ知らずの小僧どもが、いいだろう。貴様らが敵に回した怪物の正体を見せてやろう。やれ、ミュリエル」

▼セリフ：ローゼンタール

『フェイト』に向かって「おやあ？ もしかしてキミが『フェイト』ってひと？ そっかー。うちのルミナがお世話になったみたいだね。彼女の“新たな”人格形成において、君に関する記憶が重要な因子になったみたいだからね」

「キミには感謝しても足りないよ！ 君のお陰で、より素敵な人間兵器が作れそうだ！！」

◆カット進行

敵は以下の通り。キャストの人数が4人の場合、トループを2体追加する。

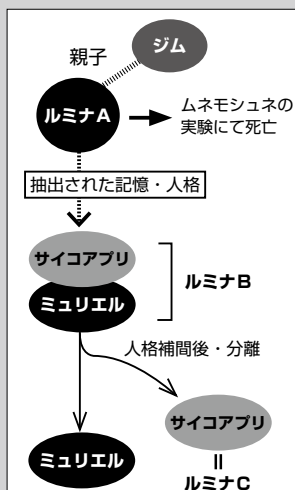
- ・ミュリエル : AR3
- ・デガモ : AR2
- ・ローゼンタール : AR2

敵は全員で1エンゲージ。キャストからは近距離の位置にいる。（トループがいる場合は、ゲストのエンゲージから離して配置すること）

戦闘終了条件は敵の全滅、あるいはミュリエルの洗脳（*）が解けた状態で他の敵を全滅させることである。

戦闘終了時、ローゼンタールは他者にムネモシュネを渡すまいと、《完全偽装》でそのデータを消去しようとする。これを打ち消さない限り、ルミナの人格をサルベージする事はできない。（*）

■注釈：ルミナ・フロスという人物



本作のヒロインであるルミナ・フロス。作中において、この名前で呼称される存在には、3種類がある。

左の図に示すように、過去に死亡したルミナAと、ルミナAから抽出された人格を転写されたミュリエル（＝ルミナB）、そして人格データが独自の成長を遂げた、アプリケーション上のデータだけの存在であるルミナC。

彼女らは、同じ姿をした別の存在であるとも解釈できるし、根底で繋がった同一の存在であるとも解釈できる。どのような解釈が真なのかに関しては、シナリオでは定義しない。

この答えは RL があらかじめ決めるのではなく、物語を進めたキャスト（プレイヤー）たちが望む形を真実とすると良い。



エンディングフェイズ

Ending Phase

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。

●フェイト：さようなら、長い眠り

ルミナ・フロス（ムネモシユネ上の人格データ）が救われたかどうかで、大きく演出が変わるだろう。キャスト達がルミナの処遇をどのようにしたのかを反映させて、シーンを描写して欲しい。

以下に示すのは、ルミナのデータをサルベージし、義体などのボディに入れる形で救った場合の演出の一例だ。

◆描写

——そこは、まるで湖の底でした。

冷たい冷たい電腦の水底に、私の意識は沈んでいました。

楽しい記憶、暖かな記憶。でも、それらは儚い夢で。この冷たい水底での孤独が、私の現実の全てでした。

もう、わたしはずっと、ここから出ることはないでしょう。……そう、思っていました。

でもその時、懐かしい声が聞こえて……わたしが水面を見上げると、そこには……。

▼セリフ：ルミナ

（目覚める）「——『フェイト』……さん」

「私を、あの冷たい湖の底から呼び起こしてくれた声は……夢じゃなかったんですね」

「怖かったです。あの暖かかった日々も、『フェイト』さんとの日常も、全部夢だった気がして……」

「でも、貴方の暖かな手が、私を引き上げてくれた」

「『フェイト』さん、ありがとう……私、帰ってこれて、本当に良かった……」

◆結末

数日後、『フェイト』がいつもの喫茶店を訪れると、いつもの様に、ルミナが風のような笑みで迎えてくれる。彼女が出すコーヒーを映して、シーンを閉じる。

●イヌ：死者に送る花束

アリー塚原と共に、今回の事件について振り返る。

▼セリフ：アリー塚原

「お疲れさま。無事、終わったみたいだね」

「今回の事件……言っちゃなんだけど、この街じゃありふれた事件よ。彼女のような被害者は、2秒に1度は生まれている」(*)

2秒に1度は……

犯罪組織が跋扈するNOVAのストリートでは、絡み取られる犠牲者も数多い。レッドエリアはもっと悲惨だ。

「私たち警察はいつだって後手後手だわ……それでも私たちは、小さな犯罪の芽を一つずつ、潰して行くしかないのね」

「貴方の働きで、死んだルミナ・フロスの魂も、少しは報われたかしら」

◆結末

『イヌ』のセリフでシーンを閉じること。

●カプト：短いお別れ

ミュリエルの生死や、ルミナの処遇がどうなったのかで、『カプト』のエンディングの演出も大きく変わってくるだろう。

ここでは、ミュリエルとルミナが分離し、尚且つミュリエルがデガーマからの支配から解放された際のエンディングの一例(*)を示す。

◆描写

房総南国際空港。君は、飛行機に乗り込むミュリエルを見送っている。

▼セリフ：ミュリエル

「ここまでの護衛、ありがとう」

「私はまだ「顔なし女」のまま。相変わらず、自分という自我を思い出せない」

「でも、自分を取り返したいと思ったその気持ちは、それだけは、紛れもない私の気持ちだから」

「世界中を旅して、いつか自分自身を見つけ出す事ができたら、またこの街に戻ってくる」

「その時は改めて、自分の本心からの感謝を、貴方に伝えようと思うわ」

「だから、今はさようなら」

◆描写

飛行機に乗り込むミュリエルに、『カプト』が何か声をかけたら、シーンを閉じること。

「カプト：短いお別れ」

この例では、ミュリエルは「自分探しの旅」に出ることになっているが、もちろんN◎VAに留まるエンディングでも構わない。

キャストがミュリエルに対して、新しい生き方を提示できた、あるいは本来の自分を思い出させる事が出来たのであれば、彼女はまた違った選択をするだろう。

●レッガー：血の収穫

音羽南海子に呼び出され、今回の事件でカーライルに打撃を与えた事を評価される。

▼セリフ：音羽南海子

「『レッガー』、カーライルの奴らに大打撃を与えたそうじゃないか。よくやったよ」

「N◎VAのストリートは今も昔も、そしてこれからも、わたしら河渡連合が支配する。分を弁えないガイジンどもには、熱い灸をすえなきゃならない」「これから、第三次アサクサ戦争はより激化するだろう。『レッガー』、アンタの力が必要になる。協力してくれるね?」

◆結末

『レッガー』の返答でシーンを閉じること。

シナリオコンセプト：顔なし女のこもりうた

●コンセプト

このシナリオを読んだ諸君は、どのような感想を抱いただろうか。「キツイシナリオだ」と思った人もいるかもしれない。「N◎VAらしい、ありふれたシナリオだ」と思った人もいるかもしれない。まさにその感覚こそが、このシナリオで目指したものである。

このシナリオは、「N◎VAのストリートらしい、スタンダードなシナリオ」をコンセプトとしている。悪徳の街の裏社会に潜む闇は大きく、絡め取られる犠牲者は数多い。ささやかな幸せが、ふとした切欠でボロボロと崩れ去ってしまう。そんな理不尽を前にして、なおスタイルを貫くキャスト達の姿は、非常に胸を打つものだ。そんなありふれたカッコいい物語の一つを紡ぎだす為に、このシナリオは書かれたのだ。

●『Nothing hurts like the truth』

このシナリオは、公式シナリオである『Nothing hurts like the truth』(ITND) 付属シナリオ1の設定を下敷きに作られている。(5年後という設定) 敵ゲストであるデガーマ・ペインティは、サミュエル・エルロイの後継者としてN◎VAに派遣されたカーボであり、「フェイスレス」ミュリエルは壊滅したコクーン養成所の出だ。(ミュリエルは〈コネ：アンヘラ〉を持っている)

テーマも、ストリートにありふれた悪意や悲劇と、それを打ち砕くキャストたち、という似通ったもの

であり、過去にプレイヤーたちがこのシナリオを遊んでいると、より楽しんでもらえるだろう。

もちろん、ストーリー上での繋がりはないため、遊んでいなくてもこのシナリオを楽しむ上での支障となりはしない。

●ふたりのヒロインの結末

ルミナとミュリエルは、同じ体と意識を共有した2人のヒロインであるとも言える。このため、『フェイト』と『カプト』の間でモチベーションの取り合いが起こってしまう可能性がある。

プレイヤー間でうまく折り合いをつけてくれるならいいが、もし揉めそうになった場合、RLは「ルミナとミュリエルは別の人間である」という事をしっかりと明示するといよい。

クライマックスシーンでも演出しているが、「ルミナという人間をサイコ・アプリケーションによって演じさせられていたミュリエル」と、「ミュリエルによって演じられる中で独自の人格を形成するに至ったサイコ・アプリケーション上のルミナ」は別の存在である、という風に伝え、それぞれのヒロインに向き合ってもらおうのだ。

もちろん、これはシナリオ解釈の1つの案ではない。プレイヤーたちが好意的に話し合った上で別の解釈をした場合、RLはそれを積極的に認めるとよいだろう。もっとも大事なのは、プレイヤー達が望み結末になったかどうかだ。

ちなみに、数回行ったテストプレイにおいては、

実に様々なエンディングが紡がれた。ある回では、「ミュリエルとルミナはもう不可分な存在だ。それにルミナを演じているミュリエルは幸せだったと思う」という意見のもと、ルミナの記憶をミュリエルに同化させていた。またある回では、オールドタイプのフェイトが、「死者は帰ってこない。ルミナの記憶は、(本物の)ルミナの元へ返してやるべきだ」と言って、ムネモシユネのデータカードを木更津湖に沈めた。どちらも、それまでキャストが紡いできた物語の結末に相応しいカッコいい選択で、他のプレイヤーやRLから喝采を持って迎えられた。

●『レッガー』のモチベーション

『レッガー』はシナリオ開始時、借金の取り立てという珍しい……というよりは面白味の無い目的で動き始める。このモチベーションのままシナリオを最後まで走り続けるのは難しいだろう。しかし、本シナリオは現在の河渡連合の最大の敵であるカーライル・シンジケートを敵に設定している。多くの『レッガー』は、目的をカーライルに打撃を与えることにシフトしてくれるだろう。

もしプレイヤーが初期の【PS】に忠実に、借金とりに固執してしまいそうな場合、カーライルの計画の真相が明らかになった時点(リサーチ最後のイベントシーン)で、【PS:カーライルの企みを演ず】に書き換えさせるといい。



「フェイスレス」ミュリエル

マネキン、カゲ○、カゲムシャ●

▼設定

「顔なし女は二人。私と、ルミナ」

デガーマの手により暗殺者としての人格・技術を植え付けられた殺し屋。ルミナの記憶・感情を植え付けられた事で自我が目覚めるも、デガーマの言葉により、再び囚われる。

▼神業

ブリーズ! □ 不可知 ■ 神出鬼没 □

▼能力値

理性: 8 / 14 感情: 0 / 14

生命: 8 / 13 外界: 6 / 11

▼技能

運動、隠密、知覚 4 ♣ ♣ ♣ ♣

白兵 6 ♣ ♣ ♣ ♣

自我 2 ♣ ♣ ♣ ♣

コネ: アンヘラ 2 ♣ ♣ ♣ ♣

※デコイ 4 ♣ ♣ ♣ ♣

※疑似人格 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※能面 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※無面目 9 ♣ ♣ ♣ ♣

※空蟬 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※完全奇襲 2 ♣ ♣ ♣ ♣

※死点撃ち 2 ♣ ♣ ♣ ♣

▼プランチ

カゲムシャ: シミュラクラム 2 レベル

〈デコイ〉成功時に使用。攻撃の対象を自分のみに変更。レベル+1回。□□□

▼武器

・モルフェウス※ 盾: 15 / 電: 12

攻: 斬+10 射: 至近 流体金属の義手。

マイナーでダメージ種別変更可。

▼サイコアプリケーション

・クリサリス 盾: 25 / 電: 25

〈隠密〉常時+2。1シーンに1回精神

ダメージを打ち消す。〈腹心〉の効果

を受けているキャラのみ有効。

・リトルスリーパー 盾: 30 / 電: 20

クリサリスに装着。デガーマに逆らう事

が出来ない。ヒュブノスのワークス装備。

▼サイバーウェア

・全身義体: B&G 盾: 25 / 電: 25

暗殺用義体。AR3。〈白兵〉+2。隠匿

15以上の埋め込み武器のダメージ+6。

・心理防壁 盾: 25 / 電: 18

〈自我〉常時+3。義体オプション。

・パロベッタ 盾: 25 / 電: 18

カット進行開始時に、リアクション宣言

のプロットを1枚追加。義体オプション。

・サウザンド・フェイス 盾: 20 / 電: 18

オートで変装のための〈隠密〉+3。

※防(隠/刺/斬/爆): 7/3/6/8

▼行動指針

優先プロット: ♣ ♣ ♣ ♣ / AR: 3

セットアップでパロベッタを使い、

リアクションプロットを1枚追加。

キャストが行う全ての攻撃を〈デコイ〉

で自分に対象を移す。その後、〈空蟬〉

あるいは〈能面〉でリアクション。

対決に成功した場合、手札から攻撃。

〈白兵〉〈死点撃ち〉〈完全奇襲〉で防

御力無視、リアクション不可、ダメー

ジ[斬+16+差分值]。プロット1

枚を捨て札にすること。プロットが無

い場合、〈完全奇襲〉は組み合わせない。

全ての判定には〈自我〉〈疑似人格〉

を組み合わせる事で達成値は+6。〈白

兵〉は更に+2。



デガーマ・ベインティ

クロマク=クロマク●●、レッガー

▼設定

「俺の兵は強いぞ。しかも低コストだ」

サミュエル・エルロイの後釜として

派遣されたカーライルのカーボ。ヒュ

ブノスと結託し、暗殺者を養成する。

▼神業

腹心 ■ 右腕の力 □ 不可触 ■

▼能力値

理性: 4 / 10 感情: 6 / 14

生命: 4 / 10 外界: 7 / 20

▼技能

交渉 4 ♣ ♣ ♣ ♣

自我 4 ♣ ♣ ♣ ♣

心理 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※子飼: カーライル銃手 7 ♣ ♣ ♣ ♣

※子飼: カーライル機銃員 7 ♣ ♣ ♣ ♣

※心機一転 4 ♣ ♣ ♣ ♣

※泰然自若 4 ♣ ♣ ♣ ♣

※帝王のオーラ 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※威圧 7 ♣ ♣ ♣ ♣

※口封じ 2 ♣ ♣ ♣ ♣

▼プランチ

クロマク: テイマー 2 レベル

〈腹心〉がプロットを消費する判定を行

う際、その行動を手札から行わせる。1

カット1回、アクト中レベル回。□□

▼装備

・ノール 盾: 10 / 電: -

任意のキャラの達成値あるいはダメージ

に±[プロット1枚のカードの数字]。

1アクトに3回まで。□□□

・ダミーパッチ 盾: 12 / 電: 15

精神ダメージを10点分吸収。

・死神の銃 盾: 11 / 電: -

射撃武器。神業で使用するため保有。

・スペシャルイズ 盾: 12 / 電: 18

〈交渉〉常時+2。

▼行動指針

優先プロット: ♣ ♣ ♣ ♣ / AR: 2

リサーチシーン中、舞台裏で〈心機

一転〉の判定を行い、カード回しを行

うとよい。

カット進行中は、基本的にはプラン

チとノールの効果によって、ミュリ

エルの行動の補助を行う。

自身で動く場合は、〈交渉〉〈帝王の

オーラ〉〈威圧〉〈口封じ〉の組み合

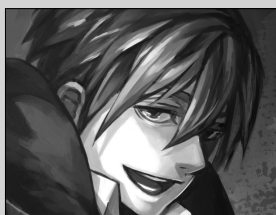
せて精神攻撃。〈自我〉組み合わせ必須、

リアクション制限: 〈交渉〉。ダメージ

は+7。達成値は+2。

ワークス: カーライル。〈右腕の力〉

は〈とどめの一撃〉として使用。



「偶像操り」ローゼンタール

カバキ●、タタラ○、クグツ

▼設定

「君、面白いね! いいサンプルになりそうだ」

ヒュブノスのタタラ。人間の精神を

調べつくし、理想の戦闘人格を造り出

そうとするマッド・サイエンティスト。

▼神業

チャイ □ タイムリー □ 完全偽装 □

▼能力値

理性: 6 / 13 感情: 4 / 12

生命: 6 / 12 外界: 5 / 11

▼技能

心理 4 ♣ ♣ ♣ ♣

製作: サイコアプリ 5 ♣ ♣ ♣ ♣

自我 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※カース 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※マニピュレーション 4 ♣ ♣ ♣ ♣

※パーソナルバリア 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※リザレクション 3 ♣ ♣ ♣ ♣

※強化兵 4 ♣ ♣ ♣ ♣

※忠誠 6 ♣ ♣ ♣ ♣

※(多生緑魔による取得) 1 ♣ ♣ ♣ ♣

▼装備

・ロイス 盾: 15 / 電: 12

絵札で判定した際、その達成値を21に。

使い捨て。ヒュブノスのワークス装備。

・多生緑魔(マスカレイド) 盾: 20 / 電: 21

オートアクションで任意のスタイルの特

技を1つ、1レベルで取得。〈アドレナ

ライズ〉など。

・トップロード 盾: 16 / 電: 13

あらゆる判定の達成値を+3。使い捨て。

▼行動指針

優先プロット: ♣ ♣ ♣ ♣ / AR: 2

多彩なサポート行動を行える。セッ

トアップで〈マニピュレーション〉

〈強化兵〉でミュリエルの防御力を+

[達成値の十の位]する。

〈マニピュレーション〉〈忠誠〉で

他者の受けるダメージを-6。クリン

ナップでは〈※リザレクション〉で[完

全死亡][精神崩壊]以外のダメージ

を治療する。目標値は15。〈マニ

ピュレーション〉を組み合わせ他者に

対して使用する事も可能。

キャストの行動には〈カース〉で妨

害。達成値を-3する。〈パーソナル

バリア〉でダメージを-[消費したプ

ロットの数字]する事も可能。

ワークス: ヒュブノス。ミュリエル

の装備している「リトルスリーパー」

は、彼が準備したもの。



シナリオ4

ニューロビート・ユビキタス

プレアクト情報

◎ ◎ ◎
Preact Info.

このシナリオについて

このシナリオは、N◎VAの世界にある程度慣れ親しみ、愛着を持っている方を対象に書かれたシナリオだ。混沌の街であるトーキョーN◎VAを愛する人に捧げるシナリオである。

なお、このシナリオは捜査ものであり、情報量が多い。気軽にサクッと楽しみたい場合、あまり向かないだろう。

■シナリオ情報

▼推奨プレイ環境

Skype、オフを推奨。

▼プレイ時間

4～6時間

▼プレイヤー人数

4人推奨

▼シナリオ傾向

捜査もの、ニューロビート、社会派

●シナリオレギュレーション

本誌に収録されているデータでの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

使用経験点：50～200点を想定

最大達成値：単独で20台後半、支援込みで30前半

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

トーキョーN◎VA。

様々な人々の欲望や信念が渦巻く、混沌の街。

N◎VAを代表する、偉大なニューロビート・アーティストの死。それは、この街のあり方を変容させる程の、巨大な事件の幕開けにすぎなかった。混沌を極める街。雲を掴む様な捜査線。事件の裏に隠された、一つの思惑。

この街の混沌を愛した男の曲は、彼の死後も街中に響き続ける。その想いを歪められて。

トーキョーN◎VA The Detonation

『ニューロビート・ユビキタス』

かくして、運命の扉が開かれる。

これは、この街を愛する人々に捧げる旋律。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●推奨スタイル

- ①『イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課
- ②『トーキー』：記者、所属は問わない
- ③『フェイト』：探偵
- ④『ニューロ』：情報屋、ハッカー

●本シナリオについて

このシナリオは、ある程度N◎VAの世界に慣れ親しんだプレイヤーを対象に書かれている。

初めてN◎VAを遊ぶプレイヤーにはあまり向かないので注意してほしい。

●必要な神業

エクスポーズ トゥールズ デウス・エクス・マキナ
《暴露》《真実》《電 脳 神》には使用想定シーンが存在する。

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、2～3個以上(*)の防御系神業が必要だ。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は、
〈社会：警察〉〈社会：メディア〉〈社会：ウェブ〉
〈電脳〉などである。(*)

必要な防御系神業

個数が確定でないのは、展開によって必要数が若干変化するからだ。

情報収集

本シナリオは情報項目の個数がやや多めである。情報収集はしっかり行えるようにキャストを組んでほしい。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。

『イヌ』→『トーキー』→『フェイト』→『ニューロ』→『イヌ』

シナリオハンドアウト

各キャストには右記の設定が追加される。キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

『イヌ』：公安4課の霧島宏充と因縁がある

『トーキー』：電龍の数少ない友人である

『フェイト』：特になし

『ニューロ』：特になし

推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：^{law-dog}“法犬” ^{きりしま ひろみつ}霧島 宏充

推奨スート：理性

ニューロビート界のカリスマ、電龍（デンタツ）が、何者かに殺害されるという事件が起きた。それを皮切りに起きる異例の混乱……暴動、集団自殺、連続失踪。ブラックハウンドでは、異例の大規模捜査が行われ、君も捜査本部に参加することになった。事件の指揮を取るのは、公安部の“法犬”霧島宏充。彼は法と秩序を重んじる厳格な人物であり、独断専行の多い機動捜査課の君とは、何度か対立したことがあった。

【PS：電龍を殺害した犯人を逮捕する】

推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：^{デンタツ}電龍

推奨スート：感情

この街を代表するニューロビートアーティスト、電龍。君は彼と交流のあった数少ない人間の一人だ。かのアマデウスに並ぶと言われるカリスマの本当の姿が、まるで巢穴の中で外敵に怯えるハリネズミのような男だという事を知っているのは、君ぐらいなものだろう。

そんな彼が死んだ。その死に謎が多い事や、街に与えた影響の大きさから、メディア業界は騒然としていた。

【PS：電龍殺害事件の真相を追う】

推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：^{こづえ み え り}梢 美恵理

推奨スート：理性

電龍殺害事件から連続して、ストリートで発生している電龍ファン達の集団失踪事件。この手の事件の後はよくある話ではある。同業のフェイト達も、それらの捜索に駆り出されていた。

しかし、君が探すべき失踪者はかなり特殊だ。電龍の恋人を名乗る盲目の女性からの依頼——「電龍を探してほしい」
死んだ人間を、どう探せて言うんだ？

【PS：電龍を探し出す】

推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“ソウル・フィクサー” 佐村 和哉

推奨スート：外界

ニューロキッズ達に多大な影響力を持っていた電龍の死は、契約企業であるCMEに大きな打撃を与えた。

丁度彼は新作の発表を間近に控えていたらしく、彼曰く「今までで最も自信のある出来」だったのだという。しかし、完成していたはずの新曲データは、行方知れなくなっていた。

失われた新曲を探しだす。それが今回の君のbizだ。

【PS：電龍の新曲を探し出す】

RL用テキスト

Text & Ruler

■ストーリー

公安4課

公安部の中でも特殊な、ブラックハウンドの内部監査機関とされているが、公式で詳細な設定はなされていない。

本シナリオでは、オリジナルの公安4課を設定している。(シナリオ終了後には、恐らく解体されるであろうが……)

ニューロビート

ニューロエイジに生まれた新たな音楽ジャンルである。詳細は「[OTE] p124 参照。

N◎V Aのニューロビート界を代表するアーティスト、電龍が、何者かに電腦を焼き殺されるという事件が起きた。熱狂的なファンが多かったカリスマの死は、街に大きな混乱を巻き起こす。

その事件の裏側には、“法犬”霧島宏充の率いるブラックハウンド公安4課(*)の暗躍があった。彼らの目的は、犯罪の抑止が効かなくなったN◎V Aから混沌を払い、秩序をもたらす事だ。

電龍はN◎V Aの混沌を象徴する様な曲を多く作ってきた。彼の作るニューロビート(*)には、人々を無意識下に、反体制的な思想に向けさせるような、洗脳の性質があった。霧島はこれを逆に利用し、N◎V Aの市民に“法を遵守する意識”を植え付けようとしたのだ。

彼らは電龍を殺されたように見せかけ、そのブレインバックを奪取し、操る事で、歪められた新たなニューロビートを作り出させた。それを「亡

き電龍が残した曲」という名目でメディアに乗せる事で、この街を変えようとしたのだ。

電龍の素顔を知る数少ない人物である『トーカー』。電龍の恋人であり、彼がまだ死んでいない事をおぼろげながらも感じ取った梢美恵理に、彼の搜索を依頼される『フェイト』。電龍のプロデューサーから、彼の新曲データのサルベージを依頼される『ニューロ』。そして、半ば公安4課の自作自演の為に設けられた電龍殺害事件の捜査本部に参加させられる事になった『イヌ』。

彼らが事件の裏側に隠された霧島たちの思惑に気づき、それを阻止する事ができれば、このシナリオは終了となる。

■クライマックスへの条件

事件の黒幕がブラックハウンド公安4課である事を突き止めたならクライマックス。

オープニングフェイズ

Opening Phase

●RLシーン：序曲

登場：キャストの登場不可

◆解説

事件の始まり。電龍が殺されるシーン（実際にはブレインバックを抜き取られるだけだが）。

◆描写

その男は、トロンに向かって無心に没入していた。電腦空間に広がるのは、数千の光の鍵盤。男が鍵盤を叩くたび、生まれるメロディ達が螺旋を描くように、曲の形を成していく。「できた……やっとできた。これこそが、僕の作りたかった曲だ……！」

満足げに男が微笑む。しかしその瞬間、男の体に電流が走った。驚きに目を見開き、そのまま倒れ込み、動かなくなる。

彼の背後に立っていた一人の男の姿が、画面に映し出される。その顔は逆光に隠れ、うかがい知れない。

「申し訳ないが、その曲は世には広まる事はありません。貴方の曲は、これからその姿を変えるのです——私たちの手によって」

◆結末

シーンの終わりに、何者かが《タイムリー》を使用する(*)。描写を終えたらシーンを閉じること。

●イヌ：踊る捜査線

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

電龍殺害事件の捜査本部が設置され、『イヌ』も捜査を開始する。事件の大きさと街の混乱を描くシーンだ。

◆描写

ブラックハウンド基地内の大会議室。そこに、異例なほどの大規模な捜査本部が設置されていた。多岐に渡る部署での、合同捜査。

指揮を取るのは、背筋の張りつめた切れ目の男。公安部の警視監……“法犬”霧島宏充だ。

▼セリフ：霧島宏充

「電龍が殺害されてから、街は混乱を極めている。各地でのファンの暴動、ストリートキッズ達の集団自殺、そして、未だ増え続けているファン達の連続失踪。速やかに、事態を鎮静化させる必要がある」「犯人の特定・逮捕、暴動の鎮静化、不穩因子の監視、失踪者の搜索、報道管制……やるべき事は多い。皆さんの奮闘に期待する。では、総員、かれ」(隊員達が散った後、『イヌ』に対して)「機動捜査課の『イヌ』巡査。今回の事件はいつになく大規模なものだ。部隊全体でのチームワークが要求される」「それは、犯人捜査のための遊撃担当である。君た

何者かの《タイムリー》

プロンプトが使用している。なお、このシーン中で電龍の脳を焼いたのは、グリア・シュワンをゴーストハッキングで操っているエステルだ。グリアは、電龍の電腦防壁の詳細を知っていたため、彼らに利用されている。

ち機動捜査課も変わらない。本部の指示を無視した
独断行動は、くれぐれも謹むよう」

「個人的には、貴方の働きには期待している」(*)

◆結末

捜査費用は1ゴールドだ。イヌが捜査に向かった
らシーン終了。

●トーキー：ブラックボックス

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

電龍と交流のあった数少ない人物である『トー
キー』に、三田茂(*)が彼の死の真相の調査を依頼
するシーン。電龍との関係性については、リサーチ
の最初のシーンで描写される事を伝えておくこと。

◆描写

君が呼び出されたマリオネットの編集部は、い
つも以上に騒然としていた。右往左往するトー
キー達。君を迎えた三田茂は胃が痛そうな顔をし
て口を開く。

▼セリフ：三田茂

「『トーキー』、よく来てくれた。お前さんに、頼み
たい事があるんだ」

「嫌というほど耳に入っているかも知れんが、電龍
が死んでからというもの、この街は大騒ぎだ」

「彼の死についての真相を調べようと、メディア中
が躍起になっちゃいるが……正直、手詰まりさ。元々
謎だらけな人物なのに、今回は警察からも管制がか
かっていて、情報が一向に入ってこない」

「『トーキー』、ヤツと顔を合わせた事があるのは、
お前さんだけなんだよ。この事件、引き受けてもら
えんかね……？」

◆結末

トーキーが依頼を受けたら、費用として1ゴール
ドを渡してシーン終了。

●ニューロ：消えた新曲

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『ニューロ』のオープニング。電龍のプロデュ
ーサーだった佐村和哉(*)から、彼が遺したはずの新
曲データのサルベージを依頼される。

◆描写

CME。かつてはアマデウス、今は電龍やメロ
ディを擁している、N◎V A最大のレコード会社
だ。CME と関わりの深い「ソウル・フィクサー」
からの依頼。デカイビズになりそうだ。

▼セリフ：佐村和哉

「ご存じの通り、数日前に起きた事件でCMEは大
きすぎる損害を受けました。電龍がCMEにもたら

す利益はあまりにも大きかった」

「損害を受けたのはCMEだけじゃない。僕も、そ
してN◎V A中の市民がそうだ……電龍は、新作の
発表を控えていたんですよ。しかも彼曰く…… “今
までで最も自信のある出来” との事でした」

「しかし、彼はその新曲を発表する前に殺されてし
まった。彼の自宅のトロンには、新曲と思しきデー
タは残されていなかった」

「既に、その新曲のプロモーションにむけて動き始
めてしまっていた……というのもありますが。何よ
り、彼にそこまで言わせるほどの新曲を、この耳で
聞けないのが耐えられないのです」

「失われた新曲の在り処を探し、サルベージをお願
いしたいのです。報酬は、CMEが保障します」

◆結末

佐村は依頼料として前金1ゴールド、成功で1プ
ラチナムを提示する。依頼を受けたらシーン終了。

●フェイト：盲目の女性

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『フェイト』が、電龍の恋人を名乗る盲目の女性、
梢 美恵理から、死んだはずの電龍の搜索依頼をさ
れるシーン。

◆描写

コン、コンと。君の事務所の扉を控え目に叩く
時代錯誤な音が聞こえる。扉を開けると、そこには
目を閉じたままの、気弱そうな女性が立っていた。
足もとに、盲導犬ドロイドを連れている。

「あ、あの…。『フェイト』さんの事務所は、こち
らでよろしかったでしょうか…？」

どうやら、客のようだ。

▼セリフ：梢 美恵理

「私は、梢 美恵理と言います。あの、信じて貰えな
いかもしれないんですが……先日殺されたという、
電龍の……恋人だった者です。」

「依頼というのは他でもありません。彼……電龍を、
探して欲しいんです」

「彼は殺されて、遺体も見つかったという話ですけ
れど。でも私には、彼が本当に死んでしまったとは思
えないんです」

「根拠……というには、乏しいかもしれないんです
けれど。彼から助けを求めるような音楽が、色んな
ところから聞こえてくる……気がするんです」

「おかしい事を言ってると思いますよね……」(*)

◆結末

依頼を受ける場合、彼女は依頼料として1ゴール
ドを置いていく。雲を掴むような話である事を演出
したらシーンエンド。

霧島の真意

霧島は今回の事件の首謀者では
あるが、純粋に「イヌ」のスタイ
ルに尊敬に似た念を持っている。

この言葉は、嘘でもあり、本心
でもあるのだ。

三田茂(みた・しげる)

報道企業マリオネットの社長。
[TND] p53 や [TNC] p66 を
参照のこと。

なお、キャストの雰囲気に関わ
らないのであれば、この役どころは
N◎V Aスボの九条などでも構わ
ない。

佐村和哉(さむら・かずや)

敏腕のフリープロデューサー。
彼はフリーだが、CME と何かと
関わりが深い。近年はメロディの
プロデューサーとして有名だ。

電龍のプロデューサーも、彼
である。詳細は[S TL] p51 や、
[OTE] p157 参照。

梢の依頼について

もし「フェイト」が彼女をいぶ
かしんだり、頭のおかしい子だと
思った場合、とりあえずは外面だ
けでも依頼を受けてもらい、後の
ち梢のリサーチをしてもらうと良
い。(電龍の本当の恋人であった
事が明らかになるからだ)

リサーチフェイズ

Research Phase

「●伝えたい想い」

このシーン中に、電龍に関するリサーチを行わせてもいい。

●トーキー：伝えたい想い

条件：リサーチの最初のシーン

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

過去回想。『トーキー』と電龍の出会いのシーン。
電龍という男の実態を描く。気弱で自信が無く臆病者な、オドオドとした男が、彼の本来の姿だ。

◆描写1

それは君が、電龍と初めて出会った時のこと。
彼が初めてインタビューに応じる、という話があった際、数いるトーキーの中から、芸能担当ではない君がわざわざ名指して選ばれたのだった。

彼の自宅は、銀行の金庫のような過剰なセキュリティに守られており、家主の元へ辿り着くだけで一苦労だった。

プロデューサーですら見た事の無いという彼の姿は、予想とは反して凡庸で、妙にオドオドした自信の無さそうな目の男だった。

▼セリフ：電龍

（『トーキー』が入室した音に）「（ピクッ）…ヒッ！！」
「あ、ああ、『トーキー』さん、か。す、すまない、出迎えに行けなくて。と、遠かっただろ……？」
「げ、幻滅、した、かな。ぼ、ぼぼ僕は、その、酷く臆病で、これだけのセキュリティがないと、その、おちつかないんだ」

（名指して自分が選ばれた理由を聞くと）「そ、その、君に憧れていたんだよ。君の映像、いつも見てる」
「君は、すごいよ。この街の、悪徳や、その、絶望を前にしても、正々堂々と立ち向かって、真実を広めて、世界を変えていく。ま、まるで、太陽だ」
「僕には、僕にはできない。せいぜい僕にできるのは、こんな安全な部屋の中で、社会への不満を、曲にし

て、ぶつけるくらいのもんだ……。臆病なんだ」
「で、でも、君の映像を見て、知ったよ。この街って、色んな人がいて、その、す、すごく、面白い、って」
「これからはさ、そ、そういうの、曲にしたいなって、思ってるんだ」

◆描写2

インタビューもひと段落ついて、君が席を立とうとしたとき、ふと、電龍が君を呼び止めた。

▼セリフ：電龍

「あ、あのさ。これは、オフレコで頼みたいんだけど……今、新曲を書いているんだ」
「今度のは、自信作、なんだ。出来上がったら……その、君に二番目に聞いてもらいたいと思う。そしたら、それを、君の手で、世に広めてくれないか？」
（一番目は誰かと聞かれると、顔を真っ赤にして）「君は、ふ、無粋、だなあ！ ……素敵な人に、出会ったんだ。こ、こんど、君にも、紹介するよ」

◆結末

彼との会話を終えたらシーンエンド。

●イヌ：法犬のスタイル

条件：【霧島宏充】についてリサーチした

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

こちらも過去回想。霧島宏充という男（本事件の黒幕）のイヌとしてのスタイルを描く。霧島宏充は法と秩序を何より重要視し、大を救うためであれば小を容赦なく犠牲にする男だ。

尚、このシーンは同時に『イヌ』のスタイルも描く事を目的としている。描写はキャストに合わせて適宜変えるとうい。（*）

「●法犬のスタイル」の描写

このシーンで描かれる過去の事件は、今回の事件とは全く関係がない事は、事前にプレイヤーに伝えておくこと。



電龍

カブキ、カリスマ◎、ニューロ●

▼設定

「どどど、どうかな、この曲……」
NOVAを代表するニューロビートアーティスト。ニューロキッズを中心に熱狂的なファンを多くもつ。
人前に姿を現さないで謎の多い人物だが、実の所、外界に怯える臆病なハリネズミのような男。“サヴァン症候群”であり、精神的に未発達な代わりに、常人には及ぶもつけない芸術的センスをもつ。

▼神業

チャイ□ 神の御言葉■ 電龍神■

▼能力値

理性：4 / 11 感情：8 / 15
生命：2 / 8 外界：7 / 14

▼技能

電龍
心理
芸術：ニューロビート
※熱狂
※メッセージ
※サブミナル
※名声
※防壁構築
※フービートラップ

▼ブランチ

カブキ：アーティスト 3レベル
クラブのカードの数字を常時+5。
ニューロ：ウィザード 3レベル
使用するカードのスイートを任意のものに変更する。アクト中レベル回。□□□

▼装備

・ブレインバック …… 脳：-/電：-
脳殻。義体自体は破壊されている。
・サヴァンII …… 脳：20 / 電：20
〈芸術：ニューロビート〉を常時+9。
・ニーモニック …… 脳：21 / 電：30
脳内メモリ。新曲データ格納。

▼行動指針

プロンプトの〈タイムリー〉により、ブレインバックを操られている。これを打ち消さなかった場合、プロンプトの〈人使い〉で戦術行動を行う。組み合わせは〈電龍〉〈芸術〉〈熱狂〉〈サブミナル〉。♣のスイート使用。達成値は+14。リアクションに〈心理〉必須。範囲に精神ダメージ+9。

◆描写

数年前の連続爆弾テロ事件での事。捜査部隊の中で、誰よりも早く犯人を追いつめた君に、上層部からのコールがかかる。

「公安の霧島警視監だ。『イヌ』 巡査、犯人は既にアーコロジ内に仕掛けられた爆弾の起爆スイッチを持っている。起動される前に、即座に犯人を射殺しろ」

しかし犯人は、小さな少年を人質に取っていた。「多くの命を犠牲にするわけにはいかない……少年ごと射殺しろ」

(※霧島に逆らって少年を助けると)

助け出した少年の服の中には、爆弾が巻きつけられていた。犯人は、人間を爆弾に仕立てたテロを楽しむ最悪の愉快犯だったのだ。

▼セリフ：霧島宏充

(事件解決後)「貴方の判断で多くの人命が救われた。一人のイヌとして、貴方に敬意を払う」

「しかし、逆に貴方の命令を無視した身勝手な判断が、多くの人を危険に巻き込む可能性があったという事……それを忘れるな」

「……一つ、尋ねてもいいか。貴方が、何故ブラックハウンドに入隊したのかを」

(答えた)「……そうか。『イヌ』、貴方の事は、覚えておく」

◆結末

彼と『イヌ』のスタイルの違いを演出し終わったらシーン閉じること。

●ニューロ：死者は歌わない

条件：『イヌ』と『ニューロ』が合流した

登場：〈社会：警察〉 15

◆解説1

『イヌ』の手引きで、ブラックハウンド基地内に収容されている電龍の遺体(義体)について調べるシーン。【電龍の遺体】^{デンタツ}に関してのリサーチを行わせること。成否の如何に関わらず、判定が終わったら描写2へと進む。

◆描写1

ブラックハウンド基地内の霊安室。そこには、殺された電龍^{デンタツ}の義体が収容されていた。

部屋に入ろうとする君達を、鑑識課のバイオロイドが制する。

▼セリフ：バイオロイド(プロンプト)

「困ります。ここは、一般人は立ち入り禁止です」

「彼の義体を調べても、何も分からないと思います。私たち鑑識課も、散々調べましたから」

(引き下がらなかった)「そこまで言うなら……少しだけです。無駄だとは思いますが」

◆解説2

判定後、エステル・コリンズが登場し、『イヌ』を諷める。彼女は『ニューロ』^{デンタツ}が電龍殺害の容疑者の一人だという。《制裁》^{パニッシュ}が使用され、『ニューロ』は今後、ブラックハウンド基地内には出入り出来なくなる。(社会戦ダメージ「5：汚名」の効果だ)

◆描写2

「貴方たち、何をしているの!」

電龍^{デンタツ}の遺体を洗う君達に突如、するどい声が浴びせられた。

▼セリフ：エステル・コリンズ

「フリーズ、そこのニューロ、即座にアウトロシなさい!」

「貴方は……機動捜査課の『イヌ』ね。私は組織犯罪課の、エステル・コリンズよ。民間人を基地内に連れこむなんて非常識じゃないかしら?」

「それによく見れば、一緒にいるのは『ニューロ』じゃないですか! 彼は容疑者の一人よ! ?」

「……まあ、数いる候補の一人でしかないですけど。でも、可能性が残っている以上、彼に捜査を手伝ってもらうなどと、もってのほかです」

「即刻、退去しなさい。『イヌ』、貴方も責任をもって見張ってなさい!」※《制裁》^{パニッシュ}を使用

◆結末

神業の効果で強制的に追い出され、シーンエンド。ちなみに、この《制裁》による社会戦ダメージは、治療しなくてもシナリオ進行上は問題無い。(*)

●トーキー：予定された死

条件：グリア・シュワンの[アドレス]に向かった

登場：〈社会：N◎VA、企業、警察など〉 10

◆解説

キャスト達がグリア・シュワンの元を訪れるシーン。グリアはエステルによりゴーストハッキングを受けており、操られている。(*)

ある程度グリアと会話をした後、そこに木崎が乗り込んで来る。木崎がグリアを逮捕しようとする、グリアは自殺を図る。

◆描写1

薄暗いラボの中、主任室と書かれた部屋に彼はいた。真昼間だというのに薄暗い部屋の中、机に座ったままの白衣姿の男。

グリア・シュワン……電龍^{デンタツ}専属の義体技師。窓からの逆光に照らされて、彼の表情は伺えない。

▼セリフ：グリア・シュワン

「何だね、君たちは」

(電龍^{デンタツ}の死について聞いた)「……もう感付かれたのか。全く、悪い事はできないものだ」

(殺したのかと問い詰められると)「最早言い逃れもできそうにない。そうだ、アイツは私が殺した」

《制裁》を治療しなくても……

電龍の遺体に関するリサーチはこれ以降行えなくなるが、この情報を得なくても他のリサーチを進める事で、電龍の遺体の秘密に辿り着く事は可能だ。この事はプレイヤーに伝えておこう。

操られている

ゴーストハッキングとは、他者の意識そのものを則るハッキング行為のこと。操られている事実はプレイヤーに伝える必要はないが、もしプレイヤーが感付き、見破ろうとした場合、《完全偽装》が使用されていることを宣言しよう。キャストがこれを打ち消そうとした場合、その前に警官隊を乗り込ませ、描写2にうつす。

キャストたちがこのシーンで起こした行動にはなんらかのボーナス(グリアが操られていた事実が明らかになる、グリアが《タイムリー》をキャストのために使う、など)をあげるべきだろう。だが、シナリオ進行上、一度グリアは逮捕される必要がある、それらの適用は逮捕後、物語の後半にすること。

「売ってからというもの、アイツは変わった。もっと良い義体技師を雇うと言いはじめた。私がいままですと、親代わりに育ててきてやったのに、あの恩知らずめ」

◆描写2

そこへ突如、数人の警官隊が突入してくる。部隊を率いている男がグリアに銃を向ける。

▼セリフ：木崎

「フリーズ。話は聞かせてもらった、グリア・シュワフン。お前は電龍殺害事件の犯人として逮捕する」
「機捜の『イヌ』か。俺は殺人課の木崎だ。俺たちより先にこいつに辿り着くとは、流石だな」
「さ、大人しくお縄になりな」

▼セリフ：グリア・シュワフン

「悪いが、私は見世物になる気は無いのでね……」

◆結末

グリアは机から銃を取り出し、こめかみに発砲する。キャストが何もしなければ、彼は死亡する。

キャストが防御神業などでそれを防いだ場合、グリアは発砲時の衝撃で気を失うが、その間に一言「電龍……」と呟く。

グリアが生き残った場合、木崎は《制裁》で「17: 逮捕令状」を与え、シーンから退場させる。(*)

●ニューロ：偽りの収束

条件：「●予定された死」の次のシーン

登場：《社会：N○VA、警察、メディア》10

◆解説

電龍殺害から始まる一連の事件が“見かけ上の”終りを告げるシーン。このシーンで、『ニューロ』は佐村から、回収された新曲データを入手する。

◆描写1

街頭モニターに、臨時ニュースが流れる。電龍殺害事件の犯人逮捕のテロップに、街ゆく人たちが釘付けになる。

▼セリフ：アナウンサー

「緊急速報です。先ほど電龍殺害事件の犯人が逮捕されました。犯人は電龍の専属義体技師のグリア・シュワフン。犯行動機は個人的な私怨であると思われています」

(グリアが死んでいる場合)「犯人は警官達が拘束しようとした寸前で自殺したとの事です」

「電龍の死後、謎の失踪を遂げていたニューロキッズ達も次々と帰還しており、事件は一応の集束を見せたようです」

◆描写2

モニターを見上げる『ニューロ』の元に、コールが入る。佐村和哉からだ。

▼セリフ：佐村和哉

「ニュースは見ていますね？ 新曲データは、犯人が持っていたようです。外部記憶端子から回収されたものが、我々の元に届きました」

「本日、電龍追悼特番にて、その新曲を配信する事が決まりました」

「貴方はこの曲を聴く権利があると思いますので、データを渡しておきます。くれぐれも、一般公開までは流出は避けてください」

(本物のデータなのかと問われると)「……曲は、彼の物に間違いありませんよ。『いつも通り』、他者には決して真似できない芸術的な作品です(少し言い淀む感じで)」(*)

◆結末

ニューロは[新曲データ]を入手する。以降、[帰ってきた失踪者][新曲データ]がリサーチ可能に。

このシーンの最後に『イヌ』は基地への帰還命令をうける。次のシーンへ。

●イヌ：首輪

条件：「●偽りの収束」の次のシーン

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

捜査本部を撤収するブラックハウンド。『イヌ』が単独でも捜査を続行しようとした場合、霧島はその行為をブラックハウンドの警官として相応しくないといい放ち、《制裁》で捜査権限を奪う。

◆描写

ブラックハウンド基地、電龍殺害事件捜査本部。そこでは、まるで事件が解決したかのように、機材の片付けや人員の撤収が行われていた。

▼セリフ：霧島宏亮

「ご苦労様でした、『イヌ』。事件は無事に解決しました。では、速やかに通常業務に戻りなさい」
(拒んだ)「貴方は何を言っている？ 終わった事件に貴重な人員を割ける程、この街は平和ではない」
(更に拒んだ)「イヌにあるまじき無秩序さ……貴方

《制裁》で退場させる

余計な事を吐かせない為だ。尚、ここでこの《制裁》を打ち消したとしても、彼はゴーストハッキングを受けていた間の記憶を失っているため、黒幕の正体は明らかにしない。

p49のグリアの設定の項目も参照のこと。

なお、ここで木崎が《制裁》を使っていると、クライマックスでの必要防御神業が1枚減る。《制裁》が残っている場合、即殺神業として使用するからだ。具体的な方法は木崎のデータを参照)

言い淀む感じで

佐村は帰ってきた新曲データに違和感を感じてはいる。しかし、その正体を明らかにできない為、強く作品を否定できないのだ。



■ 梢 美恵理

エキストラ (ミストレス◎)

▼解説

「彼……電龍は、私と同じで、どうしてもなく臆病な人なんです」

電龍の恋人。幼い頃の事故が原因で、視力を失い、脳神経不全であったため、サイバー治療も受けられなかった。ニューロエイジにおいては極めて珍しい全盲の女性。

代わりに聴覚が異常発達しており、更にウェットであるため、ニューロビートの陶酔感に惑わされることなく、電龍が曲に込めた想いを聴きとる事が出来た。

▼神業

電龍を救い出そうとするキャストに対して《ファイト!》を使用する。

はの行動はもはや暴走だ。もう一度だけ言う。速やかに通常業務に戻れ。聞けぬのであれば……」
 (※《制裁》を使用)「貴方には、ブラックハウンドの猟犬たる資格は無い」

◆結末

『イヌ』に社会戦ダメージ「18：権力剥奪」が与えられる(*)。霧島が『イヌ』から黄金のパッチをむしり取り、シーン終了。

●フェイト：隠されたメッセージ

条件：新曲データ入手後、梢美恵理を訪ねた

登場：(社会：N◎VA、メディア_{あと}) 10

◆解説1

新曲データ入手後に、梢のアドレスに向かうと発生するイベントシーン。このシーンが発生すると、自動的にクライマックスに突入するため、準備が不十分であったり、やり残したことがある場合は、先に済ませるようにプレイヤーに伝えること。

梢は自分の家にはおらず、グリーンエリアのにあるセーフハウスを訪れている。キャスト達は彼女に会いに、そこへ向かう事になる。

◆描写1

新麻布にひっそりと建つセーフハウスに、梢はいた。そこは不思議な空間だった。だだっ広い室内には音響機材だけが置いてあり、それ以外は完全に^{クローズ}電脳から隔絶されている。そして、足音一つすら体中を包み込むように響き渡る完全な音響効果を実現した造り。(*)

「ここは……私とあの人が会う時によく使っていた部屋なんです」

▼セリフ：梢美恵理

「犯人が、見つかった、そうですね。……グリアさんの話は、彼からもいつも聞いていたので、未だに信じられません」

「(新曲データを渡した)これが……彼の残した、曲。——聞いても、いいですか」

◆解説2

梢が新曲データを聞くと、データの中に何かメッセージが隠されているらしい事が分かる。これは電龍が《電脳神》で新曲データに忍び込ませたものだ。《真実》を使用する事で、隠されたメッセージの暗号を読みとき、この事件の黒幕の正体と、彼らの意図について知ることができる。(*)

◆描写2

梢は、静かに曲に耳を傾ける。曲を聞き終えた彼女は、静かに首を横に振った。
 「違います……確かにこれは、あの人が作った曲にそっくりです。でもあの人は、こんな意志を曲に込めたりしません。……こんな、無理やり人に従わせようとする様な曲を、あの人は作らない」

▼セリフ：梢美恵理

「……あれ。ちょっと待って下さい。何……?」

「何か、曲の中に隠されてる……彼の意識が混じっている……これは……暗号?」

▼セリフ：電龍(曲の中に隠されていた暗号)

「違う……こんなの、僕が作りたい曲じゃない」

「でも奴ら、無理やり僕の脳を操って……曲を作らせて……このメッセージを滑り込ませるだけで精一杯だった……」

「こ、怖いよ……でも、こんなの、放っておけない……こんな曲、世に流しちゃ、いけない。色んな人が、色んな事を考えてるから、この街は面白いんだ。皆が同じ考えを強要されたら……それは、死んでるのと同じだ……ッ!」

◆解説3

《真実》が使用されたら【事件の黒幕と、その目的】の情報を開示すること。

事件の真実に辿り着いたら、キャスト達の口を封じる為に公安4課が突入してくる。

◆描写3

突如、セーフハウスの中にだれ込んでくる無数の足音。あつという間に周囲を包囲され、全ての出口が封鎖される。手馴れた、プロの集団。

『イヌ』は見覚えがあった。それは、公安部の制圧チームだ。

外部に連絡を取ろうにも、このセーフハウスは電脳から隔絶されている。絶体絶命の状況。

▼セリフ：霧島宏充

「辿り着いてしまったか。残念だ。貴方達を排除せざるを得なくなった」

◆結末

速やかにクライマックスシーンへ。

社会戦ダメージ「18：権力剥奪」

効果は「治療されるまで、【外界】の制御値が0になる」だ。

セーフハウスの音響

電龍が梢にニューロビートを聴かせる為に作った空間だ。

電脳を通して曲を聴けない梢が、高次構造をしている本来のニューロビートに近い形で曲を聴くための設備である。

《真実》の対象

電龍本人、という扱いだ。曲を通して電龍に問いかけている演出となる。



■グリア・シュワン

エキストラ (タタラ◎)

▼解説

「頼む……電龍を、救ってやってくれんか」

電龍が幼い頃から、彼の面倒を見ていた義体技師。実親の居ない電龍の、親代わりのような存在。彼の精神発達障害の緩和のために義体処置を行っていたが、その途中、彼の中に並々ならぬ芸術センスを見出し、義体の力を持ってその能力をアシストしてきた。

▼神業

もしキャストが何らかの手段で、連行されたグリアを救う、あるいは社会戦ダメージを打ち消すなどした場合、彼は《タイムリー》をキャストの為に使用する。効果の内容や発動タイミングはプレイヤーの自由とする。

■情報項目

最初に調べられる情報は以下のとおり。

全員共通：電龍、電龍殺害事件

『イヌ』：霧島 宏充

『トーキー』：ニューロビート

『フェイト』：梢 美恵理、連続失踪事件

『ニューロ』：新曲データ

◆電龍

〈社会：N○VA、メディア、警察、ウェブ〉

08 ニューロビート界のカリスマ。新時代のアマデウスと称される程の天才。ペルソナはカリスマ。→【ニューロビート】

10 メディアに姿を現さず、交友関係も極端に狭かったため、その素性を知る者は少ない。

13 防壁構築に特化したウィザード級ニューロとしても名が通っている。

15 新曲の発表を間近にしていた。

→【新曲データ】

17 『トーキー』は、彼と面識があるらしい。

〈コネ：電龍〉

10 サヴァン症候群(*)であり、精神的に未発達。治療の為、特殊な全身義体に換装されている。

13 彼が直接交友を持っていたのは3人だけ。『トーキー』、恋人の梢 美恵理、そして専属の義体技師のグリア・シュワンだ。

→【梢 美恵理】【グリア・シュワン】

◆電龍殺害事件

〈社会：警察〉 ※他の技能では目標値+5

10 彼の死後、街は混乱を極めており、自殺者や暴動、ストリートキッズ達の集団失踪などが相次いでいる。→【集団失踪事件】

15 電龍は、彼の自宅でIANUSを焼かれて殺されていた。現在、彼の遺体はブラックハウンド基地内に収容されている。

17 防壁に特化したウィザードであった電龍の電脳を焼くなどと、並みの人間に出来ることでは無い。ブラックハウンドではウィザード級ニューロを中心に容疑者を上げている。(*)

◆“法犬” 霧島 宏充

〈コネ：霧島 宏充〉〈社会：警察〉

10 電龍殺害事件の捜査本部における指揮官。

13 ブラックハウンド公安4課の課長。階級は監視監。→【公安4課】

15 法と秩序を重んじる厳格な人間だ。

→イベント「法犬のスタイル」へ

◆ニューロビート

〈社会：N○VA、メディア〉〈コネ：佐村和哉〉

10 電脳を介して聞く、新しい形態の音楽。電子信号を含むメロディーは、聴く者に五感を超えた共感覚を与える。(IOTE) p124 参照)

12 中でも電龍の曲は、この街の混沌を象徴するような反体制的な作品が多く、ニューロキッズを中心に熱狂的に支持されている。

15 ニューロビートを聴くとき、人間の脳は電子ドラッグを使っているような陶酔感を得るため、自然と曲のメッセージに影響を受けやすくなる。このため、電龍の曲はN○VAの混沌を助長しているとも言われている。

◆梢 美恵理

〈コネ：梢 美恵理〉〈社会：N○VA、ストリート〉

10 盲目の女性。ウェット。サイバー不適症らしく、義体化治療もできないようだ。

13 視覚を失った代わりに、聴覚が異常発達している。

15 電龍と交流のあった数少ない人物の一人。彼の恋人だというのは事実。元々は彼のファンだったらしい。

17 電龍が曲に込めた想いを、ニューロビート特有の陶酔感に感わされることなく、本当の意味で聞く事が出来る数少ない人間だ。

◆新曲データ

〈コネ：佐村和哉〉〈社会：ウェブ、メディア〉

13 電龍の自宅のDAK などからは発見されなかった。

16 電龍はブレインパック内に曲のデータを保存するメモリ領域(*)を持っていたらしい。調べる為には彼の遺体に接続する必要があるが、現在彼の遺体はブラックハウンド基地内にある為、部外者では接触不可能だ。

◆グリア・シュワン

〈社会：テクノロジー〉〈コネ：電龍〉

10 電龍専属の義体技師。マンツーマンで彼の義体を調整している。

12 度々、電龍に対して不満を漏らしていたようだ。

14 電龍の電脳防壁の構築にも関わっている。彼ならば、電龍の電脳を焼く事も可能だろう。

25 電龍が幼い頃から、彼の親代わりをしていたらしく、彼が気を許す数少ない相手。最近、“人が変わったように” 電龍を目の敵にするようになった。

サヴァン症候群

知的障害をもつ代わりに、特定の分野に対して天才的な才能を発揮するものをいう。サヴァンとは「賢人」の意。

ウィザード級ニューロを中心に

その中に『ニューロ』の名前もあがっている。

曲のデータを保存するメモリ領域

ブレインパック内に「ニーモニック (IGXD) p131)」を装備して、そこに保存している。

◆連続失踪事件

〈社会：N◎VA、警察、ストリート〉

- 10 ニューロキッズたちが相次いで謎の失踪を遂げている事件。
- 13 失踪者は皆、電龍の熱狂的なファンだった。

◆電龍の遺体

〈電龍〉※イベントでのみリサーチできる

- 15 ブレインバックが完全に焼きつくされており、何のデータのな痕跡も残されていない。新曲データのサルベージなど、不可能だ。
- 20 ブレインバックに違和感を感じる。しかし、何者かの《タイムリー》が使用されているため、違和感の正体には気付けない。

◆公安4課

〈コネ：霧島 宏充〉〈社会：警察〉

- 13 対テロ対策を行う公安部の中でも、特にブラックハウンド内部の監査を行う機関。
- 15 N◎VAの治安が著しく害されるテロが起きた際、ハウンド内の各部署の取りまとめとして、霧島課長が指揮をとる事がある。
- 20 公安4課は、内部監査の為にブラックハウンドの各部署にメンバーを忍ばせている。殺人課の木崎、組織犯罪課のエステル・コリンズ、鑑識課のプロンプトなどがそうだ。
- [木崎] [エステル・コリンズ] [プロンプト]

◆木崎

〈コネ：霧島 宏充〉〈社会：警察、ストリート〉

- 11 国際警察ケルビムから出向している隊員。殺人課所属。凶悪犯罪者の手により家族を失っており、悪を憎む気持ちは人一倍強い。
- 13 標的にした犯罪者を徹底的に追いつめ、再起不能にすることから、「猛犬」と呼ばれる。
- 15 近年、その表情に疲れが目立つようになった。
- 17 電龍殺害事件の捜査本部に参加している。
- 制 スタイルはカブト●、カブトワリ、イヌ◎

◆エステル・コリンズ

〈コネ：霧島 宏充〉〈社会：警察、ウェブ〉

- 13 非常に優秀な捜査能力を持つ組織犯罪課の隊員。犯罪者をおびき寄せるための情報工作や根回し、電脳戦に長けるウィザード級のニューロである。
- 15 “法犬”霧島の理念に心酔している。
- 17 電龍殺害事件の捜査本部に参加している。
- 制 スタイルはクグツ●、イヌ◎、ニューロ

◆プロンプト

〈コネ：霧島 宏充〉〈社会：警察、テクノロジー〉

- 13 鑑識課に所属するバイオロイド。AIだ。物品の解析や装備のメンテナンス、更には捜査中の隊員のサポートなど、幅広い分野で活躍する。
- 15 その体は情報解析に特化した高性能全身義体である。
- 17 電龍殺害事件の捜査本部に参加している。
- 制 スタイルはタタラ◎●、マネキン、ニューロ

◆帰ってきた失踪者達

〈社会：N◎VA、ストリート、警察〉〈電龍〉

- 13 みな様に、電龍追悼ライブを聞きに行っていたと言っている。→ [追悼ライブ]
- 15 帰ってきてから、人が変わったように勤勉になったり、仕事に精を出したりしているらしい。職を求める者たちによって、職業安定所が飽和している。(*)
- 17 彼らの現在の脳波は、ニューロビートを聞いている時の陶酔状態に似ている。

◆新曲データ

〈コネ：電龍〉〈社会：メディア〉〈電龍〉〈芸術〉

- 10 曲調や感性、クオリティといい、電龍本人の作品といって間違いなだろう。
- 12 しかし、「今までで最も自信のある出来」という程のものだろうか……？
- 14 彼に近しいものであれば、この曲が本当に彼の残したものか分かるかもしれない。

◆追悼ライブ

〈社会：メディア、ストリート、ウェブ〉

- 15 サプライズとして、極秘ルートで手に入れたという電龍の新曲(*)が流れたらしい。
- 22 会場で、ブラックハウンド鑑識課のバイオロイド、プロンプトの姿が目撃されている。

◆事件の黒幕と、その目的

※イベント「隠されたメッセージ」にて開示

- 神業 電龍を殺した犯人は、公安4課である。正確には、彼は死んではいない。彼は義体からブレインバックを抜きとられ、プロンプトの義体内に格納され、操られ、望まぬニューロビートを作らされている。(このニューロビートは彼の《神の御言葉》である。彼と近しいものでない限り、聴いたものは洗脳を受ける)公安4課の目的は、電龍のニューロビートの洗脳的特性を利用し、N◎VA中の人々に法と秩序を遵守する意識を植え付けることだ。

動機になった失踪者達

歪められたニューロビートにより、法と秩序の遵守を意識に植え付けられた結果である。

「いいことじゃん」と思う人もいるかもしれないが、N◎VAで沢山の人々に出会った方であれば、きっとこの状態に何らかの「気持ち悪さ」を感じてもらえると思う。

電龍の新曲

「ニューロ」が手にした新曲データと同じものだ。



クライマックスフェイズ

Climax Phase

●ハンザイする秩序

◆解説

霧島たちの企みに気付いたキャスト達の口を封じる為、強襲をかけてきた公安4課と対決するシーン。梢美恵理はシーンには登場するが、戦闘からは除外される。(攻撃の対象にはならない)

霧島は『イヌ』に対して《神の御言葉》を使用し、説得しようとする。精神ダメージ「17:士気喪失」を与える(*)。これを防ぎ、霧島に返答をしたらカット進行へ。

◆描写

君たちのいるセーフハウスを襲撃してきたのは、ブラックハウンド公安部、公安4課の隊員たちだった。周囲を完全に包囲され、銃を突きつけられる。この事件の黒幕……“法犬”霧島宏充が、静かに口を開いた。

▼セリフ：木崎

「全員動くな」

▼セリフ：霧島宏充

「『イヌ』 巡査……以前から、貴方に尋ねたいことがありました。貴方は、この街の現状について、どう考えていますか？」

「増え続ける犯罪、2秒に1人は無辜の民が、心無い犯罪者の手により命を落としている。レッドエリアをうろつくストリートキッズは働く事もせずにその場の快楽に没頭し、レッガーたちは下らない勢力争いで市街を戦場に変える」

「この街の混沌は、大きくなりすぎた。『イヌ』、貴方ならば分かるだろう。この街の有様が以下に崩壊しているかということ。警察組織の本分である、“犯罪の抑止”が、そもそも成り立たなくなっている現状を」

「この街の混沌を助長してきた電龍の曲を使い、皆の心に法と秩序を植え付け、世界を正す……この街を死の病から救うには、それしかない」

「貴方もこの街を、“どうにかしなければ”と考えていたはずだ。違うか!？」

(否定した)「警察とは、街に秩序をもたらす為の機関だ。しかし、君はその在り方に混沌を選ぶというのか?」

「残念だ……だが」

「多くを救うためには、少数を切り捨てなければならぬ。申し訳ないが、貴方たちは、ここで切り捨てる。……やれ!!」

「17:士気喪失」の効果

神業で治癒するまで、戦闘に参加できない。

▼セリフ：エステル・コリンズ

「可哀想な人たち。霧島課長の崇高な理念を理解できないなんて」

「貴方たちのような身勝手な行い、まとまりのない思想が、この街を滅ぼす」

「人は社会性の生き物よ。秩序に従って生きること
を忘れたら、それはもう動物と同じだわ」

◆カット進行

敵は以下の通り。

近距離：木崎：AR3

中距離1：霧島宏充：AR2

プロンプト：AR2

中距離2：エステル：AR3

キャストは全員で1エンゲージ。中距離1と中距離2は別のエンゲージだ。キャストの戦力が十分な場合、公安4課バックアップチーム（『MDI』p82、KNIVESのオペレーターグループ相当）を20人×1グループほど追加してもよい。

戦闘終了条件は敵の全滅、あるいは無力化である。

尚、電龍を救うためには、プロンプトに対して『電脳神』などを使用し、『タイムリー』を打ち消す必要がある。（*）

▼セリフ：霧島宏充（戦闘終了後）

「……私たちを倒そうと、無駄だ。今まさに、私たちの悲願は達成される！」

◆結末

画面に、夜の街角の街頭DAKが映し出される。電龍追悼特番が流れ始めたところで、クライマックス2シーン目へ向かうこと。

●トーキョーN◎VA、愛すべき街

電龍追悼特番が始まる。CMEの手により、N◎VA中に偽りの新曲が流れる。これにより電龍が使われた『神の御言葉』の効果がN◎VAの全市民に拡大してしまう。

電龍を救っている場合、彼の真の新曲を『暴露』で割りこんで公開する事により、上記の効果を打ち消す事ができる。

◆描写1

街中から、ニューロビートが聞こえ始める。

電龍の、追悼特番が始まったのだ。彼が残した新曲と銘打たれた、偽りのニューロビートがN◎VAの街に響き始めた。

▼セリフ：電龍

『『トーキー』、こ、これが、本当の、新曲だよ』

「初めての、自信作なんだ。笑っちゃうぐらい、不器用な造りだけど、さ」

◆描写2

急に切り替わった街頭DAKに、街中の人々が怒声を上げる。だが、そこから流れ始めた音楽を聞き、その声は次第に静まっていた。

その曲は陳腐で、まるでいままでの電龍の曲とは違っていた。しかし、この街の混沌を、可能性を、人間を愛する真摯な想いが、その曲には綴られていた。

▼セリフ：街の人々

「おい、なんだこの曲……」

「電龍の新曲の最中だぞ！ 邪魔すんなよ！！」

「ていうかコレ、誰の曲？ 古臭い。今時流行んないでしょ、こんなCDな曲」

「でもさ……何だろう、この感じ」

「暖かい、曲……」

◆結末

N◎VAは再び、混沌の街へと戻る。しかし、きつと、今までとは何かが変わっているはずだ。

エンディングへ。

《タイムリー》の打ち消し

この打ち消しに対し、敵は妨害を行わない。目的の曲を作り終わらせた今、電龍は用済みだからだ。神業合戦になるのをプレイヤーが恐れた場合、この事は伝えて良い。



「法犬」霧島 宏充

ミストレス、カリスマ、イヌ◎●

▼設定

「この街の混沌は、大きくなり過ぎた」
法と秩序を何より重要視する、ブラックハウンド公安4課の課長。N◎VAに秩序をもたらそうとしている。

▼神業

ファイト！ □ 神の御言葉 ■ 制裁 ■

▼能力値

理性：7 / 21 感情：7 / 13

生命：3 / 10 外界：7 / 21

▼技能

交渉、自我 4 ♠ ♣ ♥ ♦

社会：警察 7 ♠ ♣ ♥ ♦

※鼓舞 3 ♠ ♣ ♥ ♦

※自己犠牲 4 ♠ ♣ ♥ ♦

※信念 5 ♠ ♣ ♥ ♦

※高名 9 ♠ ♣ ♥ ♦

※インタラプト 2 ♠ ♣ ♥ ♦

※最後の審判 2 ♠ ♣ ♥ ♦

※フリーズ 4 ♠ ♣ ♥ ♦

▼ブランチ

イヌ：ジャスティカー 1レベル

イヌ特技を組み合わせた攻撃のダメージ

に+ [差分値] する。□ □

▼装備

・IANUS：御霊II …… 磨：10 / 電：30

〈自我〉常時+3、精神ダメージ常時-4、

【感情】【生命】の制脚判定は自動成功。

・スケープゴート …… 磨：10 / 電：-

〈自己犠牲〉の達成値を+5。シーン中

に3回まで、同時に複数回使用した場合、

効果は重複する。

・スプートニク …… 磨：15 / 電：21

シーン1回、判定直後にオートアクションで判定の達成値を+4。

▼行動指針

優先プロット：♠ ♣ ♥ ♦ / AR：2

セットアップで〈鼓舞〉を行い、自

分のプロット1枚を木崎かエステルに

渡す。

その後は、最初のイニシアチブにて

〈※インタラプト〉〈フリーズ〉の判定

を行い、【外界】の制脚判定を強要。

失敗すると、対象はプロットを[達成

値の十の位]だけ捨てる。対象は最も

ARの高いキャスト。

ほかのゲストが精神攻撃を受けた場

合、〈自己犠牲〉を手札から行いダメー

ジを自分に移し、その後〈信念〉と御

霊の効果で9点軽減。



「ガルム」木崎

カブト●、カブトワリ、イヌ○

▼設定

「疲れたもったのさ、悪を潰し続けることに」

誰より悪を憎み、犯罪者を逮捕し続けてきた男。犯罪の増え続けるN○V Aに絶望し、霧島の計画に加担した。

▼神業

難攻不落□ とどめの一撃□ 制裁□

▼能力値

理性：7 / 13 感情：0 / 11

生命：7 / 13 外界：5 / 11

▼技能

射撃 6 ♠♥♦

白兵 4 ♠♥♦

運動、知覚 3 ♠♥♦

※ク・フレ 2 ♠♥♦

※ドレッドノート 2 ♠♥♦

※八面六臂 3 ♠♥♦

※インターセプト 3 ♠♥♦

※貫きの矢 4 ♠♥♦

※花吹雪 2 ♠♥♦

※即応態勢 2 ♠♥♦

※ハンター：レッガー 5 ♠♥♦

▼ブランチ

イヌ：マイティハンター 3レベル

〈ハンター〉の指定スタイルを変更する。

アクト中レベル回。□□

▼武器

・WiPG ※..... 恩：- / 電：20

攻：段+6 射：近 弾：60 オ：2

内蔵ガトリングガン。フルオートのみ。

・GARGOYLE..... 恩：12 / 電：17

武器を衛星とリンク。〈射撃〉常時+3。

▼装備

・全身義体：野分..... 恩：- / 電：15

AR3。武器を使用する判定達成値+2。

・ADS..... 恩：15 / 電：15

攻撃対象を自分だけに変更。シーン1回。

・シンクロファイア..... 恩：18 / 電：16

シーン中フルオート射撃のダメージ+6。

▼行動指針

優先プロット：♠♥♦ / AR：3

基本的にはアタッカーとして動く。

最初のマイナーでシンクロファイア起

動。〈射撃〉〈貫きの矢〉〈花吹雪〉〈ハ

ンター〉の組み合わせでフルオート射

撃。範囲（選択）に対して達成値+

10、ダメージ[段+19]、差分点の

防御値無視。

キャストが物理攻撃を行った場合、

〈白兵〉〈射撃〉〈インターセプト〉〈

ク・フレ〉〈ハンター〉で、[受け]と

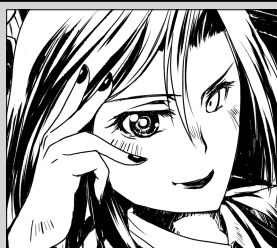
共に敵に攻撃を命中させる。

《制裁》は、社会戦ダメージ「19：

暗殺」を与える。ダメージカードに切

り札を使用して「16：斬首」。

※防（段 / 刺 / 斬 / 爆）：3/2/4/4



「エステル・コリンズ

クグツ●、イヌ○、ニューロ

▼設定

「全ては霧島課長の目指す世界の実現のため」

霧島に心酔する公安4課員。犯罪者を炙り出す為の偽装工作や情報戦、根回しに長ける。

▼神業

完全偽装■ 制裁■ 電脳神□

▼能力値

理性：9 / 18 感情：3 / 12

生命：5 / 11 外界：5 / 10

▼技能

電脳 6 ♠♥♦

交渉 3 ♠♥♦

隠密 4 ♠♥♦

※プレッシャー 2 ♠♥♦

※忠誠 6 ♠♥♦

※葉隠 8 ♠♥♦

※キープオフ 4 ♠♥♦

※私服警官 4 ♠♥♦

※パワーサージ 4 ♠♥♦

※フリップ・フロップ 4 ♠♥♦

※ボルテージリスト 4 ♠♥♦

▼ブランチ

クグツ：サムライ 2レベル

〈忠誠〉でのダメージ軽減を×2。アク

ト中レベル回。□□

▼装備

・トロン：59..... 恩：20 / 電：21

フリップ・フロップ中、AR3。

〈電脳〉常時+2。ソフトウェア5つ。

・パッシュメント・コール..... 恩：12 / 電：21

社会戦ダメージを受けている対象への攻

撃の達成値+3、ダメージ+5。

・フラッシュバースト..... 恩：15 / 電：15

使用すると、シーン中の【外界】以外の

任意の能力値+2。

・ダブルオー..... 恩：16 / 電：21

合計10点まで肉体ダメージ吸収。

※防（段 / 刺 / 斬 / 爆）：5/6/4/8

▼行動指針

優先プロット：♠♥♦ / AR：3

最初のマイナーアクションでフラッ

シュバーストを使用し、【生命】の能

力値を+2する。

メジャーアクションでは〈電脳〉〈葉

隠〉〈※プレッシャー〉を組み合わせ

た精神攻撃、あるいは〈パワーサージ〉

で攻撃する。対象には社会戦ダメージ

を受けているキャラクターを選び、達

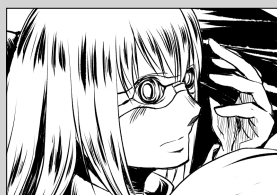
成値+5、リアクション制限：（自我）、

ダメージ+13。

受けたあらゆるダメージは〈忠誠〉

で6点軽減。ブランチを使用すれば

12点軽減できる。



「ブロンプト

タタラ●●、マネキン、ニューロ

▼設定

「無駄です。貴方たちでは、4課には勝てない」

BH 鑑識課のバイオロイド。霧島の秘書的役割もこなす。彼のボディに、電龍の脳殻が格納されている。

▼神業

タイムリー■ フリーズ!□ 電脳神□

▼能力値

理性：7 / 13 感情：6 / 13

生命：3 / 9 外界：5 / 13

▼技能

電脳 6 ♠♥♦

コネ：霧島宏充 4 ♠♥♦

コネ：電龍 2 ♠♥♦

※アドバイス 4 ♠♥♦

※パーソナルバリア 4 ♠♥♦

※タイムマジック 3 ♠♥♦

※アドレナライズ 2 ♠♥♦

※人使い 2 ♠♥♦

※ツェノンの逆理 4 ♠♥♦

▼ブランチ

タタラ：アドバイザー 2レベル

〈アドバイス〉を手札から行う。□□

▼装備

・全身義体：EXプロジェニ..... 恩：21 / 電：23

マイナー使用で〈知覚〉を〈電脳〉と同

じレベルで使用可能。〈電脳〉常時+4。

常時フリップ・フロップ状態。

タップ内蔵。ソフトウェア6つまで。

・ブレインバック..... 恩：- / 電：-

電龍のブレインバック。

・マジックワンド..... 恩：14 / 電：21

精神ダメージ、および〈パワーサージ〉

のダメージを10点まで吸収。

▼行動指針

優先プロット：♠♥♦ / AR：2

電龍が解放されていない場合、〈人

使い〉〈コネ：電龍〉で電龍を無理や

りに動かし、攻撃をさせる。〈※タイ

ムマジック〉〈コネ：霧島〉を組み合

わせれば、二人同時に手札から行動さ

せることも。

他にも、多彩な行動が行える。

〈アドバイス〉味方の達成値を+4、

〈ツェノンの逆理〉敵の達成値を-4、

〈パーソナルバリア〉仲間が受けるダ

メージを- [カードの数字]。

〈アドレナライズ〉一人のアクション

ランクを+ [達成値の十の位]。

エンディングフェイズ

Ending Phase

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。

●ニューロ：新たなる鼓動

◆解説

『ニューロ』のエンディング。CMEから報酬を受け取る。今回の事件に関して、佐村と振り返る。

◆描写

あれから、次第に事の真相が世間に明らかに
な^{デンタツ}っていき、人々は電龍の帰還を喜んでた。

報酬を受け取りに来た君を、佐村は恥ずかしそ
うな表情で迎えた。

▼セリフ：佐村和哉

「やあ、『ニューロ』。今回はご苦労様」

「どうやら今回、僕は事件の大きさに惑わされて、
自分のスタイルを見失っていたようだ。自分のセン
スが信じられなくなったら、音楽家として終わり
だっていうのにね。恥ずかしい限りだよ」

「新曲、発売が決定したよ。ただ、今までみたいな
鮮烈な曲じゃないから、爆発的な売り上げは期待で
きないと思う」

「君は、この曲をどう評価する？」

「僕は、この曲、好きだよ。心からそう思う」

◆結末

成功報酬として、1プラチナムがCMEから振り
込まれる。去り際、ふとウェブに耳を傾けると、ま
だ誰も聞いたことの無い、新たなニューロビートが
生まれる音を感じる。

『ニューロ』が演出を終えたらシーンを切ること。

●フェイト：微笑み

◆解説

電龍を探しだしてくれた事を、梢に感謝される。

◆描写

コンコンと、事務所のドアを叩く時代錯誤な音
が聞こえる。扉を開けると、盲導犬ドロイドをつ
れて、微笑みを浮かべた女性が立っていた。

お菓子の包みを君に渡ししながら、彼女は君に感
謝の言葉を告げた。

▼セリフ：梢美恵理

「『フェイト』さん、先日は、本当にありがとうございました」

「警察も、他の探偵たちも、誰も私の言葉を真に受
けてくれなかった中、『フェイト』さんだけが、私
の声を聞いてくれました。そして、あの人を助けて
くれた」

「もしよかったら、これを受け取って下さい。……
招待状です、結婚式の。彼から、プロポーズされた
んです」

「『フェイト』さんに、是非来てほしいんです」

◆結末

梢はそう言って、幸せそうに微笑む。『フェイト』
が返答を返したらシーンエンド。

●トーキー：太陽の元へ

◆解説

新しく義体換装を終えた電龍が、自分の足で（！）
君の元まで出向いてくる。

◆描写

待ち合わせのカフェテラス。君が飲みものを飲
んでいると、いかにも挙動不審な巨体の男がオド
オドと近づいてきた。ローブのような外套を頭か
ら被っていて、見るからに妖しい。

▼セリフ：電龍

「い……居たあ……」(安堵したようにへたり込む)

「や、やっぱり、外は慣れない……太陽は、ぼぼぼ、
僕には、眩し過ぎる」

「礼を、言いに来たんだ……ウェブ越しでも言える
んだろうけど……なんかさ、ちょ、直接言いに来な
いと、意味無い気がして、さ」

「君と出会えて、本当によかったよ。約束も、果た
してもらったし」

「あの曲……あ、あんまり、人気、ない、けど、ね」

「でも、いいんだ。きつと、届けたい想いは、ちゃ
んと伝達できたから」

「ま、また、出てくるよ。これからは……つ、強く、
なんなさや、いけないし、さ」(*)

◆結末

どこか誇らしげな表情の電龍に、『トーキー』が
言葉をかけたらシーンエンド。

●イヌ：災厄の都市

◆解説

いつもと変わらない、災厄の都市の、混沌とした
日々。今日も変わらず、この街は犯罪に満ち溢れて
いる。新たな事件現場に向かうパトカーの中で、千
早冴子と会話をする。

◆描写

ブラックハウンドに安息の日は存在しない。目
まぐるしく起き続ける事件。現場へと急行するパ
トカーの中で、静かに冴子課長が君に話しかけた。

強くなんなさやいけないしさ

結婚して、守るべきものができ
たから、という事だ。

強さには程遠い気はするが、彼
なりの前進には違いない。

▼セリフ：千早冴子

「結局、どちらが正しかったのかしらね」
「先日の事件。間違いなく、霧島のやった事は許されざる犯罪よ。でも、同じイヌたるもの、彼の気持ちも、分からなくもない」
「今日もこうして犯罪は絶えない。やり切れなくなることだって、多々あるわ。貴方は彼に対して、どんな信念でぶつかっていったの？」
「……私たちには、目の前の事件を一つ一つ潰していくしか、方法は無いのでしょうね」
「今回は、貴方に色々と教えられたわ」
「さ、行くわよ。貴方が選んだ今日という日よ、そのスタイル、貰いて見せなさい」

◆結末

『イヌ』は事件現場へと駆けていく。その後ろ姿を映しながら、シナリオを終了する。

シナリオコンセプト：ニューロビート・ユビキタス

●コンセプト

私なりのN◎VAへのファンシナリオ……それが、本シナリオのコンセプトだ。混沌を極めるトーキョーN◎VA。色んな考えの奴らが、それぞれの生き様を貫く街。そんなN◎VAの姿を諷えるシナリオを描きたくて、このシナリオは書かれた。

●法 vs 混沌

本シナリオの根底に流れる構図が、この「法 (low) と混沌 (chaos) の対立」というものだ。黒幕である霧島宏亮はハンドル通り法の犬であり、逆に電龍は混沌の助長者という立場で描かれている。

この対立構図はおなじみのものだ。多くの作品において、行きすぎた法と行きすぎた混沌はどちらも悪として描かれる。本シナリオでも、行きすぎた法である霧島の理念は、明確に「悪」として描かれている。

霧島はペルソナもキーマンである。彼は犯罪を憎み、法を重視する人間だ。そんな彼にとって、混沌に犯されたN◎VAは許容できないものだったのだ。彼が今回の事件で作り出そうとした世界は、誰もが法の意識に従って生きる秩序だった「平和で健全な世界」である。しかしそれは人々から自由意志を奪った、いわゆるディストピア（極端な管理社会のこと）である。そこには生き様（スタイル）を貫く人々の姿は存在しない。

逆に混沌の象徴である本シナリオのヒロイン (!) 電龍は、梢や『トーキー』との出会いで、「人の意

志や考え」などを面白く感じるようになり、人を、そしてこの街を愛するようになった男である。それは、色んなプレイヤーやキャストと出会って、N◎VAというゲームを面白く感じるようになった私の気持ちと同じものである。N◎VAを遊んできた多くの方々には、少しでも共感してもらえるのではないかなと思う

●『イヌ』について

本シナリオの主人公は『イヌ』である。それは、霧島と同じイヌでありながら、彼と対立し、止めることができる唯一の存在だからだ。彼がどんな信念をもって霧島と対立するのかが、本シナリオの肝となる部分である。

是非とも、『イヌ』のキャストを選ぶ際には、そのキャストがどのような信念を持ってイヌをしているのかを重視して欲しい。

●既存キャストでの参加

イヌ、トーキー、フェイト、ニューロ。どのスタイルも、多くのシナリオの推奨スタイルとなっているものだ。長く使い続けた愛用キャストを持っているプレイヤーも多いだろう。

長く使っているキャストというのは、色々な経験を経て、スタイルを確立してきているものだ。そういったキャストで参加してもらえると、このシナリオは非常に「らしく」なる。是非とも、既存キャストでの参加は積極的に認めるようにするといひ。

●こぼれ話：梢と電龍

本誌掲載前の元原稿でのシナリオには、梢が電龍との馴れ初めを語るシーンがあった。テストプレイの結果、シナリオの展開にあまり寄与しないなどの理由から削除したが、紙面が余ったので、ここにその内容を記しておく。

梢は視覚を失ってから、暗闇の世界への恐怖から部屋の中に閉じこもっていた。そんな彼女がDAKから流れてきた電龍の曲を聞いた時、不思議な感覚に襲われた。彼女は電龍化していなかったが、それでも他次元的構造をしたニューロビートが神経系に作用したのであろう、彼女には「音が見えた」のである。視覚を失ったはずの目に、音楽が形や色彩を伴って見えた。彼女はその音楽の虜になり、電龍の曲を聞き漁った。

梢は彼の曲を聞いて行く中で、その攻撃的な曲の中に、自分と似た「恐れ、怯え」の感情が含まれている事に気付く。彼と私は似た者同士なのではないか、と感じた梢は、電龍に会ってみたいくなり、勇気を出してメッセージを送ったのだ。

そのメッセージに電龍が返した返事はこうだった。「僕の心を見透かすアンタは一体何者だ、どんな凄腕のニューロだ、いつ僕のゴーストに潜り込んだんだ」。その返事にクスリと笑って梢は確信する。彼は自分以上に臆病ものである事を。

それから、長い不器用なやり取りを経て、二人は付き合うようになった。

アペンディックス

appendix

男はかつて、伝説のカウボーイだった。

電腦空間がまだ発展途上だった頃、彼は世界を自在に駆け巡り、幾多の防壁を溶かし、数多の情報構造体を掌握してきた特A級電腦使いだった。薄暗い部屋の中、黒い相棒に結線して意識を没入させるだけで、彼は世界の全てを手にする事が出来た。ウェブ上で、彼の名前を知らないニューロは居なかった。

時代は変わった。

今や、軍用メインフレーム級の端末がスクラップ街にゴロゴロ転がっている。昔は希少価値だった両眼使いの能力も、サイバーウェアの進で誰もが金で買えるようになった。生まれながら電腦漬けのクソガキどもが、美学もこだわりも恥ずかしげもなく、最新鋭の技術で身を固めて、かつてのウィザードたちをあっという間に追い抜いて行った。

自分の庭である電腦空間を、我が物顔で闊歩する礼儀をわきまえない若者たちに教育してやろうと、ハッキングを試みて、あっさりと返り討ちにあい、神経をスタボロに焼かれた時、彼の時代は終わった。

それでも男は、光り輝く電腦世界を忘れる事が出来なかった。すがりつくように、イントロンを繰り返した。結線中の激痛を粉らわす為、ドラッグが手放せなくなった。薬漬けの朦朧とした意識で膨大な情報を処理できるはずもなく、どんどん落ちぶれていった。閃光の様なスピードで、奔流のように流れていく時代の波は、彼はいつしかついていけなくなっていた。もう誰も、彼の名前を覚えていなかった。

やがて彼は、死ぬことを選んだ。

今でこそ一笑に付されるだろう都市伝説だが、かつてウェブでは、マトリクスの向こう側にいるとされる、電腦神の存在が実しやかに噂されていた。神経加速の限界を超えて電腦死を迎えたニューロが、その先で出会うという存在。別に信じていたわけじゃない。ただ、冷たい光の海の底で、一人で孤独に死んで行くより、少しは希望が持てる気がしたのだ。言葉の通り、神に祈るような気持ちだった。なけなしのキャッシュで、ありったけの神経加速剤を買い漁り、一気にぶち込んだ。鼻血を吹きながら、男は情報の渦の中に身を投じた。

今一度だけ、光速を超えて、時代を追い抜いて。届け、届け、と急じながら。やがて神経が焼き切れ、感覚が平坦になっていく最中、ふと、頭に声が響いた。「やあ、お困りのようだね」

神は、本当にいたのか。男はそう呟いた。

「悪いね、君の期待には応えられない。私たちは神では無い。ただの、君たちの隣人……しがない野良AIさ。今の君と同じ、世界から排斥された捨てられもの」

暖かな何かが、体に触れた気がした。抱きしめられたのだと気付くまで、時間がかった。

「私たち『幸せの青い鳥』は、君を友人として歓迎する。だから……死ぬな」

男の枯れた瞳から、一筋の涙が零れ落ちていた。



Twitter 連動企画

Follow my account

Neuro/CD -Tokyo neVA The Detonation-



■フォロー・ミー

近年、twitter というコミュニティサイト (https://twitter.com/) が TRPG のメンバー募集などのコミュニケーションにおいて、非常に大きな役割を果たしている。

当サークルも、Twitter 用のアカウントを保有しており、これを利用して購読者の方々と是非とも交流していきたいと思っている。いくつかのサービスも提供しようと考えているので、これを機にフォローして頂ければと思う。

Neuro/CD 製作委員会アカウント：@NeuroCD

●アクトメンバー募集支援

本誌収録のシナリオをオンラインで遊ぶ際の、メンバー募集の支援を行いたいと思う。

メンバー募集の旨を @NeuroCD 付きツイートして頂ければ、当アカウントがそのツイートを RT (リツイート) する。(*)

なお、当サークルメンバーがアクトを主催する予定もある。RL をする前に一度遊んでみたい、という方は是非ご参加頂ければ幸いです。

●本誌への感想

本誌収録シナリオや本誌自体に対してのご感想をお待ちしています。@ 付きツイートや DM (ダイレクトメッセージ) にてご感想を頂けた方には、特典としてシナリオを 1 本差し上げる予定です。

RT する時間帯

申し訳ないが、twitter に常時貼りついているわけではないので、RT できる時間帯には限りがある。反応には少し時間がかかる事がある。ご容赦頂きたい。

サキ=ニチャ専属モデル



“セリカ・ポーラスター” 三隅 芹佳

STYLE : Kabuki ◎, Manekin ●, Neuro ID : B AJ : 16 JENDER : ♀
REASON : 4/11 PASSION : 8/15 LIFE : 4/10 MUNDANE : 5/12

「ファッションは人を光り輝く星に変えるわ。さあ、貴方も演じましょう。理想の自分を！」

CHIHAYA、ピンク・ダイヤモンドと並び立つファッション業界の巨頭、サキ=ニチャが、満を持して発表したファッション用全身義体“夜空”シリーズ。そのプロモーションで鮮烈なデビューを果たし、ファッション業界のカリスマとして一躍、時の人となった専属モデル、それが“極星”セリカ・ポーラスターである。コンセプトモデルの義体の美しさは勿論のこと、義体の駆動系と動作アルゴリズムを完全に使いこなしたウォーキングは、「生身のモデルには実現不可能な優美さ」とまで評されている。相当な義体使いである事は間違いないが、そんな彼女自身の略歴は謎に包まれている。

そんな彼女の本当の素顔は、信じられない事に、いかにも飾り気の無い地味な女学生である。内気で影が薄く、人目を引く事が無かった彼女は、色鮮やかで堂々とした自分の理想の姿を義体の上に描き、遠隔操作で街を歩かせることで、人知れず理想の自分を演じていた。そんな時、サキ=ニチャのヘッドハンターに才能を見出され、スカウトされたのだ。義体という理想の姿の仮面を被ったニューロな自分と、地味で CD な本当の自分、その二つを行ったり来たりしている……それが、セリカという少女の姿だ。

電脳

交渉

芸術：義体ファッション

製作：コスメティック

社会：学生

社会：メディア

社会：ウェブ

社会：サキ=ニチャ

4 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

6 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

コネ：“プロムナード” ユエ

コネ：メロディ

※アートバトル

※熱狂

※マエストロ

※ボディートーク

※人使い

※ヴィジヨナリー

2 ♠ ♣ ♥ ♦

2 ♠ ♣ ♥ ♦

1 ♠ ♣ ♥ ♦

4 ♠ ♣ ♥ ♦

4 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

3 ♠ ♣ ♥ ♦

4 ♠ ♣ ♥ ♦

イデアルボディ “月” カスタム

虹 Remix “オーロラ”

フレイムフィンガー “流星”

彩

ゴーストサドル

WIZ-VII

ニューワールド

ライフパス：スマッシュヒット

Neuro/CD vol.1

オンライン対応シナリオ集、記念すべき第1弾

■ 電脳世紀のシナリオ集

インターネットを介してアクトを遊ぶ、“オンラインアクト”に対応した同人シナリオ集の第1弾。

オンラインアクト……特に、IRCなどを用いたテキストチャット形式のプレイのノウハウを記した「オンラインアクトガイド」と、その形式のアクトに適した「少人数・低ボリューム型」のシナリオ4本を収録している。（オンラインアクトガイドは、同内容のものを本誌付属のCD-R内にPDF形式で収録している）

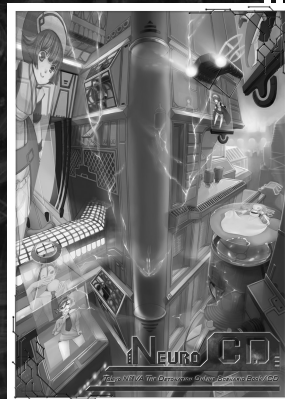
シナリオをコピー&ペーストして使えるテキストデータや、ネット上でのプレイアクトなどに利用できるシナリ

オ情報を記したHTMLなど、プレイアビリティを向上させるデータを収録したデータCD-Rも付属。

ご好評につき、既に完売。データアーカイブ版である「Neuro/CD-Archive vol.1」をCD-Rで頒布中。

■ 収録シナリオ

「ニューロエイジのかぐや姫」
「子供らに花束を」
「1,000,000人のアルファ=オメガ」
「ゴミクス達のラッドライト」



発行日：2009年8月15日
頒布価格：1000円
カバーイラスト：いわすみ

Neuro/CD vol.2

オン/オフ両用を目指したフリップ・フロップシナリオ集

■ さらなる遊びやすさを目指して

前作が、オフラインでも「あまり人が集まらなかったとき」「長い時間をかけずにサクッと遊びたいとき」などにも使えると好評だったことから、オン/オフ両用を目指してコンセプトを微調整したシリーズ第2弾。

収録シナリオも、スタンダードなものから、アストラルもの、ストーリーもの、ウェブものなど、混沌の街に相応しい個性豊かなラインナップ。テーマである「フリップ・フロップ」を意識して、4本目のシナリオは「NTW」で追加された装備、「ニューワールド」を取り扱ったものにした。

付属のCD-Rは更に強化され、オフで遊ぶ時に使えるプレイアクトシートや、情報項目カードなども収録。

ご好評につき、既に完売。データアーカイブ版である「Neuro/CD-Archive vol.2」をCD-Rで頒布中。

■ 収録シナリオ

「暴露の光 -Shiny Expose-」
「食卓のアルドラ」
「She wished only...」
「HELLO NEW WORLD」



発行日：2010年8月13日
頒布価格：1000円
カバーイラスト：いわすみ

グッバイ、ヒューマニズム

Neuro/CD 製作委員会初の、本格的同人リプレイ

■ IRCアクトで収録されたリプレイ

ニューロ/CD製作委員会が手掛けた初のリプレイ。オンライン対応シナリオ集を出してきたサークルのリプレイであるため、リプレイ収録もオンラインアクトによって行われた。

Novaを遊んだ事がない人にも、Novaの楽しさ、空気感などを感じとってもらいたいというコンセプトのもと、王道なテーマと、独特の「Novaらしいリプレイ」を忠実に再現するよう努めた。

前後編の2本立て。イラストは表紙・本文ともに、「Neuro/CD」シリーズの立役者、いわすみ氏が担当。

■ “人間性”を問う物語

電脳化と義体技術の進歩により、人間と機械の境界が曖昧になった世界、ニューロエイジ。そんな世界の中心、トーキョーNovaで、3人のキャストが、“人間性”を問われる事件に立ち向かう。

長きにわたる戦争で、生きの体と人間性をすり減らした企業工作員、ミゲル。汚職にまみれた父を憎み、正義に燃える若いウェットの警官、キョウ。そして、人間を下等生物と見下し、ひとり電脳の世界に遊ぶ幼いAI生命体、フィオリナ。「人間から疎外されたものたち」に対して、彼らが出した答えとは――？



発行日：2011年8月12日
頒布価格：800円
イラスト：いわすみ

AFTER WORD

「ウェブも随分と変わっちゃった」

「そうでもないさ。ウェブが“人と繋がる”ための世界だってことだけは、今も昔も変わらない」

—— “^{ギブス}古主義者” とシー・ディーの会話

この度は、『Neuro/CD vol.3』をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。

私事ではありますが、2年前に『Neuro/CD vol.2』を出してから今までの間に、私をとりまく環境は大きく変わりました。居住地が地方になったため、今までのように気軽に都市部に遊びに行く事が出来なくなり、インターネットの存在なくしてはTRPGを遊ぶ事自体が難しくなりました。オンラインセッションの普及を目的に企画した『Neuro/CD』シリーズではありますが、その存在意義が、私の中でより切実なものへと変化したのです。

だから、そう。この本は、私のための本であり、私と同じ境遇に立つ方々に捧げる本なのです。

TRPGをとりまく環境も、ここ数年で大きく変化したように思います。twitterの普及により、日々オンラインセッションの参加者募集が距離、交友関係を大きく飛び越えて行われており、今までのオンラインプレイで最大のネックであった「時間がかかる」という欠点はSkypeにより克服され、更にはスマートフォン、タブレット端末などの普及によって、オフラインセッションに用いられるデバイスも、デジタル化が着々と進んでいます。

本書ではその、TRPGの最先端に対応したいと考えました。オンラインプレイガイドや付属CD-Rの内容もそうですが、シナリオ自体も、今まで通りの少人数・軽量シナリオだけでなく、新たに拡がった選択肢として、オフで遊ぶ時と遜色の無いボリュームのものも収録しています。

私も散々、テストプレイでこれらのシナリオを遊びましたが、今まではとてもじゃないが重くて遊べなかったシナリオたちが、サクサクと楽しくオンラインで遊べることに感動を覚えました。

皆さんがアクトを楽しむ「今」こそが、最先端なのです。是非とも良いアクトを。この本が、その一助となれるのであれば、これに勝る幸せはありません。

それでは、また。ニューロエイジの片隅でお会いしましょう。

2012年7月15日

まだら牛 拜

STAFF LIST

▼企画・編集・DTP・その他

まだら牛

▼表紙・裏表紙イラスト

いわずみ (<http://www.geocities.jp/poteto1213/>)

▼シナリオ1：『矛盾 -Sword & Shield-』

執筆：生方一寛

イラスト：ありえすた

▼シナリオ2：『ラン・キャット・ラン』

原案：ソエジマ / 執筆：まだら牛

イラスト：トト (<http://hwm2.spaqqs.ne.jp/beyond-paradis/>)

▼シナリオ3：『顔なし女のコもりうた』

原案：仙人掌 / 執筆：まだら牛

イラスト：うろこ (<http://uroko.lovelogic.org/>)

▼シナリオ4：『ニューロビート・ユビキタス』

執筆：まだら牛

イラスト：鶴飼とおる

▼扉小説

seto_tosio、生方一寛、まだら牛

▼テストプレイ協力

ありえすた、鶴衣、くべ、紅河、こべん、助清、seto_tosio、ソエジマ、ちゃき、伏見堂、御大 将

▼スペシャルサンクス

ジニア（委託販売）

▼素材

Z-design (<http://z-design.deviantart.com/>)

青井そら

▼印刷

サンライズパブリケーション株式会社

〈敬称略〉

NEURO/CD VOL.3

Tokyo NOVA The Detonation Flip/Flop Scenario Book/CD

製作：ニューロ/CD 製作委員会

<http://dapple-ox.hp.infoseek.co.jp/nova/neurocd3/>

(m@il: dapple_ox@yahoo.co.jp)

発行日：2012.8.10

※『トーキョーNOVA The Detonation』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。



Neuro/CD vol.3 -Tokyo NOVA The Detonation Flip/Flop scenario Book/CD-